

21

22

戰略原理
下



戰術原理下卷目錄

作戦實施

總論

時集合點

營設備

第一 行軍ノ準備

イ 總論

ロ 行軍正面

ハ 行軍路線

ニ 一日行程ヲ定ムル法

NO 11458



ホ 行軍地境

ヘ 縦隊ノ編制

ト 軍糧支給法

一 倉庫及ヒ輸送ニ因ルノ法

二 軍ノ經過スル地方ノ物資ニ依ルノ法

三 倉庫ト地方ノ物資トヲ併用スルノ法

第二 行軍ノ實施

イ 行軍令

ロ 軍ノ發途

ハ 各縦隊間ノ關係

ニ 前進行軍中側面ノ警戒

ホ 退却行軍中側面ノ警戒

ヘ 軍ノ背面ニ於ケル行軍路線ノ編制

ト 地理

チ 狹隘ノ通過

第三 前進行軍ニ於ケル軍ノ騎兵

イ 總論

ロ 師團ノ行軍隊形

ハ 搜索勤務

ニ 敵兵ト會遇

ホ 徒歩戰鬥

ヘ 師團ノ戰團隊形

ト 隣縦隊ノ來接

チ 合營

リ 兵隊ノ食料

第四 退却行軍ニ於ケル軍ノ騎兵

イ 總論

ロ 師團ノ行軍隊形

第五 騎兵ノ遊撃此譯字未タ
妥當ナラス

第三章 本戰

第一 總論

第二 攻勢本戰

イ 兵力ノ用法

ロ 戰鬪正面

ハ 攻撃點

ヘ 正面攻撃

二 兩翼攻撃

三 一翼攻撃

四 正面攻撃ト一翼攻撃トノ併用

五 攻撃ノ連繫

① ニ 攻撃點ノ撰定

ホ 戰鬪序列

ハ 戰鬪中三兵ノ用法

ニ 砲兵

ハ 二 歩兵

三 騎兵

ト 戰鬪ノ指揮

チ 追撃

第三 守勢本戰

イ 總論

ロ 守勢陣地

ハ 戰鬪序列

ニ 兵隊ノ配備

ホ 陣地ノ編制

ヒ 防禦ノ指揮

ト 退却

第五部 三軍ノ教育論

第一章 總論

第二章 隊兵ノ教練

其一 學術教練

甲 演習場ノ教練

乙 戰鬪教練

其二 志氣モチノカノ練習シヨク

第三章 隊附將校ノ教練

幹部實地演習

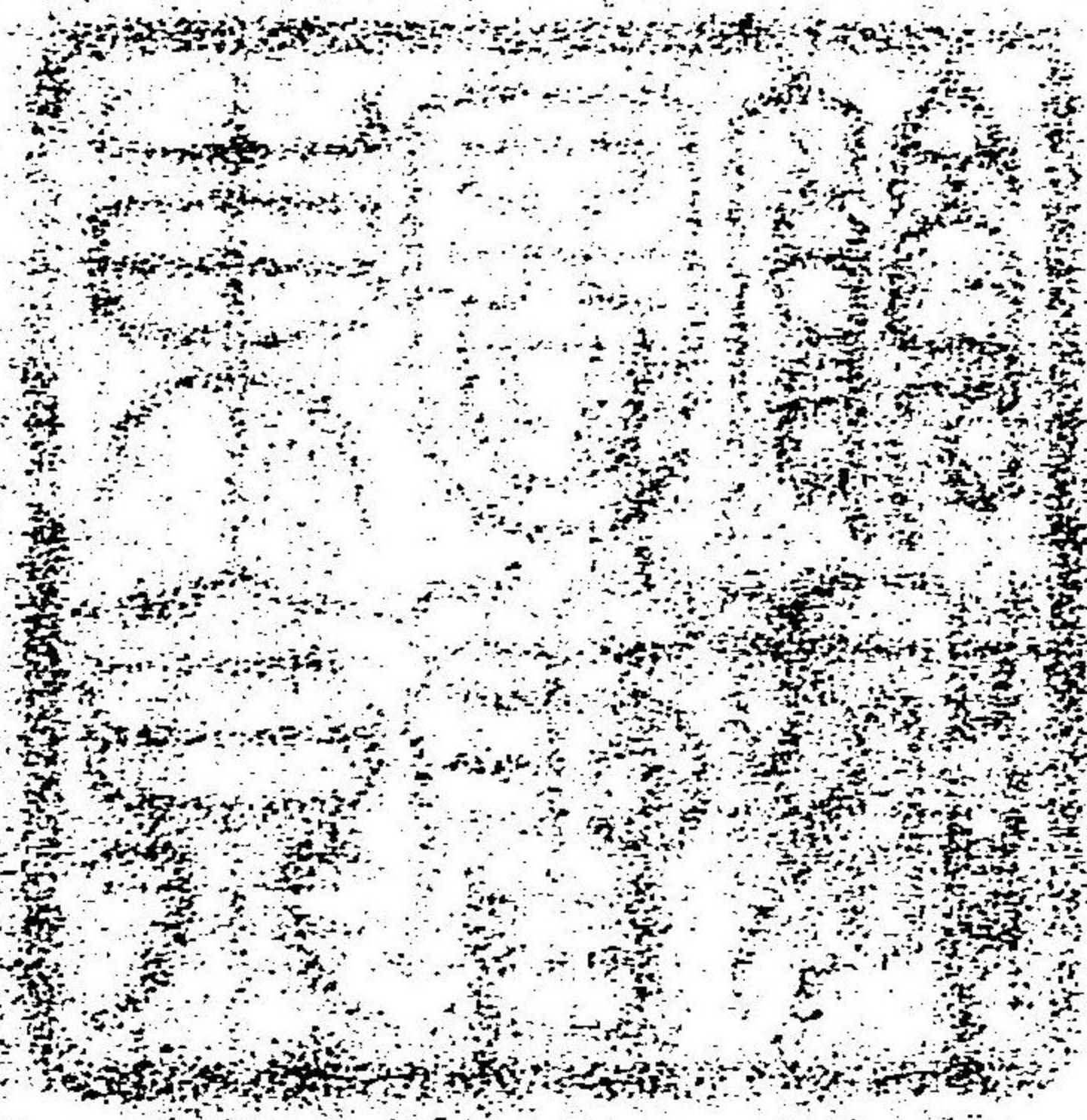
〇 第四章 參謀將校ノ教練

第五章 將官ノ教練

甲 旅團幹部演習

乙 大演習

目錄畢



戰畧原理下卷

佛國陸軍中將ベルトー原著



作戰ノ實施

舍營

總論

シタル諸原則ニ依リ以テ戰役ノ當初ニ於テ發生スル
テ説キ且此原則ニ遵據シテ軍ヲ聚中スヘキ地點ノ位

抑モ軍ハ一タヒ其動員ヲ畢リ出征ノ準備整頓スルヤ寸時ヲ失フコトナ
ク直チニ之ヲ發途セシメ且之ヲ其聚中點ニ轉輸シテ舍營ニ就カシメ
サル可ラス

舍營法中其最モ利益アル者ハ則チ頗ル宏濶ノ地表ニ軍ヲ配布シ以テ

須要ノ糧食宿舎ニ支障ナカラシムルニ在リ然レテ戰畧原理ニ依テ之
ヲ考フルニ軍ハ又敵ノ攻襲ヲ擊退スル爲メ常ニ適應ノ機會ニ於テ集
合スルノ準備ナカル可ラス是故ニ舍營地ノ廣狹ハ敵軍ノ遠近ニ應シ
且ツ假令敵軍不慮ニ攻勢運動ヲ開始スルコトアルモ我軍ハ敵ノ來着ニ
先チテ之ヲ察中シ得ル如ク算定セサル可ラス是ニ因テ敵軍近傍ニ於
テ宏濶ナル舍營ヲ設クルハ甚ダ危險ナリトス何トナレハ敵軍俄カニ
攻勢ヲ執リ我軍ノ察中動作中已ニ敵ノ爲メニ衝突セラレ各別ニ擊破
セラル、ノ不利アレハナリ

千六百七十四年十月四日佛ノ大將朱廉納ハ塊將彭爾喃維公ヲ温斯哈
木ニ於テ破リタル後莫悉格川ノ左岸ニ退キ瓦士倫納ヲ占領ス會マ伯
蘭獨堡大撰主二萬ノ援軍ヲ率ヒ斯拉斯堡ニ來テ塊軍ヲ救フ是ニ於テ
朱廉納ハ己ムヲ得ス再ヒ退テ索倫川ノ左岸ニ來リ埵德准列ト荷屈非

佃トノ間ニ舍營セリ

十一月廿九日朱廉納ハ窩士日山ヲ超ヘテ其本營ヲ魯爾京ニ移ス同盟
軍ハ佛軍ノ退却スルヲ見テ皆以爲ク明春暖和ノ候ニ至ルニアラサレ
ハ佛軍爲ス所アル能ハサルヘシト因テ大ニ冬營ヲ結ヒ索倫川ヨリ起
テ慕路斯ニ至ル迄上亞爾撒士ノ全州内ニ其兵ヲ分散シ連綿三十餘里
ニ達スル舍營ヲ布ケリ同盟軍ハ一旦敵軍ノ攻撃ニ遭ヒ急ニ其舍營地
ノ中央點例ヘハ哥爾馬ノ方ニ察中セント欲スルモ二日ヲ費スニアラ
サレハ能ハサル可ク又索倫川或ハ慕路斯ノ方ニ察中スルニハ必ス四
日ヲ要スヘシ乃チ同盟軍ノ舍營地ハ其佛軍ト相隔ルノ距離ニ比シ頗
フル廣大ニ失シタルヲ知ルナリ
時ニ朱廉納ハ新ニ援軍ヲ得其兵力四萬餘ニ上ル因テ十二月五日行進
ヲ起シ魯連州ニ面スル窩士日山ノ麓邊ニ沿フテ伯拉門巴加拉屯大耳

巴多、埃魯亞、魯美爾門ヲ經過シ二十七日伯堡ニ來ル敵軍備ヘテ爲スニ
 遑マアラス輒チ佛軍ノ破ル所トナル朱廉納ハ其一師團ヲ追フテ之ヲ
 巴亞爾ノ方ニ走ラシメ敵ノ一聯隊ヲ獲タル後チ進ンテ慕路斯ニ來ル
 時ニ同盟軍ハ毫モ佛軍ノ行進ヲ知ラス朱廉納ノ伯堡ニ來ルニ及ヒ始
 メテ其運動ノ報ヲ得タリ故ニ朱廉納ノ進退更ニ神速ナリシトキハ敵
 ノ舍營地ニ就テ之ヲ攻撃スルヲ得タルカ否ヲサルモ敵軍ノ聚中期間
 ニ乘シテ之ヲ襲撃スルヲ得其各隊ヲ各別ニ蹂躪踐破スルヲ得タリシ
 ナルヘシ然ルニ朱廉納ハ十四里ヲ行進スルニ九日ヲ費シ一月五日始
 メテ土耳其屈哈木ニ到着ス到レハ則チ同盟軍ハ盡ク其兵力ヲ聚中シ整
 然鉄克土川ノ左岸ニ布陣セリ拿破翁曰朱廉納ノ行進ハ機ニ後ル、
 六日爲メニ伯蘭獨堡公チシテ其全兵力ヲ聚中スルヲ得セシメタリト
 朱廉納ノ爲メニ之ヲ謀ルニ其行進ノ初メ富士日ノ山麓ヲ迂回スル

ナク唯其中央ヨリ此山脉ヲ超過シ而シテ聖瑪里美納或ハ勃喃米嶺ヨ
 リ進出スルルハ直接ニ敵軍ノ舍營地ヲ衝クヲ得隨テ之ヲシテ其兵力
 チ聚中スル能ハサラシムルヲ得タルナリ蓋シ朱廉納ノ作戰ハ其計畫
 完美ナリシト雖其實施ハ大ニ之ニ劣レリ

〔拿破帝ノ說〕

宏濶ナル舍營法即チ上例ノ戰役ニ於テ大撰主ノ採用シタル舍營法ノ如
 ク深長ニ過キスト雖ル千七百四十三年ニ於ケル伯魯格利公千七百五
 十七年ニ於ケル里朱疏公及ヒ千七百六十一年ニ於ケル大將伯魯格利
 等ノ採用シタル舍營法ノ如ク淺薄長延ニ過キ敵ノ突貫容易ニシテ我
 兵ノ聚中至難ナル者亦甚タ危險ナリトス
 作戰ノ初期交戰兩軍ノ聚中點ハ彼是甚シク遠隔スルヲナキテ常トス
 其故ハ前章既ニ之ヲ説ク如ク各軍ハ其鐵道ノ威力ニヨリ勉メテ邊疆

ニ近接シテ其兵力ヲ聚中スルヲ利アリトシ又各軍ノ首將モ亦敵軍ノ
 聚中期間ニ乘シテ之ヲ襲撃スルノ得策ヲ行ハント欲スレハナリ乃チ
 軍ノ聚中點ニ配備スル舍營ハ終始安全ヲ保スル能ハサルヲ知ル是故
 ニ舍營地面ハ決シテ之ヲ宏大ニス可ラス反テ勉メテ之ヲ縮小スヘキ
 ナリ又通常舍營ノ正面ハ軍ノ戰鬪正面ト甚シク相差ハサルヲ緊要ト
 ス是レ聚中ヲ行フ時我師團及ヒ軍團ハ其戰鬪陣地ニ就クニ當リ永ク
 側面行進ヲ行ハサルカ爲メナリ

故ニ軍ノ舍營ハ之ヲ縱長ニ配備シ其幅員ハ敵ノ遠近ニ應シテ之ヲ畫
 定シ以テ後尾ニ宿營スル兵隊ヲシテ常ニ適應ノ機會ニ於テ聚合點ニ
 來會スルヲ得セシムル如クスヘシ

攻勢ニ在テハ兵隊道路ノ近傍ニ於テ舍營シ其順序ハ各隊行軍縱隊ニ
 就クノ順序ニ從テ之ヲ定ム是レ發途ノ時ニ際シ無用ノ運動ヲ行ヒ無

益ノ時間ヲ費サ、ル爲メナリ

守勢軍ノ舍營ハ宜シク勉メテ之ヲ密縮スヘシ蓋シ守勢ハ攻勢ニ比ス
 レハ更ニ容易ニ敵ノ不意攻撃ニ罹ルノ虞アレハナリ

守軍ノ舍營法ハ二種ノ場合即チ進テ敵ヲ迎ヘ戰フト陣地ニ據リ敵ヲ
 待テ戰フトノ場合ニ應シテ之ヲ定ムル者トス

第一ノ場合ニ於テハ守軍ノ舍營法ハ上文攻勢ノ爲メニ説キタルモノ
 ト相異レルコトナシ

第二ノ場合ニ於テハ守軍ハ其據點タル陣地ニ跨リテ舍營ス即チ守軍
 ナニ部ニ分チ其一部ハ占領點ノ前方ニ舍營シ其一部ハ此點ノ後方ニ
 舍營ス

凡ソ舍營ハ其形狀及ヒ廣狹何如ニ論テ前哨并ニ軍ノ騎兵全部團屬
 騎兵モ亦此中ニ在リヲ以テ之ヲ警護スルヲ法トス而シテ此騎兵ハ勉

テ遠大ノ距離ニ發遣シ且軍ノ前方ニ於テ一連ノ厚幕ヲ成シ敵ノ騎兵ヲシテ決シテ此幕内ニ潛入スル能ハサラシメ却テ敵ノ騎兵ヲ驅却シテ敵地ノ内ニ侵入シ其電線及ヒ鐵道ヲ破壞シ其運輸ヲ妨害シ殊ニ敵軍駐止スルルハ其陣地ヲ偵察シ敵軍行進スルルハ其路向ヲ探索スル等ヲ以テ任務トナス

我各軍團ノ本營ハ之ヲ連絡スルニ電線ヲ以テス又敵兵攻撃ヲ企ツルニ當リ之ヲ抵禦擊退スル爲メ我軍ノ集合スヘキ地點ハ豫メ之ヲ確定スルヲ法トス

第二 集合點

舍營地ノ集合點ハ敵軍ノ來攻ニ先チテ我軍此ニ到着シ且之ヲ占領シ得ル如ク撰定セサル可ラス

之カ爲メ集合點ノ位置ハ我軍ノ前面過度ノ所例ハ前哨線或ハ舍營

ノ先頭線等ニ設ク可ラス何トナレハ敵軍若シ其騎兵ヲ以テ掩蔽スルルハ我レ彼ノ攻進ヲ發見スル丁遲キニ過キ隨テ我兵全ク集合スルニ及ハスシテ敵ハ既ニ此集合點ニ來攻スルノ患アレハナリ此ノ如キ時ニ當リテハ先キニ此地點ニ集合シタル我兵ハ忽チ衆敵ノ爲メニ挫敗セラレ又運動ヲ起シタル他ノ兵ハ行進間敵襲ニ逢ヒ逐次各別ニ擊破セララル、ニ至ル

千七百四十一年四月初煥軍ノ元帥大將紐北爾ハ上細勒西ニ入りテ普人ノ舍營ヲ襲ハント欲シ先ツ伯里格ノ圍ヲ解キ次ニ歐魯ニ向ヒ此府ノ成兵ヲ降サント欲ス九日進シテ莫爾維斯ニ到リ軍ヲ駐メテ此地ニ舍營ス

普王ハ二萬五千ノ兵ヲ聚合進シテ歐魯ヲ救フ即チ四月十日王ハ其軍ヲ五縱隊ニ分チ歐魯ニ到ル道路ヲ取リテ莫爾維斯ニ向フ普ノ縱隊此

府ヲ距ル二千歩ノ所ニ到ルニ未タ一ノ敵兵ヲ見ス王之レニ拘ハラズ
 其隊ヲ排開シ唯其前衛ノミヲシテ進ンテ莫爾維斯ニ近接セシム前衛
 此府ニ入ルニ當リ始メテ埃軍ノ府中及ヒ近傍村落ヨリ分出スルヲ望
 見シタリ蓋シ王若シ此時ニ於テ其隊ヲ駐ムルヲナク其前進運動ヲ續
 行スレハ必ス埃軍ノ不意ヲ襲ヒ敵ノ排開スルニ先タテ既ニ之ヲ擊破
 スルヲ得タルナルヘシ
 蓋シ紐北爾ハ遠ク前面ヲ監視セシメス又其軍ノ集合點ハ過度ニ前面
 ニ設置シタリ故ニ埃軍ハ普王ノ其舍營地ノ前面ニ來リ陣勢ヲ排開ス
 ルヲ見テ始メテ敵アルヲ知リ普人ノ砲火ノ下ニ在テ倉皇陣ヲ布クノ
 不利ヲ被フレリ(約美尼ノ作戰學)
 千七百四十五年春佛國ノ大將朱廉納ハ步兵七千騎兵五千ヲ率ヒテ斯
 丕爾ヨリ蒸尼河ヲ渡リ同等ノ兵力ヲ有スル埃將墨爾西伯ニ向テ行進

ス朱廉納ハ斯土德牙ヨリ涅加爾川ヲ超ヘ尋テ多伯爾川ニ轉進シテ逐
 次ニ魯頓堡默爾認泰木ヲ陷ル
 墨爾西ハ未タ一トタヒ朱廉納ノ行進ヲ支ヘス唯默爾認泰木ノ東北ニ
 日程ノ所ニ於テ其軍ヲ駐止セリ
 朱廉納ハ此府ノ周圍三里ノ所ニ於テ其兵ヲ舍營セシメタリ
 五月二日拂曉朱廉納ハ墨爾西ノ全力ヲ盡シテ攻撃シ來ルヲ聞キ急ニ
 命令ヲ傳ヘテ舍營ヲ撤シ且墨爾伯德沙森ノ村落ヲ以テ軍ノ集合點ト
 定メタリ此村落ハ默爾認泰木ヲ距ル二里ノ所ニ在テ佛軍ノ前哨線及
 ヒ墨爾西ノ進路ニ當ル故ニ其位置ハ過度ニ軍ノ前面ニ突出シ舍營本
 部ヨリ此點ニ來ルニハ一日ヲ費サ、ル可ラス此日朱廉納ノ集合シ得
 タル兵力ハ歩兵五千及ヒ其騎兵ノ一部ニ止マル即チ衆敵ノ逼ル所ト
 ナリ佛軍ハ敗走シテ非立布堡ニ退去セリ此戰ニ於テ佛軍ノ失フ所騎

兵千五百歩兵六分ノ五砲兵ハ悉ク之ヲ敵手ニ委子タリ
 拿破翁日朱廉納ノ過失ハ墨爾伯德沙森ヲ以テ其軍ノ集合點ト定メタ
 ルニ在リ蓋シ朱廉納ノ採用スヘキ集合點ハ墨爾伯德沙森ニ在ラスノ
 默爾認泰木ニ在リ何トナレハ此第一ノ地點ハ敵ノ來攻スヘキ前哨線
 上ニ在ル故之ヲ失フト最モ易ク又其第二ノ地點ハ多伯川ノ後方ニ存
 スル故敵ノ攻撃ニ露曝セサルノ利アリ朱廉納若シ此第二ノ地點ヲ採
 用セシハ佛軍ハ前者ニ比スレハ四時間夙ク其集合ヲ行フヲ得假令
 ヒ墨爾西來攻スルモ整然其陣地ヲ守リ且水流ヲ利用シテ充分ニ之ヲ
 支保スルヲ得タリシナルヘシ抑モ集合點撰定ノ規則ハ戰畧原理中頗
 ブル要重ノモノニシテ之ヲ犯スハ禍敗ヲ取ラサルヲ甚タ稀レナリ
 蓋シ舍營地ノ集合點ハ最モ敵軍ニ遠隔シテ且敵襲ヲ被ラサル所ニ於
 テ撰定スヘシ是レ則チ原理ナリ

千六百五十二年弗倫德軍^{フロンド}佛國內亂ノ時一方ノ政黨軍即ハ兵力一萬四
 千ニシテ門太爾細^{モタルシ}ノ邊ナル魯里ノ陣地ニ集合ス又王軍ハ二軍ニ分レ
 其一軍ハ朱廉納之ヲ卒ヒ他ノ一軍ハ告威孤爾^{ホツカンク}之ニ將タリ而シテ朱廉
 納ハ伯里亞爾^{ブリヤール}ニ陣シ告威孤爾ハ伯列諾^{ブレノ}ヲ占メ兩軍ノ集合點ハ伯列諾
 ノ前面ニ撰定セリ
 時ニ親王公泥^{コンデー}ハ幾安納^{ギヤンヌ}ニ在リ亂起ルヲ聞キ急ニ來テ弗倫德軍ノ元帥
 トナリ門太爾細ヲ陷レテ查多魯那爾^{シャトルナル}ニ到ル會マ王軍ハ其舍營地ニ在
 テ散在シ且朱廉納ノ軍ハ遙ニ告威孤爾ノ軍ニ遠隔スルヲ謀知シ謀ヲ
 決シテ朱廉納ノ未タ來ラサルニ乘シ告威孤爾ヲ破ラント欲シ四月六
 日ノ夜俄ニ兵ヲ進メ進襲シ突然敵ノ龍騎兵ヲ急襲シテ其守衛セル伯
 里亞爾運河ノ通路ヲ奪ヒ直ニ王軍ノ營内ニ斫入ス告威孤爾ハ龍騎兵
 ノ報ヲ待チ在リシカ俄然銃聲ノ起ルヲ聞テ敵アルヲ知レリ是時告威

孤爾ハ己ニ馬上ニ在リケレハ麾下ノ騎兵八百ヲ集メテ戰隊トナシ直
 路銃聲ノ方ニ向テ馳行シ途ニシテ公泥ノ大兵ニ遭遇セリ會マ夜暗遠
 近辨セス告威孤爾ハ敵ノ衆寡ヲ知ルニ由ナシ但奮闘襲撃スルト三回
 ノ後敵陣猶ホ堅ウシテ破レス乃チ以爲ラク衆寡隔絶シテ敵ス可ラス
 ト因テ敗軍ヲ收メテ退キタリ

朱廉納ハ公泥ノ襲撃ヲ聞クヤ直ニ其舍營ヲ撤シ即夜兵ヲ卒ヒテ伯列
 諾ニ向フ翌日天明弗倫德軍ニ會ス乃チ其兵ヲ樹林ト伯細尼也爾池ト
 ノ間ニ通スル一隘路ノ後方ニ配備シ之ニ據テ敵ノ襲撃ヲ持ツ此時朱
 廉納ノ兵力ハ僅ニ敵ノ三分一ニ過キス然レモ健闘能ク敵軍ヲ扼止シ
 以テ告威孤爾ノ餘軍ヲ率テ來リ合スルニ至レリ

蓋シ此戰ニ於テ王軍ハ其集合點ヲ過度ニ前方ニ撰定シタリ拿破翁曰
 是レ則チ其過失ナリ抑モ軍ノ警ヲ聞テ集合スル所ノ位置ハ必ス舍營

地ノ後方ニ撰定シ以テ我全軍ヲシテ敵ニ先チ此地ニ來テ集合スルヲ
 得セシメサル可ラス然ハ則チ王軍ハ伯里亞爾ト聖發爾日阿ノ間ニ於
 テ其集合點ヲ定ムヘキナリト

千八百九年埃軍ハ英川ノ右岸ニ集合シ佛軍ハ伯魯諾ヨリ斯拉斯堡及
 ヒ埃爾澗ニ至ルマテ分散セリ拿破翁ハ己ニ前章ニ於テ述ル如ク此
 形勢ノ不利ナルヲ憂ヘ參軍伯爾斐ニ命シ四月十五日ニ至ルモ埃將查
 爾其作戰ヲ始メサレハ全佛軍ノ拉室斯策ニ集中シ若シ又埃軍其運動
 ヲ始ムレハ之ヲ列克川ノ畔岸ニ聚メシム然ルニ參軍伯爾斐ハ埃軍四
 月十日ヲ以テ作戰ヲ開始シタルニ拘ハラス依然其軍ヲ拉室斯策ニ聚
 中シ又其集合點ハ舍營地ノ前面ニ撰定シ以テ重大危險ノ過失ヲ犯行
 セリ幸ニシテ拿破帝ノ機ニ投シ來援シタル故大禍ヲ免ル、ヲ得タリ

千八百十五年同盟軍ハ迷于斯坦得ノ二川間ニ在テ佛國ノ北疆ニ舍營

普軍ハ其前哨ヲ撒伯爾及ヒ迷于斯ノ二川ニ出シ而シテ佛軍攻撃ヲ行
 ナルハ其全軍ヲ遜伯列ニ集合セシト欲セリ此點ハ撒伯爾川ヲ距ル三
 里又繆魯ノ舍營セル里也日ヲ距ル十六里ノ所ニ在リ故ニ普軍ハ二日
 ヲ費スニハテサシハ其全軍ヲ集合スル能ハス
 英軍ハ其前哨ヲ查爾魯亞門斯爾納ノ線上ニ張り其集合點ハ普軍ノ
 集合點ヲ距ル二里ノ地即チ四腕村ニ撰定セリ此點ハ查爾魯亞ヲ距ル
 五里又其砲廠ハ舍營地タル坦度ヲ距ル十七里ノ所ニ在リ故ニ英軍ノ
 集合點亦三日ヲ費サル可ラス
 佛軍ハ十四日ノ夜普軍ノ前哨線ヲ距ル半里ノ所ニ舍營シ而シテ普將
 伯路折ノ拿帝ノ運動ヲ知リタルハ十五日佛軍ノ查爾魯亞ニ入りタル
 後ニ在リ英將密林登ノ如キハ十五日午後十一時ニ至リ始メテ佛軍運

動ノ報知ヲ得タルナリ

此ノ如キ形勢ニ於テ同盟軍ノ首將ハ更ニ其軍ノ後方ニ於テ集合點ヲ
 撰定セサル可ラス即チ普軍ノ集合點ハ瓦威爾ニ定メ又英軍ノ集合點
 ハ門聖約翰ニ定ムヘキナリ然ルルハ假令ヒ拿帝急遽兵ヲ進ムルモ同
 盟軍ハ已ニ其全力ヲ集合シ以テ佛軍ニ禦ルヲ得ヘケレハナリ若シ又
 依然遜伯列及ヒ四腕村ヲ以テ強ヒテ集合點トナスルハ此地點ハ極メ
 テ前哨線ニ接近スル故ニ佛軍神速ニ行進スルヲアレハ同盟軍ノ各部
 孤立シテ敵ノ攻撃ヲ受ケ其集合點ニ到ルニ先チテ逐次ニ擊破セラル
 ハノ大害アルノミ
 以上ノ諸鑒例ヲ熟察スルニ集合點ヲ過度前方ニ撰定スルルハ危險極
 メテ大ナルヲ知ルヘシ然レモ亦其位置ハ後方ニ過ク可ラス若シ後方
 ニ過クルルハ我軍此ニ到ルニ迂遠ノ運動ヲ行ハサルヲ得ス然ルルハ

此運動ハ退軍ニ類シ大ニ志氣ヲ沮損シ殊ニ無益ニ時間ヲ費消スルノ大患アリ

是ニ由テ之ヲ觀ルニ舍營ノ集合點ハ假令ヒ敵ノ急襲アルモ我軍必ス之ニ先テ此點ニ集合スルヲ得且之カ爲メ無益ニ時間ヲ費消セサル如ク之ヲ撰定スルヲ肝要トス

蓋シ集合點ノ位置ヲ定ムルニハ我軍極メテ不利ノ形勢ニ在ルモノト想像シ以テ之ヲ畫定スヘシ之カ爲メ敵軍ノ攻勢運動ハ彼レ進ンテ我前哨ノ近傍ニ來リタル時我軍始メテ之ヲ發見シタリト想像スヘシ我軍一タヒ敵ノ運動ヲ發見スルヤ直ニ命令ヲ下シテ舍營ヲ撤シ且兵隊ヲ集合ス此時敵軍ハ來テ我前哨線ニ觸レ前哨線ハ之ニ抗抵シテ攻撃隊形ヲ執ラシメ且其兵力ヲ展開セシム故ニ敵ノ行進ハ漸ク遲滯シ我兵隊ノ舍營ヲ出テ、集合點ニ赴ク如キノ速度ヲ有スル能ハス故ニ

若シ集合點ヲ前哨線ト舍營後尾トノ中間ニ定ムルハ我軍敵ニ先チテ此點ニ集合スルヲ得ヘシ然レモ亦未タ以テ確實ナリトスルニ足ラス何ントナレハ雜沓混亂ノ際命令ノ傳達及實施遲緩錯誤ノ弊アルヲ免レス或ハ我前哨ノ抗抵力不充分ニシテ時期ニ先チ敵ノ破裂スル所トナルヲ保セサレハナリ况ヤ此ノ如キノ時ニ際シ我集合運動ハ確實ノ如クナル能ハサルヲ常トスルニ於テヤ故ニ宜シク不慮ノ事變集合ノ遲滯ヲ生スヘキノ原由ヲ豫算シテ此點ヲ撰定スヘキナリ是ニ由リ之ヲ觀レハ集合點ハ上ニ定メタル者ヨリモ更ニ少シク之ヲ後方ニ置クヲ要シ舍營ノ先頭ヨリ後尾ニ至ルノ中央ニ於テ之ヲ定ムルヲ利アリトス

第三 舍營ノ設備

軍ハ其集合點ニ集合シ以テ敵ノ攻撃ヲ待ツ是ヲ以テ集合點ハ防禦性

質ヲ具ヘサル可ラス更メテ之ヲ言ハハ適當ナル防禦ヲ成サハル可ラ
 ス故ニ軍ノ集合點ハ水流ノ後方高地等ノ防禦陣地ニ設置スヘキナリ
 然ルニ前哨線ノ後方ニ在ル土地ヲ前後ニ等分スヘキ堅固ノ防禦陣地
 ナ得ント欲スルモ通常之ヲ得ル能ハサルヘシ故ニ舍營ノ設備ハ其集
 合點ノ撰定ニ從屬シ舍營ノ地界ヲ畫定スルニ當テハ第一ニ軍ノ集合
 スヘキ防禦線ヲ撰擇セサル可ラス此地點一タヒ定マレハ始メテ其前
 方及ヒ後方ニ舍營ヲ配賦シ勉メテ之ヲ等分スル如クスヘシ
 守勢ニ在テハ集合點ハ自ツカラ定マルモノナリ何トナレハ敵軍ノ攻
 撃ヲ坐待スル爲ノ撰定スル陣地ハ即チ集合點ナレハナリ
 此他舍營ノ設備ヲ完全シ且百般不時ノ事變ニ應スルヲ得ント欲スレ
 ハ我聚中期間ニ於テ發生スヘキ敵軍ノ襲撃ヲ慮ラサル可ラス蓋シ之
 ナ防クニハ既ニ第三都第一章ニ於テ説述シタル如ク軍ノ背後ニ於テ

一ノ陣地ヲ撰定シ一旦事アルニ當リテハ適應ノ機會ニ於テ軍ヲ此點
 ニ聚中スヘキナリ

第二章 行軍

第一 行軍ノ準備

イ 總論

前章既ニ説示シタル如ク作戰ノ實施ハ神速果敢ナラザル可ラス故ニ
 軍ハ其聚中運輸ヲ畢レハ直ニ策線ニ上リ我撰定シタル敵陣ノ一點即
 チ攻撃點ニ向ヒ勉メテ神速ニ行進セサル可ラス

軍ハ此運動ヲ行フニ單一ノ道路ヨリスル能ハス其故ハ若シ一條ノ道
 路ヨリ行進スル片ハ縱隊ノ長サ度ニ過キ且行軍ハ極メテ艱難遲徐ト
 ナルヲ免レス加之一旦攻撃ヲ受クルニ當リテ適應ノ機會ニ於テ其隊
 ヲ展開スル能ハス遂ニ混亂敗走スルニ至ルヘケレハナリ

故三軍ハ數條ノ道路ヨリノ行進セサル可ラス馬爾門ノ説又之ヲ能ス
 ヘキ片ハ勉メテ數隊ニ區分スルヲ要ス但シ各隊ノ兵力ハ過度ニ減殺
 ス可ラス陣中軌典蓋シ軍ヲ數縱隊ニ區分スルハ兵卒ノ疲勞ヲ減省シ
 以テ運動ヲ迅速ニスルノ最良法ナリ何トナレハ縱隊ノ數多ケレハ隊
 形深長ニ過クルヲ免カレ行軍更ニ迅速ナルヲ得行程自ツカラ伸長シ
 舍營ヲ設備スル最モ神速ナリ又此縱隊ヲ以テ庇掩スル地面極メテ宏
 大ナルヲ得隨テ兵隊ニ要スル糧食宿舍ハ決シテ欠乏ヲ告クルノ憂ナ
 ケレハナリ

敵軍ヲ距ル遠キ片ハ駐止舍營スルニ行軍隊形ヲ探リ而シテ次日又同
 隊形ヲ以テ途ニ就クヲ得ヘシ然ル片ハ縱隊ノ各部皆ナ同一ノ距離ヲ
 行キ且ツ其運動ハ全ク前進或ハ後退ノミニ用フルヲ得ルナリ故ニ此
 行軍程ハ之ヲ充分ニ延伸シテ其最大限ニ至ラシムルヲ得即チ兵卒過

度ニ疲勞スルトナクシテ行進シ得ヘキ最大距離ニ至ラシムルヲ得ル
 たり

然レハ敵軍ノ近傍ニ於テスル行軍ハ復々然ルヲ得ス蓋シ此時ニ在テ
 ハ軍ハ常ニ敵ノ不意襲撃ニ備ヘサル可ラサレハナリ故ニ兵隊ハ復々
 縱隊ヲ以テ舍營スル能ハス其舍營ハ必ス狹窄ノ地表ニ布設シ以テ一
 旦變アルニ當リテハ機會ヲ失フトナク集合陣地ニ集合スルヲ得セシ
 ム即チ各隊ヲシテ毎日行軍ノ極點同一ノ次舍地ニ到着セシヤヘシ此
 時ニ於テハ運動ノ時間ハ分テ二部トナス即チ縱隊全長ノ通過ニ要ス
 ル時間及ヒ縱隊後尾ノ全行軍程ヲ跋渉スルニ要スル時間是レナリ故
 ニ敵軍ノ近傍ニ於テスル行軍ハ其行程前者ニ比スレハ更ニ短縮シ而
 シテ運動時間同一ナル片ハ縱隊ノ長サ愈ヨ小ナル者ハ其經過距離即
 チ行程愈ヨ遠伸スルヲ得ルナリ

前團縱隊ハ他ノ諸縱隊ニ比スレハ最モ軍ノ行進ニ適當ナル隊形ニシテ其兵力モ亦寡弱ナラス且他ノ長大ナル縱隊ニ比スレハ同一時間ニ於テ遠距離ヲ行クヲ得加フルニ排開ヲ神速ニスルノ大利アリ故ニ事故アリテ止ムヲ得サルニアラサル毎リハ常ニ師團縱隊ヲ撰用スヘシ軍團縱隊ノ如キハ必要ノ時ニ非レハ復タ用フ可ラス(行軍戰闘術)

此配備法ニ由テ之ヲ觀ルニ近世ノ軍ハ其兵力至大ナルガ爲メ數多ノ縱隊ヲ造ラサルヲ得ス而シテ此縱隊行進スルニ當リ其庇掩スル地面ハ獨リ其幅ノ廣大ナルニアラス兵隊及ヒ車輛其後方ニ迴轉スルニ依リ其深長モ亦太ナリトス然ルニ軍ハ前章之ヲ述フル如ク毎日毎時敵ノ攻撃ニ抗抵シ得ルノ準備ナカレ可ラス故ニ首將ハ常ニ敵ヲ來攻ニ先チ行軍正面ノ一點ニ於テ其兵隊ヲ集合シ得ルヲ必要トス是ヲ以テ軍ノ庇掩スルキ地表ノ幅員ハ敵軍ヲ遠近ニ應シテ之ヲ定メ又縱隊

運動ハ常ニ齊整ナル順序ト確正ナル法規トヲ以テ之ヲ實施シ以テ縱隊相互ノ連絡ヲ維持シ相互應援依頼スルヲ得テ一ニ首將ノ手裡ニ檢束シ在ルヲ緊要トス其他行軍ノ諸運動ハ兵卒ヲシテ過度ニ疲勞セシメサル如ク之ヲ指揮シ又其配布法ハ糧食宿舍ニ欠乏セサル如ク之ヲ畫定スルヲ要訣トス

此論理ニ依ルニ軍ノ首將ハ行軍ヲ起スニ當リ豫算逆料以テ其一般ノ方法ヲ畫定セサル可カラス更メテ之ヲ言ヘハ運動ノ全体ヲ勘査シテ其首要ノモノヲ畫定シ又各縱隊ノ行進ヲ整序シ以テ不時ノ事變ニ遭遇スルモ能ク之ニ應スルヲ得且我撰定シタル攻撃點ニ向テ全兵力ヲ集合シ得ルノ方法ヲ確定セサル可ラサルナリ

故ニ行軍ノ豫算計畫ノ目的左ノ如シ

第一 運動時限中敵軍ノ遠近ニ應シ行軍正面ノ廣狹ヲ畫定シ且我欲

スル所ノ目的及ヒ我應用シ得ル所ノ道路ノ數ニ從ヒ行軍縱隊ノ數及
 ヒ種類ヲ定ム
 第二 行軍縱隊ノ縱長土地ノ形質、障礙物ノ有無難易ヲ斟酌シ以テ行
 軍ノ全程ヲ區分シ日々行程ヲ算定ス
 第三 各縱隊ノ行軍地境ヲ畫定ス
 第四 其跋涉スル地方ノ物資豐殺ニ應シテ兵隊ノ糧食支給法ヲ區處
 シ且鑛道或ハ尋常道路ヲ用テ輜重及ヒ倉庫ヲ運輸スル方法ヲ畫定ス
 第五 軍ノ側面及ヒ策線ノ側面ヲ保護スル爲メ採用スヘキ方法ヲ定
 メ且之カ爲メ第二線ノ軍ヲシテ占領セシムヘキ地點ヲ選擇ス
 第六 一般ノ形勢、行軍ノ目的及ヒ施行スヘキ運動ノ總體ニ就テ騎兵
 團長及軍團長ニ授クヘキ一般ノ訓令ヲ準備ス
 第七 次舍線ノ編制、鐵道ノ保護、倉庫病院等ノ建設ニ關シ次舍兵隊司

令官ニ授クヘキ訓令ヲ準備ス

ロ 行軍正面

前文説述スル如ク現今軍ノ兵力ハ強大ナルニヨリ師團縱隊ヲ以テ行
 軍スルノ法ハ極メテ數多ノ道路ヲ要ス數多ノ道路ハ充分行軍正面ヲ
 廣大ニスルニテラサレハ之ヲ得可ラス然レモ此正面ノ廣サハ自ツカ
 ラ限界アリテ若シ之ヲ超越スルハ大ナル危害ヲ被ムルヘシ蓋シ正
 面過度ニ廣大ナルハ敵襲ニ當リ軍ハ之ヲ抵禦スル爲メ適應ノ機會
 三於テ集合ヲ行フ能ハス遂ニ兵力衰弱ナル敵軍ノ爲メニ不慮ノ失敗
 ヲ取ルニ至ル

革命戰ノ初メ佛軍ハ常ニ師團ヲ以テ行軍シ師團ヲ以テ運轉戰鬪セリ
 約美尼曰或ハ倉庫ニ依ラスシテ其兵ヲ保育スルカ爲メ軍ノ正面ヲ過
 度ニ擴張シ或ハ敵軍ヲ包圍スルノ目的ヲ以テ我軍ノ線ヲ延伸スルヲ

風アカニ因リ當時一軍ヲ編成セル七八師團ハ荷モ道路ヲ候クヘキモ
ノアレハ輻ヲ各々之ニ依テ並立行進シ互ニ四五里ノ距離ヲ以テ隔絶
セリ而シテ其本營ハ中央ニ在テ馬疋三四百ニ過キサル薄弱寡少ノ騎
兵聯隊五隊或ハ六隊ヲ以テ預備トナシタルノミ是ニ因テ敵兵若シ其
全力ヲ以テ來リ此一師團ヲ撃テ之ヲ破ルルハ陣線忽チ突貫セラレ且
敵兵ノ運動神速疾烈ナルハ他ノ師團モ亦各別ニ其撃破スル所トナ
ルト

千八百年五月九日埃將屈萊ハ比伯拉克ノ戰後窩木及ヒ美閔認ニ退走
シ佛將摩盧ハ之ヲ進撃ス十日摩盧ハ其右軍ヲ魯孤伯ニ授ケテ美閔認
ニ發遣シ其預備軍ハ垣爾馬ニ附シテ病克山砂森ニ赴カシメ給維翁聖
西爾ハ中軍ノ一部ニ將トシテ拉烏弗哈木ヨリ窩木ノ方ニ行進ス又左
翼ノ將聖蘇山納ハ多惱ノ在岸ニ沿ヒ里德林認ヨリ窩木ニ進ム十一日

魯孤伯ハ美閔認ニ向テ其行進ヲ續行シ垣爾馬ハ幾爾悉獨弗ニ到リ聖
西爾ハ其本力ヲ伊列爾低森ニ向ハシメ其殘餘ハ窩木ニ發遣シ又聖蘇
山納ハ同シク窩木ノ方ニ續行ス此時佛軍ノ行進正面ハ殆ント五十吉
羅米突ニ達シ且其左翼ハ尙ホ本軍ノ後方ニ在リテ多惱ヲ以テ其交通
線ヲ斷絶ス然ルニ埃將屈萊ハ低盧爾ノ兵隊ヲ除クノ外其餘ハ盡ク之
ヲ窩木ニ擊中シタリ故ニ若シ伊列爾川ノ左岸ニ於テ拉烏弗哈木ノ方
ニ進出スルハ八萬ノ兵ヲ以テ聖西爾及ヒ垣爾馬ノ五萬ヲ攻撃シ其
正面ノ遠隔スルニ乘シテ各別ニ之ヲ撃破スルヲ得タリシナルハシ加
之魯孤伯及ヒ聖蘇山納ハ其距離ノ隔絶スル爲メ來テ之ヲ救援スル能
ハス故ニ埃軍ノ豫算ハ極メテ顯著ニシテ若シ神速ニ進退スルハ全
ク佛軍ヲ挫滅スルヲ得タリシナルハシ
當時埃軍ハ以爲ク若シ東方ニ向テ發進スルハ埃將屈萊其巴威里ニ

依ル本國交通線ノ斷絶セラレシヲ患ヘ己ヲ得ス窩木ノ堅固ナル陣地ヲ放棄スルニ至ルヘシト因テ十四日兵ヲ進メテ伊列爾川ノ外方ニ出テ其右翼ハ閔佃哈木ノ道路ニ遣ハシ預備軍ハ巴辨沙森ニ向ヒ中軍ハ勃認堡威山保倫格爾零沙軒ニ向ヒ又聖蘇山納ハ漸ク窩木ニ近逼ス此ニ於テ佛軍ノ行進正面ハ六十吉羅米突ニ達シ其左翼ニ於テ集合ヲ行フニハ少クモ二日ヲ費サ、ル可ラス而シテ敵軍ハ實ニ此翼ノ近傍ニ集合セリ

五月十二日佛軍ハ二萬人ヲ派シ伊太利地方ニ在テ作戰スル勃那巴ノ預備軍ヲ増加シタリ之カ爲メ麼鹵ノ兵力ハ著シク減殺シ其形勢ハ益々危急ヲ極メタリ給維翁聖西爾曰此時據將若シ作戰當初ノ失敗ニ懲リス敢進ノ氣力ヲ失ハサリセハ佛軍ノ失敗シタルヤ復タ疑フ可ラス蓋シ佛ノ中軍ハ此時衆敵ノ面前ニ於テ危殆測ル可ラサルノ運動ヲ行

ヒ且距離懸絶スルカ爲メ他隊ノ應援期ス可ラス加之佛ノ中軍伊列爾川ヲ渡ルニ際シテハ四時間ヲ費シタリ是間敵若シ攻撃スルアレハ余ハ僅ニ一部兵ヲ以テ之ニ應スルヲ得シノミ故ニ埃兵若シ窩木ヨリ出テ伊列爾川ノ右岸ヲ上リ雲得幾爾悉別ノ橋邊ニ來ルアレハ余ハ失敗ヲ取リシナルヘシト

十五日聖蘇山納ハ窩木ヨリ二里ノ所ニ進ミ多惱及ヒ伯羅ノ西水流間ニ在テ埃爾巴克ノ前面ニ占陣セリ此時佛軍ノ正面ハ左翼軍ノ面線ヲ合シテ八十吉羅米突ニシテ敵ハ左翼ノ近傍ニ於テ之ヲ對シ盡ク其兵力ヲ散中セリ
麼鹵ハ聖蘇山納ノ危急ニ迫リタルヲ察シ聖西爾ニ命シテ其兵力ノ一部ヲ卒ヒ伊列爾川ノ左岸ニ出テシメタリ十六日埃軍ノ聖蘇山納ヲ攻撃スル事聞クヤ麼鹵ハ其軍ヲ伊列爾川ニ引卒シ十七、十八ノ兩日ヲ以

テ其中軍ヲ多惱ノ左岸ニ派遣シタリ時ニ聖蘇山納ノ左翼ハ格伊士林
 認ノ道路ヨリ彼方ニ迄又聖西爾ノ左翼ハ伯羅川ノ彼方ニ迄延張セリ
 而シテ磨齒ハ其預備軍ヲ伊列爾及ヒ多惱ノ中間ニ配置シ其右翼ヲ威山
 保倫ニ備フ是ノ如ク佛軍ノ陣勢ハ多惱河ニ跨リ兩岸相隔絶シテ形勢
 頗ル危殆トナレリ磨齒之ヲ憂ヘ再ヒ多惱ノ右岸ニ退去スルニ決シテ
 九日ノ夜ヲ以テ運動ヲ始メ二十日二十一日ヲ以テ之ヲ畢ル而シテ此
 新陣地ニオキテ其右翼ヲ蘭獨士別ニ其預備軍ヲ克倫巴克ニ其中軍ヲ
 魯認堡及ヒ威山休倫ニ其左翼ヲ多惱伊列爾ノ間窩木ノ邊ニ備ヘタリ
 佛軍ノ行軍正面ハ猶ホ八十里ニ下ラス故ニ將屈萊聖蘇山納ヲ攻撃
 スルニ當リ僅ニ一萬六千ノ兵ヲ以テスルコトナクシテ其全力ヲ以テセ
 シルハ中軍ノ來援ニ先チテ之ヲ擊破スルコトヲ得次ニ右翼ノ應援ニ先
 チ中軍ヲ擊破スルヲ得タリシナルヘシ

十一月廿八日埃佛再ヒ隙ヲ構フニ至リ磨齒ハ其軍ヲ英川ニ進メ魯孤
 伯ハ魯山哈木ニ向ヒ預備軍ハ魯土瓦塞爾堡慕爾獨弗ニ進ミ中軍ハ安
 伯芬及ヒ獨爾軒ニ赴ク又一隊ノ側衛兵ハ別ニ維爾士堡ニ出テ聖蘇山
 納ハ多惱ノ左岸ニ於テ此河ト亞爾土慕爾川トノ間ニ陣シ以テ監守軍
 トナル而シテ又魯孤伯ハ一師團ヲ低盧爾ノ道路ニ留メテ此方面ヲ警
 備セシム故ニ磨齒ノ統率スル八師團ハ六縱隊ニ分レ其正面ハ魯山哈
 木ヨリ慕爾獨弗ニ至リ共ニ大約六十吉羅米突トナレリ
 埃ノ親王約翰ハ英川ノ下流ニ於テ其兵力ヲ聚中シ慕爾獨弗埃丁伯魯
 諾ヨリ此川ヲ渡リ旋廻運動ヲ行フテ伊塞爾川ト英川トノ間ニ出テ以
 テ佛軍ノ正面ニ直交スルノ陣線ヲ布設シタリ十二月一日拂曉約翰ハ
 六萬人ヲ率ヒテ佛將格爾尼也ヲ安伯芬ニ襲ヒ同時ニ一縱隊ヲ派遣シ
 屈萊堡ヲ經テ亞且ニ赴キ佛軍ノ右翼後ニ出テシメタリ格爾尼也ハ兵

力二萬五千ニ過キサルヲ以テ哈亞格^{ハアグ}ニ退走ス拿破翁曰麼爾ハ現行犯中ニ其罰ヲ受ケタリ其分散隔離シタル各師團ハ衆敵ノ爲メニ攻撃セラレタリト

奧國親王ノ計畫ハ正當ニシテ且原理ニ合シタリ然レモ其實地ハ拙劣遲鈍ヲ免レス蓋シ親王ハ好機ニ乘スルヲ知ラス其隊ヲ展開スルニ當テ無益ニ時間ヲ費シ又攻撃ヲ行フニ當テ指揮最モ緩慢ニ流レ加フルニ攻撃ノ次日ハ空ク其兵ヲ休憩セシム故ニ爾麼^ハ逃テ荷軒林^{ホケンリン}佃ニ到リ且此點ニ於テ其軍ヲ聚中スルヲ得タリ拿破翁曰此戰ニ於テ佛軍ハ分散隔離シタルニヨリ奧軍ノ爲メニ全ク其不意ヲ襲レタリ奧軍ハ宜シク佛軍ヲ急追シ之ヲシテ呼吸蘇息スルノ間ナカシムヘカリシナリト奧軍若シ神速果決ニ佛軍ノ右翼ヲ襲ヒ十二月二日休止スルト無クノ進撃シ猛烈ニ攻勢ヲ持續セシトハ佛軍ハ慕尼屈^{ムニク}ヘノ交通ヲ斷

チ翌日麼爾ヲ撃テ之ヲ破リシナルヘシ然ルニ約翰ハ躊躇ノ敢テ進マズ麼爾ハ因テ萬危ヲ脱シ二日終ニ其兵ノ一部ヲ集合スルヲ得タリ此鑑例ニ由テ之ヲ觀ルニ行軍正面ノ過長ナルハ前章ニ於テ説述シタル軍ノ分隔配備ト同一ノ諸弊害ヲ現出ス是レ他ナシ兵力ハ過度ニ分散シ敵軍ハ寡弱ナルモ能ク各別ニ我ヲ撃破シ得ルニ由ルナリ故ニ軍ノ總運動ヲ勘査シ之ヲ計畫スルニ當リテハ決シテ原理ニ違フヘカラス其原理ハ前文反復之ヲ述ル如ク軍ヲシテ何レノ時何ノ場合ヲ論セス全力ヲ以テ戦闘スルヲ得セシムヘク爲メニ其最モ遠隔スル部隊ヲシテ時機ヲ愆タス我軍正面ノ一點ニ撰定シタル聚中點ニ來會スルヲ得セシムヘキニ在リ是ニ因テ行軍正面ノ長サハ彼我兩軍ノ相隔ル距離ヨリモ少シク短縮ナラシメ以テ敵襲ニ當リ我兵隊ヲシテ陣線ノ一翼ニ集合スルヲ得セシムヘキナリ

故ニ行軍正面ノ長サハ兩軍ノ位置ニ基テ之ヲ定ムルヲ要ス我軍漸ク敵軍ニ近接スレハ漸ク此長サヲ減縮シ而シテ全ク敵軍ト相接シ交戦ノ避ク可エサルニ至レハ此長サヲシテ殆ト戦鬪正面ノ長サニ均シカ
ラシメ以テ我諸縱隊ヲシテ戦鬪陣地ヲ執ルニ當リ永ク無用ノ運動ヲ爲サシメサルヘシ

千八百五年佛ノ大軍ノ萊尼ヨリ多惱地方ニ向テ行フタル運動ハ編制宜ヲ得タル行軍ノ鑑例ナリ是歲九月四日伯倫ニ在陣セル佛軍ハ萊尼河畔ニ來リテ斯拉斯堡ヨリ曼哈木ニ至ルノ間ヲ占ム(第三部第一章)但シ伯那獨德馬爾門ノ軍及ヒ巴威里ノ兵ハ非堡都ニ舍營セリ

埃軍ハ伊列爾川ニ於テ美閔認ヨリ窩木ニ至ルノ間ヲ占ム二十五日拿帝ハ其軍ヲシテ上途セシメ多惱威特ニ發遣ス蓋シ帝ノ計畫ハ此地ニ於テ多惱ヲ渡リ以テ埃軍ノ交通線ヲ斷絶スルニアリ

慕拉ハ預備騎兵ヲ率ヒ拉努ハ第五軍團ニ將トシ共ニ二十五日ヲ以テ斯拉斯堡ヨリ萊尼ヲ渡リ而シテ拉努ハ魯德維士堡ニ進ミ又慕拉ハ黑林ノ通路ニ向テ弗里堡京日克川及ヒ克尼比士川ノ方ニ進ミ埃軍ヲ欺テ佛軍ノ攻撃ハ此方向ニ在リト思惟セシメタリ

二十六日他ノ諸軍團ハ皆萊尼ヲ渡ル即チ陀伯ハ第三軍團ヲ率ヒテ曼哈木ヨリシ葛達ハ第四軍團ヲ率ヒテ斯丕爾ヨリシ又率ハ第六軍團ヲ率ヒテ的爾拉克ノ對岸ヨリス

第一軍團ノ將伯那獨德第二軍團ノ將馬爾門及ヒ巴威里ノ兵ハ十二月二日萊尼諸軍ノ齊頭面ニ來ルヲ待チ其占領地タル迷尼川ヲ去リ多惱ニ向テ行進ス

此各隊ノ行進道路ハ左ノ如シ
陀伯ハ曼哈木並埗別涅加列斯墨克慕爾英醇芬認哥列爾士哈木屯基士

ビエールフ、レム、ゲン、エン、ナン、ナン、ハ、レ、ア、レ、ク、ナ、ク、ウ、エ、ルト、ニ、エ、ア、ル
 比爾、弗、零、丁、認、埃、丁、認、阿、爾、堡、參、惱、威、特、紐、堡、ヨリ、行、進、ス
 ス、ビ、エ、ル、ハ、イ、エ、ン、ロ、ン、オ、リ、ン、ゲ、ン、ハ、イ、レ、ル、フ、ア、イ、レ、ン、ド、ナ、ウ、エ、ルト
 葛達、ス、ス、不、爾、並、伯、倫、痢、林、認、哈、爾、牙、爾、獨、弗、亞、連、多、惱、威、特、ヨリ、行、進、ス
 ナ、ハ、的、爾、拉、屈、斯、土、德、牙、エ、ス、リ、ン、ゲ、ン、ギ、ヨ、ビ、ン、ゲ、ン、威、山、斯、頓、ハ、イ、デ、ン
 ハ、イ、ム、涅、列、士、哈、木、諾、獨、林、認、ヨリ、行、進、ス
 ラ、ヌ、ハ、核、爾、ラ、ス、タ、ツ、ト、魯、獨、維、士、堡、ボ、イ、テ、ル、ス、バ、ク、ブ、リ、デ、ル、ハ、ウ、セ、ン、
 グ、ム、ン、ド、ア、レ、ン、ノ、ド、リ、ン、ゲ、ン
 格、門、獨、亞、連、諾、獨、林、認、ヨリ、行、進、ス
 慕、拉、ハ、ラ、ス、達、ヲ、經、過、シ、預、備、騎、兵、ヲ、率、ヒ、テ、右、翼、ト、齊、頭、ニ、在、リ、以、テ、敵、軍
 ノ、窩、木、ヨリ、來、ル、ヘ、キ、諸、道、路、ヲ、搜、索、ス
 マ、ル、モ、ン、ウ、エ、ル、ツ、ア、ル、コ、ツ、ク、シ、ア、ル、ク
 馬、爾、門、ハ、非、爾、都、堡、魯、敦、堡、ウ、ウ、セ、ル、ト、ル、ン、ヂ、ン、ゲ、ン、紐、堡、ヨリ、行、進、シ、伯、那
 フ、ド、ト、ウ、エ、ル、ツ、ア、ル、ア、ン、ハ、バ、ン、ク、ウ、エ、ン、ツ、レ、ン、
 獨、德、ハ、非、爾、都、堡、安、士、巴、克、威、山、別、ア、イ、ヒ、ス、テ、ット、及、英、葛、斯、達、ヨリ、行、進、シ
 又、巴、威、里、兵、ハ、非、爾、都、堡、ニ、ユ、ラ、ン、ベ、ル、ク、威、山、別、ア、イ、ヒ、ス、テ、ット、英、葛、斯、達
 ヨリ、行、進、ス

此運動ノ初メ行軍正面ノ長サハ六十里ニ達シタリト雖モ毫モ以テ害
 トスルニ足ラス何トナレハ帝ハ墾軍ノ猶ホ伊列爾川畔ヲ占領スルヲ
 確知シ萊尼或ハ迷尼ノ畔岸ニ於テハ毫モ其攻撃ヲ受クルノ患ナケレ
 ハナリ
 又此運動ニ於テ佛軍ノ行軍正面ハ極メテ長大ナリシト雖其兵力ハ毫
 モ分離スルヲナシ其故ハ佛軍ハ二團ニ分レ多惱威特ニ向テ聚中行進
 ナ行フニ由リ彼是互ニ應援スルニ便ナレハナリ萊尼軍ノ行軍正面ハ
 運動ノ初メニ於テ拉斯達ヨリ曼哈木ニ至レリ即チ其長サハ僅ニ二十
 里ニシテ敵軍ト相隔ツル距離ノ半ニ上ラス故ニ假令ヒ敵ノ攻撃ニ逢
 フモ適應ノ機會ニ於テ充分集合スルヲ得且其兵力ハ十二萬ニ下ラサ
 ル故必ス敵ノ兵力ニ優ルヲ得レハナリ又迷尼ノ軍ハ萊尼軍ニ比スレ
 ハ其正面更ニ減縮シ隨テ其聚中上ヨリシテ之ヲ論スル片ハ形勢更ニ

其好ナリ唯其兵力ハ六萬ニ過キスト雖此等ハ決シテ憂フルニ足ラス其故ハ敵兵攻撃スルヲアレハ蔡尼軍ハ直ニ之ニ來援シ埃軍ノ左翼ヨリ之ヲ攻撃ス可レハナリ故ニ佛軍ノ行軍正面ハ頗フル長遠ニ亘リシモ敢テ害トスルニ足ラサルナリ加之行軍ノ方向ヨリシテ之レヲ觀レハ此正面ハ數日ナラスシテ忽チ短縮スルヲ得ヘシ即チ十月四日ニ至リテハ果シテ其半ヲ減シ又六日ニ至リテハ涅列士哈木ヨリ威山堡ニ至ルマテ僅カニ十二里ニ縮少セリ蓋シ十二里ノ行軍正面ハ兵力二十萬ノ大軍ニ在リテハ決シテ過度ナリト謂フ可ラス而シテ事アルニ當リテハ全軍一日ヲ以テ一所ニ集合スルヲ得ヘシ佛軍ハ此行軍正面ヲ以テ多惱ニ出テ英萼斯達多惱威特及ヒ門士得ヨリ此河ヲ通過セリ

ハ 行軍路線

行軍正面ニ兵隊ヲ配賦スルニハ各部同一ナルヲ得ス其配備法ハ首トシテ一般ノ形勢企圖スル目的ニ關シ敵兵駐止スル所ハ其陣地ノ位置行進スル所ハ其行軍ノ方向ニ係ル故ニ行軍路線ハ軍ヲシテ一般ノ形勢ニ適應スル配備法ヲ執ラシムル如ク畫定セサル可ラス即チ各行軍路線ハ行軍正面ノ漸ク攻撃點ニ近邇スルニ隨テ相接近シ以テ首將ヲシテ此地點ノ前方ニ於テ迅速ニ敵ニ優ルノ兵力ヲ集合スルヲ得セシムヘギナリ

千八百五年拿破帝ハ敵ノ兩將江味約キエンマイヨル及ヒ危都索キエツツツノ萬一馬克マツクヲ來援スルヲラシテ慮リ其軍ノ左翼ヲシテ豫メ之ニ應スルノ準備ヲ爲サシメ而シテ其右翼及ヒ中軍ハ專ラ馬克ヲ攻ムルニ用ヒタリ故ニ帝ノ企圖スル所ニヨリテ之ヲ觀レハ帝ハ其右翼ニ向テ兵力ヲ集合スル如ク其行軍路線ヲ畫定セサル可ラス蓋シ帝ノ畫定セシ所實ニ是ノ如クナリシ

又一方ヨリシテ之ヲ論スルニ軍ノ側面ハ行軍スル時モ駐止スル時ノ如ク其形勢常ニ脆弱ナルヲ免レス故ニ地物ヲ得ルハ必ス之ニ依テ側面ヲ庇護スルヲ緊要トス拿破倫曰千七百九十六年ノ役糜爾若シ多腦ヲ以テ其右翼ヲ庇護セシハ涅列士哈木ノ戰ニ於テ其側面ハ正面ト同時ニ敵ノ攻撃ヲ受ケサリシナラント

側面ヲ依托スヘキ障碍物ナキハ宜ク敵襲ノ恐レアル側面ニ時期ヲ愆タス充分ノ兵力ヲ集合シ得ル如ク行軍路線ヲ畫スヘシ

此點ニ就テハ千八百五年佛軍ノ行進ハ其形勢頗ル危殆ナル者ノ如シ何トナレハ其方向ハ多腦ノ河流ニ斜交シ隨テ壞軍其全力ヲ盡シテ窩木ヨリ進出シ以テ佛軍ノ右翼ニ向フハ逐次ニ其各軍團ヲ迎撃シテ迷尼川ノ方ニ潰走セシムルヲ得レハナリ拿破帝ハ此危害ヲ預察シ第五、第六軍團及ヒ其親衛軍團ハ軍ノ右翼ニ在テ互ニ密接シテ行進セシメ

敵襲アルニ當リテハ機會ニ後ル、トナク其兵力ヲ集合スルヲ得セシメタリ加之軍ノ騎兵ハ最右翼ニ在テ行進シ以テ窩木ニ通スル諸道路ヲ警戒セリ是故ニ騎兵假令ヒ此方向ヨリ進出スルトアルモ帝ハ神速ニ慕拉寧拉努ノ諸隊、其親衛軍團及ヒ芻達ノ一師團ヲ集合シ八萬ノ數ヲ以テ其攻撃ニ當ルヲ得ヘシ即チ馬克ノ兵力ト同等ナル兵力ヲ以テ其攻撃ニ抗抵スルヲ得ヘキナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ千八百五年佛軍ノ行軍路線ハ其企圖スル目的ト其側面ノ庇護法トニ應シテ畫定シタルモノト謂フヘシ

拿破帝ハ斯土德牙、松獨弗格門度亞連ヲ經過シ其軍ノ右翼ニ在テ行進セリ是レ事變ノ發生スルニ當リ親ラ之ニ應スルノ指揮ヲ施サンカ爲メナリ

行軍線ハ決シテ超過ス可ラサルノ障碍物ヲ以テ分隔ス可ラス其故ハ

敵軍一旦攻撃スルコトアレハ全軍一所ニ集合スル能ハス遂ニ各部各別ニ撃破セラル、ノ患アレハナリ
 千七百九十五年九月七日撒伯爾迷于斯ノ軍ハ萊尼ヲ渡リ的塞爾獨弗ヲ陷レタル後迷尼川ニ向テ行進ス
 璦將屈烈發德ハ此川ノ左岸ニ占陣シ別ニ加士陀諾維ヲシテ一師團ヲ卒七海得堡ノ要砦ヲ守護セシム此要塞ハ璦軍ノ大ニ倉庫ヲ設置セシ所ナリ

九月廿二日曼哈木ノ陷没後萊尼木塞爾軍ノ首將丕朱格魯ハ第六第七師團ヲ卒ヒテ此府ニ架設スル橋梁ヨリ萊尼ヲ渡リ海得堡ニ向テ行進ス丕朱格魯ハ加士陀諾維ニ對シテ其兵強大ナルニ非スト雖猶ホ過分ニ之ヲ有セル者ノコトク輒子之ヲ二分シ其一師團ハ涅加爾川ノ左岸ヨリ他ノ一師團ハ右岸ヨリ進マシメタリ右岸ノ師團即チ第七師團ハ

將軍的弗爾之ニ將トシテ二十三日曼哈木ヲ去リ行々加士陀諾維ヲ攻撃シテ之ヲ敗退セシメ二十四日再ヒ戰テ之ヲ破ル然ルニ佛軍進ンテ山麓ニ至ルニ及ヒ璦人ハ始メテ其兵ノ寡弱ナルヲ見且當時左岸ニ在テ治得堡ニ向進スル將軍安伯ノ第六師團トハ全ク相隔離スルヲ知レリ是ニ於テ加士陀諾維ハ其兵力ヲ集合シテ第七師團ヲ迎ヘ與ニ戰テ大ニ之ヲ破ル佛軍右翼ノ逃レテ曼哈木ニ入ルヲ得タルハ實ニ其後方ニ通シタル涅加爾川徒涉場ノ幫助ニヨリ又第六師團ノ將安伯其兵ヲ卒ヒ來テ之ヲ守護スルニ依ル此日失ウ所ノ死傷ハ極メテ多ク將軍的弗爾モ又敵ノ爲メニ獲ラレタリ
 千七百九十九年十一月四日佛將賞平内ハ熱諾拉ノ戰ニ失敗セリ蓋シ璦將墨拉ニ向テ行進スルニ當リ斯都拉川ノ兩岸ヨリ分進シタルニ在リ當時賞平内ノ率ル四師團中其三師團ハ此川ノ右岸門德維ト哥

尼トノ間ニ置キ而シテ他ノ一師團ハ左岸上ニ在テ孤立セリ故ニ墨拉
 ハ其全軍ヲ以テ之ヲ撃テ大ニ之ヲ破ルヲ得タリ
 千八百年佛將聖蘇山納ハ摩爾ノ左翼ニ將トシテ多惱ノ左岸ヨリ進ミ
 本軍ハ其右岸ヨリ行通セリ五月十五日聖蘇山納ハ多惱及ヒ伯羅ノ兩
 水流間ニ在テ窩木ヲ距ル二里ノ所ニ陣ス其兵力ハ僅ニ二萬ニ過キス
 煥軍ハ其右翼及ヒ中軍ヲ窩木ニ集合シ其兵力ハ八萬余ニ上レリ加之
 聖蘇山納ハ本軍ト河ヲ挾ンテ隔絶シ摩爾ハ其中軍及ヒ右翼ヲ卒ヒテ
 東方ニ行進シ右翼ヲ閃佶哈木即チ窩木ヲ距ル六十吉羅ノ處ニ置ケ
 リ十六日煥將屈萊ハ親王非地難ヲシテ之ヲ攻撃セシム佛軍支ヘス退
 却スルト凡ソ二里餘此日聖蘇山納ノ覆滅セサリシハ一ニ給維翁聖西
 南ノ援助ニ依ルナリ聖西爾ハ十五日夕其二師團ヲ卒ヒテ伊列爾川ノ
 左岸ニ至リシカ翌朝未明途ニ砲聲ノ轟發スルヲ聞キ急ニ軍ヲ驅テ之

ニ赴キ煥軍ヲシテ聖西爾ニ向ヒ其多惱河ヲ渡ルヲ拒クカ爲メニ已チ
 得ス聖蘇山納ノ左翼ヲ追撃スルヲ輟メシメタリ聖蘇山納ハ是ニ因テ
 僅カニ全敗ヲ免ルヲ得タリ

聖西爾曰此戰ヤ摩爾ノ其兵力最モ寡弱ナル左翼ヲ必凶ノ地ニ陷キレ
 タリシ過ハ幸ニシテ兵卒ノ忠勇ト將士ノ努力奮戰トニヨリ之ヲ補償
 スルヲ得タリ煥將屈萊モ亦大ニ其計ヲ誤リ以テ佛軍ヲシテ是ノ如ク
 不測ノ利ヲ博セシメタリ蓋シ其佛軍ヲ襲フニ當リ全力ヲ盡シテ此ニ
 赴カサル可ラス然ルニ僅ニ其一部兵ノミヲ使用シタリ夫レ兵力ノ敵
 ニ優ルハ勝利ヲ確實ニシ且之ヲ容易ニシ而シテ我損失ヲ減殺スルノ
 大益アリ屈萊若シ其全力ヲ以テ襲撃セシルハ聖西爾ノ來援ニ方リ容
 易ニ之ヲ多惱河上ニ保支シ聖蘇山納ノ軍ト同時ニ之ヲ破碎スルヲ得
 タリシナリ

麼鹵ハ其左翼ノ危難ニ逢フタルヲ見テ配備法ノ大不利ナルヲ悟リ急
 ニ其軍ヲ移シテ伊列爾川ニ班シ前章説明セシ如ク其中軍ヲシテ多惱
 河ノ左岸ニ渡ラシメ親カラ預備軍ヲ卒ヒテ伊列爾川ト多惱河トノ間
 ニ來リ將軍魯孤伯ヲ召シテ威山保命ニ歸ラシム是ニ於テ麼鹵ノ十一
 師團ハ其五ヲ左岸ニ出シ其六ヲ右岸ニ置キ其陣線ハ多惱河ニ跨リテ
 前後十四里ノ長サニ達シ恰モ一ノ半圈ニ類セリ此半圈ハ窩木ノ西方
 ナル威山保命ヨリ起リ也爾巴克ヲ經テ格斯特林認ノ道路ニ達ス麼鹵ハ
 此陣地ニ在テ淹留スルヲ數日形勢最モ危ヲ極メ其預備軍ノ如キハ殊
 ニ危殆ナリトス何トナレハ埃ノ兩將屈萊及ヒ路斯公全力ヲ併合ノ同
 時ニ之ヲ攻撃スルヲ得又佛ノ左翼及ヒ中軍ハ急ニ多惱ヲ渡リテ來援
 スル能ハス其右翼ノ如キハ遠隔殊ニ甚シク到底時ニ及ンテ豫備軍ヲ
 援助スル能ハサレハナリ是故ニ麼鹵ノ戰場ニ於テ引卒スル兵力ハ僅

カニ其全軍ノ一小部ニ止マリ此小部ヲ以テ敵ノ全部ニ當ラサル可ラ
 ス拿破倫曰佛ノ本軍若シ多惱ノ左岸ニ於テ未タ堅據ノ地ヲ占領スル
 ニ及ハスシテ大敗ヲ受クルニ方リ預備軍業已ニ擊破セラレ本軍爲メ
 ニ右岸ノ策線ヲ失フアレハ佛軍ノ命運果シテ如何ナリシヤ
 千八百五年十月ノ末拿破倫帝ハ魯將危都索ヲ追撃スルニ當リ克列印
 的架ノ二師團ニ命シ逐次ニ發索及ヒ林西ニ留マリテ埃ノ親王非地難
 ニ備ヘシム非地難ハ往キニ窩木ノ陷落ニ先チ遁レテ波希米ノ方ニ退
 キタレハナリ又帝ハ別ニ牙戔ノ師團ニ命シテ多惱ノ左岸ニ出テ此地
 方ヲ警戒セシメ且大將莫爾爹ヲシテ此三師團ノ號令ヲ執ラシメタリ
 莫爾爹ハ帝ノ訓令ニヨリ牙戔ノ師團ヲ率ヒテ本軍ト齊頭面ニ在テ行
 進シ且他ノ二師團ヲシテ之ヲ殿タラシム
 帝ハ固ヨリ莫爾爹ノ本軍ヨリ隔絶シ加フルニ多惱ノ如キ大河アリテ

之カ應援ヲ斷絶シ其形勢ノ不利ナルヲ察知セリ故ニ其衆敵ニ會シテ敗亾ヲ取ルアランヲ慮リ大將慕拉ニ書ヲ送り大將拉努及ヒ陀伯ヲシテ許多ノ船舶ヲ準備セシムヘキヲ命シタリ其書ニ曰余ハ三四百ノ船舶ヲ得テ多惱河ヲ填塞シ兩岸ノ交通ヲシテ容易ナラシメント欲ス十一月九日危都索ハ玖廉ヨリ多惱ヲ渡リ其後方ノ橋梁ヲ燒斷ス帝之ヲ聞テ益々莫爾爹ノ危急ヲ憂フ蓋シ莫爾爹ハ當時其率ユル所尙ホ牙莖ノ一師團ノミニ止マリ多惱河上ノ船舶ノ如キモ其數未タ要スル所ニ充タス帝書ヲ贈リ慕拉ヲ責メテ曰敵ハ維也納ニ於テモ亦多惱ノ橋梁ヲ截斷セント欲スルヤ必セリ果シテ然ラハ莫爾爹ハ唯魯人ノ意ノ如クニ粉塵セラルヘシ卿若シ余ノ命令ヲ奉行セシナレハ今日ノ危急ヲ致スト無カリシナラン我軍若シ所要ノ船舶ヲ拾收セシハ獨リ莫爾爹ノ難ヲ免ルノミナラス却テ魯人ノ一部ヲ擧テ之ヲ捕獲スルヲ得タ

リシナリト

帝ノ遠慮ハ果シテ其故ナキニアラス莫爾爹ハ十日の蘭斯頓ニ到リ十日未明斯頓ニ赴ク以爲ヲク假令ヒ敵軍ニ遭遇スルモ僅ニ其後衛ニ接スルニ過キサレハシト然ルニ斯頓ニ到レハ二萬八千ノ魯人アリテ莫爾爹ヲ迎撃ス莫爾爹ノ兵力ハ僅ニ四五千ノミ衆寡ヲ以テ之ヲ比較スレハ佛軍全ク覆没セサル可ラスト雖モ幸ニ兵士ノ勇悍ナルニヨリ能ク敵ノ攻撃ヲ支ヘ健闘奮撃寡ヲ以テ衆ニ接シ日漸ク暮ルニ至ル是ニ於テ暗ニ乘シテ重圍ヲ衝キ遂ニ兵力ノ大半ヲ卒ヒ山林ノ裡ニ入りテ敵ノ追撃ヲ免ガレタリ

之ヲ概論スルニ超過ス可ラサル障碍物ヲ以テ行軍線ヲ分斷スルハ其弊害全ク複策線ニ異ナラス其故ハ假令ヒ各行軍線ハ極メテ相近接スルモ縱隊相併合シテ戰鬪スル能ハスシテ其形勢縱隊ノ相遠隔スルノ

時ニ異ナラサレハナリ
 故ニ行軍路線ヲ畫定スルニ當リテハ各路線ノ交通容易ニシテ且數多ナルモノヲ撰定スルヲ必要トス
 今行軍路線ヲ撰定スルニ當リ一般ニ採用スヘキ方法ヲ記載ス即チ先ツ敵ハ其陣地ニ據テ我攻撃ヲ坐待スルモノト想像シ此想像ニ應シテ攻撃點ニ到ルノ行軍路線及ヒ軍ノ大体ノ運動ヲ畫定ス然ルニ敵兵ハ終始一地ニ待守スルヤ否ハ豫メ之ヲ確知スル能ハス故ニ敵軍ノ施行シ得ヘキ運動ハ豫メ之ヲ熟察研究シ以テ此運動ニ應シ既定ノ行軍路線ヲ更變スルノ法ヲ定ム例ハ千八百五年ノ役埃將馬克佛軍ノ行進スルニ乘シテ之ヲ攻撃セント欲シ兵ヲ卒ヒテ窩木城ヨリ進出スルヲアレハ佛軍ハ拿帝ノ畫定シタル道路ヨリ行進スルヲ得サリシナルヘシ故ニ帝ハ此事變ニ備フル爲メ豫メ之ニ應スルノ配備ヲ施セリ之ヲ

要スルニ行軍路線ノ方向ハ一般ノ形勢戰地ノ地理敵軍ノ作戰法不意ノ事變等ヲ預察シテ畫定セサル可ラス即チ事變ニ遭遇スルモ道路及地理ノ研究已ニ周到スルハ機ニ臨ミ時間ヲ徒消スルヲナク決斷理ニ適シ新ニ行軍路線ヲ改定スルヲ得ヘシ
 退却行軍ニ在テハ通常其占領陣地ノ後方ニ軍ヲ轉輸スルヲ以テ目的トス故ニ其行軍路線ヲ預定シ且一般運動ノ計畫ヲ定ムルヲ頗ル容易ナリ然レモ此行軍法ニ於テモ亦細心預算シ以テ不意事變ノ我行軍路線ヲ變換セシムルニ足ルモノヲ料察シ之ニ應スルノ計策ヲ講究セサル可ラス

行軍路線ニ沿フテ架設スル電線アルハ軍ノ背後ニ於テ之ヲ連絡交通シ以テ命令報告ノ送達ヲ迅速ニス

二、行軍日程

我行軍正面ノ廣狹ヲ定メ、行軍路線ヲ撰ミ且前條論陳スル方法ニ從ヒ
縱隊ノ數ト兵力トヲ定メタル片ハ全經過距離ヲ區分シ以テ行軍日程
ヲ定ム

我軍ノ運動ハ前進後退ニ論ナク勉テ之ヲ疾速ニスルヲ要ス然レ其疾速ヲ
得ル爲メニ軍ノ安寧ヲ害ス可ラス又過度ノ疲勞ヲ其隊ニ課ス可ラス
前進行軍ニ在テ敵ト相距ル猶遠ク從テ危險ノ憂尤少ナキ片ハ唯行軍
ヲ迅速ニスルヲ以テ專意トス乃チ途上縱隊ノ隊形ヲ以テ舍營シ且行
軍日程ヲ長伸シテ歩兵ノ跋涉シ得ヘキ最大距離ニ至ラシムルヲ得然
レ一タヒ敵軍ノ作戰界ニ入ルヤ行軍ノ景况ハ復タ上ト同一ナルヲ
得ス却テ兵隊ノ安寧ヲ先ニシテ其運動ノ神速ヲ後ニスルヲ要スルナ
リ之カ爲メ我軍ハ毎日保據シテ戰鬪ヲ爲シ得ヘキ陣地例ヘハ水流山
脉等ノ如キ天然障礙物ヲ占領セサル可ラス然ル片ハ日々各縱隊ノ兵

ハ悉ク行軍日程ノ極端ニ會合スヘキカ故ニ敵軍ノ近傍ニ於テ行軍ス
ル片ハ其行軍日程ハ著シク減縮スルニ至ル

然レ其退却行軍ニ於テハ之ニ反シ敵ノ近傍ニ在ルノ間退却ノ愈疾速
ナルハ危害愈遠サカルヘシ

此他行軍日程ノ長短ハ土地ノ形質道路ノ廣狹嶮夷氣候ノ良否并ニ兵
隊耐忍力ノ大小等ニ關係ス通常山地ニ於テ行進スル片ハ行軍日程ハ
五六里ヲ過クル能ハス然レ其地勢平坦ニシテ道路良好且氣候便利ナ
ル片ハ一日ニ七里乃至八里ヲ行クヘシ又某ノ機會ニ際シ兵卒行進ニ
慣ル、片ハ更ニ之ヲ延伸シテ十里ノ距離ニ達セシムルヲ得約美尼ノ
說

軍ノ逐次ニ占領スヘキ防禦線若クハ防禦陣地ハ彼是等距離ニ在ルモ
ソニアラス又彼是相平行スルヲナシ故ニ軍ハ毎日同距離ヲ行ク能ハ

ス又各縦隊ハ毎日同行程ヲ經過スル能ハサルナリ同一日ノ行程ニ著大ノ差異アルハ或ハ最遠ノ行程ヲ有スル縦隊ヲシテ二條ノ道路ヨリ行進セシメ或ハ又相近接スル兩縦隊ヲシテ交番ニ一條及ヒ二條ノ道路ヨリ行進セシム是レ此兩縦隊ヲシテ長遠艱難ノ行軍ト近縮容易ノ行軍トヲ交番ニ施行シ以テ兵卒ヲシテ交互休息勞ヲ慰スルヲ得セシムルノ爲メナリ(行軍戰鬪術)

以上陳述シタル諸考案ハ行軍ノ日程ヲ規定スルニ當リ參考スヘキ者ナリ

凡行軍日程ヲ定ムルニハ地圖ヲ用ユ(約美尼ノ說)然レハ地圖ハ假令ヒ極メテ細密ナルモ之レノミニ依テ運動ヲ定ムルニ足ラス亦宜ク偵察勤務ヲ編制シ以テ土地ノ形質、道路ノ景况、水流ノ淺深廣狹、徒涉場ノ位置、橋梁ノ種類、狹隘ノ形狀、險夷等都テ我行軍ヲシテ艱難遲緩ナラシム

ヘキ各種ノ障碍物ヲ探索檢知セシムルヲ要ス

抑モ此諸件ノ偵察ハ前章ニ述ヘタル如ク宜シク治平ノ日ニ於テ之ヲ行ヒ以テ戰爭準備ノ材料トナスヘキ者ナリト雖モ亦未ダ以テ行軍運動ヲ畫定スルニ足ラス何トナレハ此偵察以後殊ニ宣戰ノ後地方ノ形勢ハ大ニ變換シタルモ亦知ル可ラサレハナリ

我軍攻勢ヲ執リ敵地ニ侵入スルハ敵ハ種々ノ障碍物ヲ設築シ或ハ種々ノ破壊作業ヲ行ヒ以テ攻者ノ行進ヲ阻碍スルヲ計ル而シテ此障碍物ノ大小難易ハ我前面ニ在ル騎兵ヲシテ之ヲ偵知セシム然レハ通常前進行軍ニ於テ我軍精細ニ偵察ヲ行ヒ得ヘキ地界ハ敵軍ノ發遣スル搜索騎兵ノ絡脉ヲ以テ之ヲ限界ス而シテ敵兵退却スルニ當リ其準備スヘキ破壊作業及ヒ其設築スヘキ諸障碍物ノ如キハ之ヲ豫察スルコト極メテ難シ故ニ敵地ニ於テ行軍スルハ或ハ道路ノ修覆ヲ要スル

ス又各縦隊ハ毎日同行程ヲ經過スル能ハサルナリ同一日ノ行程ニ著大ノ差異アルハ或ハ最遠ノ行程ヲ有スル縦隊ヲシテ二條ノ道路ヨリ行進セシメ或ハ又相近接スル兩縦隊ヲシテ交番ニ一條及ヒ二條ノ道路ヨリ行進セシム是レ此兩縦隊ヲシテ長遠艱難ノ行軍ト近縮容易ノ行軍トヲ交番ニ施行シ以テ兵卒ヲシテ交互休息勞ヲ慰スルヲ得セシムルノ爲メナリ(行軍戰術)

以上陳述シタル諸考案ハ行軍ノ日程ヲ規定スルニ當リ參考スヘキ者ナリ

凡行軍日程ヲ定ムルニハ地圖ヲ用ユ(約美尼ノ說)然レハ地圖ハ假令ヒ極メテ細密ナルモ之レノミニ依テ運動ヲ定ムルニ足ラス亦宜ク偵察勤務ヲ編制シ以テ土地ノ形質、道路ノ景况、水流ノ淺深廣狹、徒涉場ノ位置、橋梁ノ種類、狹隘ノ形狀、險夷等都テ我行軍ヲシテ艱難遲緩ナラシム

ヘキ各種ノ障礙物ヲ探索檢知セシムルヲ要ス

抑モ此諸件ノ偵察ハ前章ニ述ハタル如ク宜シク治平ノ日ニ於テ之ヲ行ヒ以テ戰爭準備ノ材料トナスヘキ者ナリト雖モ亦未タ以テ行軍運動ヲ畫定スルニ足ラス何トナレハ此偵察以後殊ニ宣戰ノ後地方ノ形勢ハ大ニ變換シタルモ亦知ル可ラサレハナリ

我軍攻勢ヲ執リ敵地ニ侵入スルハ敵ハ種々ノ障礙物ヲ設築シ或ハ種々ノ破壞作業ヲ行ヒ以テ攻者ノ行進ヲ阻碍スルヲ計ル而シテ此障礙物ノ大小難易ハ我前面ニ在ル騎兵ヲシテ之ヲ偵知セシム然レモ通常前進行軍ニ於テ我軍精細ニ偵察ヲ行ヒ得ヘキ地界ハ敵軍ノ發遣スル搜索騎兵ノ絡脉ヲ以テ之ヲ限界ス而シテ敵兵退却スルニ當リ其準備スヘキ破壞作業及ヒ其設築スヘキ諸障礙物ノ如キハ之ヲ豫察スルヲ極メテ難シ故ニ敵地ニ於テ行軍スルハ或ハ道路ノ修覆ヲ要スル

ヲナリ或ハ行進ヲ阻絶セラル、ヨアリ從テ行程ヲ短縮スルニ至ル是故ニ行軍ノ開始スルニ先タチテ畫定スヘキ行軍日程ノ算法ハ猶ホ行軍路線ノ畫定ノ如ク作戰間之ヲ變革スヘキヲ多シ是等ノ理由アルヲ以テ敵軍ノ近傍ニ於テスル行軍ニ在テ行程ノ長短ハ毎日行軍令ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

退却行軍ヲ行フ時殊ニ我國地ニ於テ退却スルルハ其形勢上ノ如ク困難ナラス蓋シ軍ノ後方ニ在ル土地ハ假令ヒ敵國ニ於テ戰爭スル時ト雖必ス次舍勤務ノ兵隊或ハ我第二線ノ兵隊ヲシテ之ヲ守備セシメ而シテ此兵隊ハ諸方ニ巡回シテ以テ道路狹隘等ノ保護ニ任スレハナリ是故ニ我退却ヲ妨害スヘキ障礙ノ如キハ決シテ之ヲ憂フルニ足ラス又假令ヒ弊惡ノ道路アルモ我軍ハ機會ヲ失セスシテ能ク之ヲ修繕スルヲ得ヘシ其他軍背ノ土地ハ常ニ探報人ヲ欠クヲナキ故緊要ノ事情

ハ常ニ迅速精密ニ之ヲ知ルヲ得ヘシ

ホ 行軍地境

各行軍縱隊ニハ常ニ一ノ行軍地境ヲ分與シ以テ此境界内ニ通スル諸道路及ヒ諸物資糧食等便宜應用セシム是レ隣接縱隊ノ間ニ發生スヘキ諸紛議ノ根原ヲ斷チ且速ニ此地方ニ存在スル各種ノ需用品ヲ徵收シテ成ル可ク充分ニ之ヲ兵隊ニ分配スルヲ得セシムル爲メナリ(行軍戰術第二部)

各縱隊ノ行進スル道路ノ中間ニ於テ小水流、丘阜、森林等ノ如キ超過スヘキ天然地物アリテ行軍一般ノ方向ニ平行スルルハ之ヲ用ヒテ行軍地境畫定ノ線ト爲スヘシ何トナレハ其行進スル道路悉ク此境界内ニ通スルヲ以テ日々行軍ノ終リニ於テ舍營スルニモ亦翌日再ヒ發途スルニモ常ニ迅速之ヲ行フヲ得混雜スルヲナク又徒ニ疲勞スルヲ無カ

ルヘケレハナリ蓋シ行軍路線ニ平行スル此ノ如キノ地線アルハ輦
 チ之ヲ利用スヘシト雖モ常ニ之ヲ得ヘキ者ニアラス通常行軍路線ヲ
 テ直ニ行軍地境ノ分畫線トナスヲ多シ此時ニ在テハ行軍路線ノ右
 方或ハ左方次ノ行軍路線ニ至ルマテノ地ヲ以テ各縱隊ノ行軍地境ト
 定ムヘキナリ

千八百五年九月二十一日拿破翁帝ノ萊尼河ヲ通過スルヤ其軍ノ行進
 運動ヲ畫定スルニ當リ各縱隊ニ分與スヘキ行軍地境ヲ畫定シタリ

帝ノ慕拉ニ贈リタル書ニ曰大將拉努其軍團ノ需用品ヲ徵收スルハ的
 爾拉克ヨリス土德牙ニ至ル道路ノ右方ニ於テシ大將寧ハ此道路ノ左
 方大將芻達ノ行進スル道路ニ至ルマテノ地方ニ於テシ芻達ハ其道路
 ノ右方大將陀伯ノ道路ニ至ルマテノ地方ニ於テシ又陀伯ハ其道路ノ
 左方ノ地ニ於テスヘシト

單一道路ヨリ行進スル軍團其行軍地境內ニ於テ一般ノ方向ニ準スル
 支道アルハ宜シク之ヲ利用シテニ縱隊トナリ以テ行軍ノ時間ヲ減
 シ兵隊ノ疲勞ヲ省キ且敵襲アルニ當リ縱隊ノ排開ヲ迅速ニスヘシ軍
 團砲兵及ヒ輜重縱隊ハ本道ヨリ行進スル師團ニ隨從シ而シテ別道ヨ
 リスル師團ハ單ニ其戰員及ヒ輜重ノミヲ以テ行進スルヲ法トス

此ノ第二師團ノ進行スル道路ハ屢々本道ト交叉スルヲアリ然ル時ハ
 細密ニ意ヲ用ヒ以テ兩縱隊ヲシテ相撞突セサラシムルヲ計ルヘシ即
 チ行軍及ヒ戰鬪術第二部ニ記載スル所ノ如シ

行軍道路ノ用法ヲ周密ニ定規スルヲ斯ノ如クナルノ後チ宜シク軍背
 行軍路線ノ編制策線ノ側衛側衛枝隊ノ編組此枝隊ノ占領點ヲ研究ス
 ハク又之レカ爲メニ次舍兵站戍兵ノ司令官等ニ授クヘキ各種ノ訓令
 ナ草定セサル可ラス

前進及ヒ退却ニ於ケル師團縱隊及ヒ軍團縱隊ノ常則行軍隊制ハ余カ
行軍戦闘術ニ詳述セリ故ニ此篇ニ於テハ唯該隊制ノ原則ヲ摘載スル
ニ止ルハシ

前進行軍ニ於テハ各兵隊戰場ニ臨テ交戦スヘキ順序ニ遵テ縱隊中ノ
位次ヲ占ム此兵隊ハ每歩兵大隊或ハ每砲兵中隊ニ區分シ其間各適宜
ノ距離ヲ存シテ稍獨立ノ勢ヲ成シ以テ運動ヲ容易ニシ且運動間錯亂
疲勞ノ原因タル遽止急走ノ害ヲ除ク此間隔旅團ニ在テハ少シク之ヲ
増シ又同一路ヨリ行進スルニ師團ノ間ニ在テハ之ヲ延シテ四百或ハ
五百米突ト爲ス縱隊ハ一ノ前衛ヲ設ケテ先驅ト爲ス其任敵兵來攻ス
ルニ當リテハ之ニ抗抵シテ之ヲ阻遏シ縱隊本部ヲシテ其戦闘隊次ニ
移ルノ時間ヲ得セシムルニ在リ

退却行軍ニ於テ縱隊ヲ編制スルニハ縱隊半轉廻ヲ爲シテ敵ニ面スル
井諸隊ノ順序恰モ前進行軍ト同一ナル如クス此時縱隊ハ一ノ後衛ヲ
設ケテ殿後トナス其任所在ノ防禦物資ヲ應用シテ追敵ヲ防支スルニ
在リ

師團縱隊ノ長サハ前進或ハ退却ヲ行フニ應シテ九吉羅米突乃至十二
吉羅米突トス軍團縱隊ノ長サハ二十三吉羅米突乃至二十五吉羅米突
トス

此ノ長サハ其最大限ヲ示スモノナリ故ニ行軍中若シ之ヲ減縮シ得ハ
キ時機アレハ必ス之ニ乗スルヲ肝要トス即チ兵隊漸ク疲勞ニ慣レ且
行軍紀律確立スルニ至レハ宜シク此長サヲ減縮スヘシ凡ソ行軍縱隊
ノ長サ愈ヨ短縮スルハ行軍日程愈ヨ増延シ軍ノ展開愈ヨ疾速ナル
ヲ得ルモノトス

輸送 軍團ノ輸送隊ハ六日間ノ糧餉參謀部及ヒ兵隊ノ行李、本營病院車金庫郵便電信部ノ車輛砲工材廠及ヒ船橋材料等ヨリ成ル者ニシテ車輛ノ數凡一千百八十輛トス其數莫大ナルヲ以テ輸送隊ハ兵隊ニ接シテ駐泊或ハ行軍スル能ハス何トナレハ縱隊不意ノ事變ニヨリ急ニ退却スルニ當リ其道路全ク開通スルニアラサレハ容易ニ之ヲ行フコト能ハサレハナリ

千七百六年五月二十三日佛ノ大將維爾魯^{ズイロウ}ハ Raminies ニ占陣シ其右翼ハ Méhaigne 川ニ依托シ其左翼及ヒ中央ハ小 Gette 川ノ沼澤ヲ以テ之ヲ庇護ス敵軍ノ大將馬爾勃盧公^{マルボル}ハ佛ノ陣線ニ平行スル陣地ヲ占メ其左翼ヨリ攻撃シテ佛軍ノ右翼ヲ擊却ス是ニ於テ維爾魯ハ Jodeligne ヲ經テ退却シ Tilenont ノ方ニ向ヒ其輜重モ亦兵隊ニ伴フテ退却ス佛軍ノ一部一狹隘ヲ通過スルニ當リ會マ前衛ノ車輛毀損シ砲兵其他ノ行李ハ

之カ爲メニ其行進ヲ阻絶セラル佛軍ハ復タ順序齊整トシテ行進スル能ハス隊伍分散シ兵卒皆其兵器ヲ捨ツ是レ佛軍敗亡ノ一因ナリ佛軍退却ノ後敵兵ハ兵ヲ進メテ平原ニ出テ大ニ其隊列ヲ開張シ毫モ追撃ニ意ナカリシ然ルニ佛軍擾亂ノ報ヲ得乃チ其騎兵及ヒ乘馬歩兵ノ過半ヲ出シテ急ニ追躡セシメ別ニ二十五大隊ノ歩兵ヲシテ之ニ繼進シ以テ佛軍ノ錯亂ニ乘セシム是時佛軍ノ過半敵ノ擒ニスル所トナリ軍旗大砲彈藥車等亦大抵其ノ獲ル所トナル馭卒ノミ輓馬ニ騎シテ僅ニ免ル、ヲ得タリ(下、カンシーノ戰史)

千七百九十五年十月十二日佛將就爾^{シュール}楨^{グレン}ハ敵ノ大將屈烈發德^{クレフエー}ノ大軍ニ逢ヒ己ムヲ得スシテ退却シ先ツ Meuse 川ノ畔岸ヲ去テ Lahn 川ニ退キ次ニ Dusseldorf ニ走ル此時佛軍ノ運動ハ極メテ倉皇ニ出テ軍ト輜重トハ豫メ其距離ヲ遠隔スル能ハス又道路ノ險惡ナルカ爲メ行進間大ニ錯

亂ヲ生シ輜重ノ大半ハ敵ノ奪フ所ト爲リタリ
 千七百九十六年八月二十二日就爾檀ノ右翼ヲ警衛シテ Neunmarkt ヲ占
 領スル伯拿獨德ハ埃將查爾ノ爲メニ攻撃セラレ退テ Altdorf 及ヒ Lant
 ナ保ス次日就爾檀ハ此ノ報ヲ得甫メテ其策線ノ脅威セラル、ヲ知リ
 Amberg 及ヒ Nuremberg ヨリ退テ其策線ヲ保護セント欲ス因テ其師團ニ
 命シ Naab 川ヲ去リテ Amberg ニ向ヒ次ニ Sulzbach Lant ヲ經テ Nuremberg ニ
 出テシム二十五日佛軍ハ Sulzbach ノ邊リニ陣ス然ルニ前日查爾ハ瓦
 爾賴列孟ノ軍ト合シ共ニ佛軍ヲ尾撃シ同時ニ別隊ハ伯那獨德ニ迫リ
 之ヲ撃テ Lant ヨリ退走セシメタリ因テ佛軍ハ後ロニ埃ノ本軍アリテ
 之ニ迫リ又前ニ埃ノ枝隊アリテ Nuremberg ノ道路ヲ阻絶シ進退頗ル窮
 蹙ス是ニ於テ就爾檀ハ已ムヲ得ス道ヲ轉シテ Welden ニ出テ以テ敵鋒
 ヲ避ント欲セリ然ルニ Sulzbach ヨリ Welden ニ赴クニハ Pegnitz 川ノ谷

内ナル Worch 二下リ嶮阻狹隘ヲ超越シテ谷ヲ上ラサル可ラス該時先
 頭ニ在テ行進セシ輜重ハ道路ヲ充塞シ全軍最危險ノ域ニ陥キリタリ
 就爾檀ノ記録ニ曰此時查爾ハ幸ニシテ二十五日ノ全日ヲ Sulzbach ニ費
 消シ僅カニ前衛一隊ヲシテ佛軍ヲ追撃セシメ又 Lant ノ近傍ニ陣スル
 埃將荷斯モ亦寡少ノ輕兵隊ヲ出シ Pegnitz 川ノ谷ニ沿フテ Worch ニ出
 テシメタリ因テ Worch ヲ占領シタル佛將奔諾ノ師團ハ嶮阻ニ依テ敵
 ナ待チ逐次ニ敵ノ兩軍ヲ迎撃シテ大ニ殺傷ヲ被ラシメタリ
 千八百十五年六月十四日拿破帝ハ次日ノ運動令ヲ下スニ當リ輸送隊行
 進ノ法ヲ定メタリ曰ク凡ソ輸送隊ハ如何ナル形勢ニ際スルモ參軍ノ
 命令アルニアラサレハ軍ヲ距ル三里以内ニ近接ス可ラス又 Saubrey 川
 ナ通過スルニモ亦宜シク命ヲ待ツヘシ
 此諸鑑例ニ由テ之ヲ觀ルニ凡ソ輸送隊ハ充分ニ軍ヲ距テ駐止或ハ行

進スヘク且何如ノ時機ニ際スルモ決シテ縱隊ノ前方或ハ後方ニ向テ
 施行スル運動ヲ障礙スルコトナキヲ要ス又一方ニ就テ之ヲ論スルニ軍
 團ノ輸送車一千百八十輛ハ間隔ヲ置カス悉皆相重疊シテ行進スル能
 ハス何トナレハ若シ之ヲ以テ一縱隊ト爲ス片ハ其長サ凡十四吉羅米
 突下ナリ且車輛斜阪ヲ昇降スルノ步度同シカラサルニヨリ行進中撞
 突ト紊亂トヲ免ル、能ハサレハナリ加之縱隊中若シ一車ノ顛覆スル
 コアル片ハ自餘ノ車輛之カ爲メニ若干時間阻滯セラル、等ノ弊害ア
 リ故ニ車輛縱隊ヲ區分スルハ各兵縱隊ヲ區分スルヨリモ緊要ナリト
 ス乃チ宜シク之ヲ若干ノ群即チ梯隊ニ區分シ其間各適宜ノ距離ヲ保
 存セシメ以テ其運動ヲシテ充分自在ナラシメ行進中一梯隊ヲ阻碍ス
 ヘキ不時ノ事變發生スルモ之ヲ他ノ後方ノ梯隊ニ波及セシメサルハ

軍團ノ輸送ハ通常之ヲ四群即チ四梯隊ニ區分シ縱隊中ノ位次ハ積載
 物ノ種類ニ從テ之ヲ定ム即チ兵隊ノ急需ニ應スヘキ物品ヲ輸送スル
 梯隊ヲシテ本軍ニ近接セシム

此諸梯隊駐軍スルニ當リテハ常ニ行軍ノ順序ニ遵ヒ且其中間ニ於テ
 充分遠大ノ距離ヲ保存スヘシ是レ次日各隊同時ニ途ニ上リ且後方梯
 隊ノ先頭追及スルニ先タチ前方梯隊ノ後尾ヲシテ己ニ其距離ニ在ラ
 シムル爲メナリ蓋シ之カ爲メ前後二梯隊ノ距離ハ各梯隊ノ長サヨリ
 モ更ニ之ヲ遠大ニスヘシ然レモ又此距離ヲ過遠ニシテ無益ニ全縱隊ノ
 長サヲ延伸ス可ラス余輩ノ見ル所ニ依レハ各群ノ運動ヲ自在ニシ且
 撞突ト阻滯トヲ避クル爲メ兵隊及ヒ輸送先頭ノ梯隊ノ間六吉羅米突
 ノ距離ヲ存シ其餘ノ梯隊ハ各四吉羅米突ノ距離ヲ隔ツヘシ即チ兵隊
 ノ直前方或ハ直後方ニ駐泊スル輸送梯隊ノ距離ハ行軍距離六吉羅米

突ニ加フルニ其縦隊ノ長サヲ加ヘテ十吉羅米突トナシ其他ノ梯隊ノ駐軍距離モ亦之ニ準シテ算定ス

然レ此距離ハ固リ一定シタルモノニアラス例ヘハ輸送隊ヲシテ井泉或ハ森林ノ近傍ニ駐泊セシメント欲スルモ或ハ又舍營地區ニ狹隘等ノ存スルモハ之ヲ増減セサルヲ得ス但前進行軍ニ當リ狹隘アルモハ必ス輸送隊ヲ狹隘ノ後方ニ駐メ又退却行軍ニ在テハ之ヲ其前方ニ駐ム軍團ニ縦隊ニ分レテ行軍スルモハ其輸送モ亦二部ニ分ツ而シテ良好ナラサル道路ヨリ行進スル師團ニハ前章之ヲ説ク如ク其所屬輸送ノミヲ附屬ス該時輸送隊ノ區分前法ニ異ナルヲナシ

ト 軍糧支給法

兵隊ノ食料ヲ給與スルニハ三法アリ即チ左ノ如シ

第一 給養部ノ倉庫及ヒ輸送ノ料品ニ因ルノ法

第二 軍ノ經過スル地方ノ物資ニ因ルノ法

第三 給養部ノ輸送品ト地方ノ物資トヲ并用スルノ法(行軍戰闘術第

二部第二編ヲ参考スヘシ)

第一 倉庫及ヒ輸送ニ因ルノ法

佛王路易十四世ノ軍及普王弗黎德律二世ノ軍ハ倉庫及ヒ炊竈ヲ從ヘ之ニ因テ生活セリ其倉庫ハ皆巨大ナル編制ニシテ全戰役間ノ糧餉ヲ蓄積スルノ所トナシ軍ノ敵地ニ進入スルニ從ヒ其策線上四日或ハ五日程毎ニ新タニ倉庫ヲ設ケ其蓄品ハ之ヲ第一倉庫ニ取ル又輸送ニ用ナル車輛ハ地方ニ就テ之ヲ徵發シ其積載スル糧食ハ最モ軍ニ接近スル倉庫ニ就テ之ヲ取り以テ軍隊ニ送致ス是故ニ軍ノ倉庫ヨリ遠隔シ得ヘキノ距離ハ地方車輛ノ多寡此車輛ノ積載シ得ヘキ食品ノ量并ニ兵隊及ヒ倉庫間ノ往復日數ニ應シテ之ヲ定メサル可ラス

此ノ如キ支給法ハ作戰ヲ障碍スル固ヨリ官ヲ待タズ例ヘハ一般ノ形勢ニ應シテ撰定シタル策線ヲ使用センカ爲メ此線上ニ倉庫ヲ編設ス然ルニ行軍數日ニシテ敵軍俄然最初ノ形勢ヲ變更スルハ此策線無用ニ屬シ或ハ危険ニ陷キルコアリ該時當初ノ策線ヲ捨テ、新ニ他ノ策線ヲ採用スルモ其事甚タ困難ナリトス何トナレハ急ニ舊倉庫ヲ新策線上ニ移シ或ハ新ニ之ヲ編設スル能ハサレハナリ是ニ於テ止ムヲ得ズ糧食倉庫ヲ庇護スル爲メ無益ノ運動ヲ行ヒ或ハ新ニ策線ヲ定ムル爲メ出發點ニ退却スルニ至ル故ニ當時ノ軍ハ殆ト其倉庫ニ牽制セラレ巴里治納^{メリーヂエツエルク}ノ言フ如ク實ニ作戰ハ糧食ノ爲メニ左右セララル、ニ至レリ

此法ハ無學ノ將帥ニ屬スル軍中ニ於テ其弊殊ニ甚シトス夫ノ千七百五十七年ヨリ千七百六十二年ニ至ル萊尼有岸ノ戰役ノ若キハ其例最

モ顯カナリ拿破侖日阿諾威地方ノ戰役ニ於テ佛人ノ採用シタル戰法ハ衆ヲ以テ寡ニ破ラレ莫大ノ物資ヲ擁シテ毫モ爲ス所ナキノ術ナリト今日倉庫ニ因テ給養スルノ法昔日ニ比スレハ大ニ困難ヲ減シタリ何トナレハ行軍路線内ニ縱横スル鐵道ニ依リ容易ニ糧食ヲ軍ノ近傍ニ運輸スルヲ得レハナリ

今日大倉庫ヲ設立スルニハ往昔ノ如ク邊疆上ニ於テセスシテ内地ニ於テ敵軍ノ攻撃ヲ遮障シ且ツ鐵道ヲ以テ軍ニ連絡スルノ點ニ設置ス其儲蓄料品ノ新設及補充ハ中央會計部之ニ任シ内地或ハ外國ニ就テ買辨ス而シテ軍ノ會計部ハ之ヲ軍後ニ運輸シテ各團ニ分配スルニ任ス之カ爲メ軍ノ會計部ハ要用ナル物資ヲ大倉庫ヨリ取り鐵道線上或ハ尋常路上ニ支倉即チ動倉ヲ設ケ行軍縱隊ノ輸送隊ヲ距ル一日程ノ

所ニ在テ軍ニ追隨ス乃チ其ノ目的ハ軍ノ輸送隊ヲ補充スルニ在リ故
 ニ之ニ須要ノ車輛ヲ付與シテ最後ノ輸送梯隊ニ運輸スルノ資トナス
 然レモ運送隊ト動倉トノ間ニ於テ車輛往復ノ頻繁ナルハ猶ホ昔日ニ
 異ルコトナク隨テ行軍戰鬪術ニ説明シタル如ク軍ノ行軍日程爲メニ屢
 短縮セラレ或ハ俄然駐止スヘキコトアリ然ハ則チ此給養法ノ最モ難シ
 トスル所ハ所要ノ物資ヲ集收スルニアラスシテ時機ヲ失スルコトナク
 之ヲ各隊ニ分配スルニ在リ加之大倉庫ヨリ動倉ニ輸送スル物資ハ一
 切鐵道ノ助ケニ依ラサル可ラス故ニ我行軍路線ノ側面警戒ハ極メテ
 充分ナルモ若シ敵ノ遊擊騎兵此警戒線ヲ突過シテ軍背ノ地方ニ侵入
 シ若干ノ工作ヲ破壞シテ鐵道ノ運轉ヲ阻絶スルコトアレハ軍ト倉庫ト
 ノ交通ハ一時ニ斷絶シ其形勢ハ最モ危急ノ裏ニ陷ルヘシ是ニ由テ之
 ナ觀レハ前進行軍中倉庫及ヒ輸送隊ニ因テ給餉スルノ法ハ專用スヘ

キモノニハアラサルナリ

退却行軍ニ於テ我軍最初ノ行軍路線ヲ經テ退却スル時ハ此方法ヲ用
 フル更ニ容易ナリトス其故ハ軍ハ最初前進行軍ヲ行フタル時其背後
 ニ於テ集積シタル儲蓄所ニ向テ漸々近接シ隨テ輸送隊及ヒ兵隊ハ大
 抵此諸倉庫ニ殘留スル物資ヲ取りテ自カラ補給スルヲ得レハナリ加
 之倉庫ヲ建設セサル道路ヨリ退却スル兵隊ト雖其補給品ヲ得ル決シ
 テ難カラス何トナレハ次舍司令官ハ横綴鐵道ヲ利用シテ豫メ此道路
 上ニ所要ノ糧食ヲ送り以テ此縱隊ノ輸送ヲ補給スルヲ得ヘケレハナ
 リ

然レモ退却スル軍其最初採用シタル行軍路線ヲ經過スル能ハスシテ
 他ノ方向ヨリ之ヲ行ハサルヲ得サルハ利害全ク反ス蓋シ此時兵隊
 ハ通常其輸送ニ依頼スル能ハスシテ(行軍戰鬪術第二部ヲ參照スヘ)シ

唯其帶フル所ノ糧食及ヒ横綴鉄道ニ依テ舊行軍路線ヨリ新路線ニ運
輸シ得タル糧食アルノミ而シテ鉄道ヨリ遠隔シテ行進スル縦隊ヲ補
給スル如キハ其事極メテ難シトス
此等ノ論考ニ由テ之ヲ觀ルニ倉庫及ヒ輸送ニ因テ補給スルノ法ハ決
シテ専用スヘキモノニアラス唯他ノ方法ヲ用フル能サル時ニ於テス
ルノミトス

第二 軍ノ經過スル地方ノ物資ニ依ルノ法

佛國第一共和政府ノ兵隊ハ天幕ナク倉庫ナク輸送ナク行軍間毫モ補
給ノ法ヲ設クルコトナシ約美尼曰佛軍ハ輻重ヲ引卒セサル故毎日ノ行
程十里ノ余ニ上ルヲ得而シテ村落アレハ此ニ宿營シ各兵土民ノ家ニ
就キ或ハ徵發法ヲ用ヒテ飲食セリ其白耳義ヲ攻メ荷蘭陀ヲ畧シ日耳
曼及ヒ伊太利ヲ蹂躪スルニ當リテ用ヒタル行軍法ハ此ノ如キノミト

此行軍法ニ在テハ各縦隊ニ一ノ行軍地境ヲ賦與シ縦隊ハ此地境內ノ
物資ヲ徵發シテ自カラ補給ス

行軍正面廣延ナル時即チ敵軍ト相距ル遠キ時ハ兵隊行軍順序ヲ以テ
舍營シ土民ニ就テ飲食ス乃チ地方ノ貧富ヲ按シテ兵隊ヲ分賦セサル
可ラス中等ノ饒地ニシテ我軍未タ經過セサル片ハ一村落一日間其人
口ニ七八倍スル兵員ヲ養ヒ得ヘキ者トス此法ハ甚タ簡易ニシテ且長
行程ニ至當ナリ敵兵漸ク相近接スルヤ行軍正面及地境自カラ縮小シ
且戰術上ノ所要ニ因リ兵隊ノ一部ヲシテ露營セシムルコトアリ此時ニ
於テハ舍營スル兵隊ノミ上文ノ比例ヲ限リ民家ニ就テ飲食スルヲ得
ヘシ露營スル兵隊ハ行軍地境內舍營セサル地ニ徵發ヲ行ヒ以テ所要
ノ糧食ヲ資ル

前進行軍ヲ行フ井軍ノ司令長官ハ搜索勤務ニ任スル騎兵師團ニ命シ

沿道市村ノ貧富肥瘠ヲ調査セシメ以テ各行軍地境ヲ畫定ス
 會計官吏騎兵師團ニ隨行スルルハ時機ニ依リ示命ノ地點ニ糧食ヲ收
 積シ或ハ須要ナル麵包等ヲ準備セシム
 會計官吏ナキハ各隊ヲシテ其所要ノ糧食ヲ徵發セシム之カ爲メ行
 軍地境ニ於テ更ニ地區ヲ畫定シテ各隊ニ賦與シ以テ徵發ニ紛議ヲ生
 スルコナク其實施整肅ニシテ規正ナラシム
 千八百十二年 Polotsk ノ近傍ニ駐在セル佛軍ハ大ニ糧食ノ欠乏ヲ憂ヘ
 會計部ハ復タ之ヲ奈何トモスル能ハス是レ當時地方ノ物資ハ土寇ノ
 爲メニ搶奪セラレ炊竈水車等ハ盡ク破壊セラレタルニ由ルナリ是ニ
 於テ大將給維翁聖西爾イヴオンサンシールハ此患害ヲ濟フ爲メ各師團長ニ命シ各地ニ就
 テ其兵隊ヲ保育セシメタリ之カ爲メ各軍團ニ一管區ヲ指定シ其内ニ
 就テ糧食ヲ徵發セシム即チ Dvina 河ノ左岸ヲ第六軍團ニ其右岸ヲ第

二軍團ニ Obol 川及ヒ Sornitsa 川ノ兩岸ヲ騎兵師團ニ賦與シタリ而シテ
 此各地方ニ徵發枝隊ヲ發遣シ糧食ヲ收積シテ之ヲ分配スルハ一ニ將
 官ノ任スル所ナリ此法ヲ實施シテヨリ數日ナラサルニ水車炊竈ハ盡
 ク舊ニ復シ糧食ノ分配モ亦正シク之ヲ施行スルヲ得佛軍饑渴ノ患ハ
 頓ニ其跡ヲ斷ツニ至レリ
 退却行軍ニ於テ次舍司令官及ヒ會計部ノ官吏ハ沿道地方物資ノ狀況
 ナ軍ノ司令長官ニ報告シ又所要ノ物資ヲ準備スルニ任ス
 凡ソ徵發ハ其方法如何ニ論ナク物品受收ノ際必ス貨幣ヲ以テ之ヲ贖
 フハシ蓋シ此方法ハ住民ヲシテ其物資ヲ匿藏セシメサルノ最良法ナ
 リ
 地方ノ物資ニ依テ給養スルノ法ハ最簡最易ナル固ヨリ論ヲ俟タス且
 此方法ヲ用ルルハ行軍日程ヲ増加シ且神速ニ人馬ノ食料ヲ完辨スル

ヲ得隨テ軍ノ運動ヲ輕捷ニスルノ大利アリ然レモ物資ノ豐殺ハ地方ニ從テ變化スルモノナレハ到ル處我需求ニ應スル能ハサル亦固ヨリ解シ易キ所ナリ例ヘハ千八百五年ノ戰役ノ若キ佛軍ハ初メ此方法ヲ採用シタリト雖モ爲メニ大欠乏ヲ生シタリ拿破帝ノ監督長北低也ニ贈リタル書ニ曰我軍ハ倉庫ナクシテ行進スルヲ要セリ是レ時機ノ已ムヲ得サルナリ當時最良ノ氣候ニ遭遇シ到ル處敵ニ克多サルハナク到ル處蔬菜ヲ得サルハナシト雖モ常ニ糧食ノ欠乏ヲ憂ヘタリ若シ田野馬鈴薯ナク或ハ我軍失敗ヲ被フリタルルハ倉庫ノ在ラサル爲メ不測ノ禍難ニ罹ルヘシト因テ作戰ヲ續行スル爲メ大倉庫ヲ Angsbourg ニ建設セシメタリ

第三 倉庫及ヒ地方ノ物資ヲ併用スル法

軍ヲ保育スルニ唯地方ノ物資ノミニニ依頼スルルハ時々軍須ヲ欠乏スルノ大患アリ若シ又軍ニ倉庫及ヒ輜重ノミニニ依ルルハ其弊害前文説述スル如シ故ニ戰時軍ヲ養フノ最良法ハ前條説示スルニ法ヲ併用スルニ在リ

抑モ軍ハ勉メテ地方ノ物資ニ依テ保育スルテ法トス其故ハ此法最モ單簡ニシテ運動ヲ神速ニシ且疾カニ需求ニ應シ得ルノ利アレハナリ而シテ其倉庫及輸送ハ勉メテ之ヲ貯存シ地方物資ノ需用ニ不足ナルル或ハ地方資瘠ニシテ糧食全ク欠乏スルノ時ニアラサレハ決シテ之ヲ分配ス可ラズ(約美尼ノ説)又各兵ノ負擔スル糧食ハ輸送隊ノ到着機ニ後ル、ノ時ノミニ限リ之ヲ用フ

是故ニ敵軍ト相距ルコト尙ホ遠ク行軍正面延長シ且經過地方肥腴ナル時ハ縱隊其行軍順序ヲ保存シテ舍營シ各兵皆土民ノ家ニ就テ飲食ス而シテ尙ホ物資ノ餘裕アレハ則チ之ヲ徵收シテ以テ動倉及ヒ輸送隊

ヲ補充ス

之ニ反シテ漸敵軍ニ近接シ、行軍正面縮小シ且戰術上ノ要求ニヨリ兵隊ノ一部ヲシテ露營セシムルノ時ニ至リテハ行軍日程ノ端末ニ存在スル村落ニ就テ兵隊ノ一部ヲ舍營シ其餘露營スル兵隊ノ食料ハ行軍地境內舍營ニ用ヒサル村落ニ就テ之ヲ徵發ス

地方塞瘠ニシテ其物資全縱隊ヲ保育スルニ足ラサルハ最初到着シタル兵隊ノミニ徵發物資ヲ分配シ之ニ繼テ到着スル兵隊ハ軍團ノ輸送ヲ以テ之ヲ保育ス

地方ノ物資全ク欠乏スルハ始メテ倉庫及ヒ輸送ノミヲ用ヒ以テ全軍ヲ保育ス

第二 行軍ノ實施

行軍令

行軍ノ諸準備ハ前章論陳スル原則ニ依リ聚中運輸ニ於テ盡ク之ヲ間決定セリ即チ行軍正面、行軍路線、行軍日程、行軍地境ヲ計畫シ、行軍縱隊ノ編成、行軍中ノ軍紀、給餉法及ヒ交通法等永續ノ生質ヲ存スル者ニ係ル訓令ヲ草シ又次舍兵隊司令官ノ爲メニ軍ノ背後ニ於ケル行軍路線ノ編制并ニ固着病院、移動病院、給養倉庫ノ建設其他行軍路線ノ側衛處分等ニ關ハル訓令ヲ準備セリ概言スルニ作戰ノ總体ヲ研究シ以テ運動開始前ニ於テ命令シ得ヘキ事ハ盡ク之ヲ下達シ又不意ノ事變ニ應シ得ル爲メニス

故ニ聚中運輸一タヒ終レハ直ニ行軍令ヲ下ス

抑モ行進スル軍ハ至大ノ地境ニ彌曼スルモノナリ而シテ此行軍地境ノ幅ハ敵軍ノ遠近ニ應ス又其長サハ軍團縱隊ヲ以テ行進シ且前方或ハ後方ニ在ル騎兵隊ノ長サヲ算入セサルハ前進行軍或ハ退却行軍

ヲ行スニ從ヒ二十三吉羅米突乃至二十五吉羅米突トス而シテ若シ之ニ加フルニ輸送隊ノ長サヲ以テスルハ縱隊ノ全長六十吉羅米突ニ達ス又但シ兵隊行軍ニ練熟シ疲勞ニ慣ル、ハ縱隊中各群ノ距離ヲ減縮シ以テ縱隊全長ヲ減スルヲ得然レモ五十吉羅米突ヨリ下ルハ大抵爲シ得ヘカラサルモノナリ

此廣濶ナル地境內ニ於テ許多ノ兵隊縱隊或ハ車輛縱隊同方向ニ行進ス故ニ總軍ノ運動整肅嚴密ニシテ以テ何レノ形勢ニ際スルモ各兵隊ヲ主將能ク掌裏ニ檢束シ得ル爲メ必ス此運動ヲ整序セサル可ラス

此至難ナル論題ノ答解ハ一方ニハ行軍令ニ載セタル狀報及諸規則ニ係リ一ニハ各軍團長及ヒ各縱隊長ノ精密確實ニ此諸規則ヲ遵奉スルニ係ル

故ニ行軍令ノ草案ハ極メテ重大ナルヲ以テ周密ニ念慮ヲ注キ之ヲ編

撰セサル可ラス約美尼曰將官ノ第一資格ハ固リ良策ヲ計畫スルノ法ヲ知ルニ在リ而シテ能ク命令ヲ明亮ニシテ其奉行ヲ容易ニスルハ直ニ之ニ亞クノ資格ナリト

凡ソ命令ノ文ハ簡易ニシテ明瞭ナルヘク又運動ヲシテ整肅及嚴密ナラシムルニ必要ナル諸訓告ハ一切之ヲ登記シテ毫モ遺漏ナキヲ要ス但シ實施上ノ細目ヲ揭示スヘカラス是レ縱隊ノ司令ニ任スル者固ヨリ老練ノ將帥ナルヲ以テ之ヲ記載スルモ決シテ益ナカルヘシ

行軍令ニ依リテ各軍團ノ司令官ハ一般ノ形勢作戰ノ目標及ヒ軍動ノ總體ヲ審知シ以テ何レノ時機ニ際スルモ主將ノ籌策ニ應シテ進退スルヲ得ヘシ抑モ一將官ハ特リ上將ノ配備ヲ熟知シ能ク之ヲ實施シ得ルヲ以テ足レリトセス亦能ク畫策ノ全体ヲ通覽シ作戰ノ眞目標ヲ確知シ而シテ其主旨ニ背カス部下ノ各運動ヲ規定シ得ルヲ要ス殊ニ不

慮ノ事變ニ際シ能ク之ヲ本初ノ目標ニ復層シ得ルヲ肝要トス蓋シ不慮ノ事變ハ戰時屢々發生スル所ニシテ大ニ作戰ノ結果ニ關係アルモノナリ(約美尼ノ說)

通常行軍令ニハ地方ノ畧圖ヲ添附ス然ルルハ一目以テ諸縱隊ノ形勢ヲ觀察シ直ニ運動ノ總体ヲ理解スルヲ得ルノ利アリ

千八百五年佛ノ大軍萊尼河ヲ發シテ多惱河ニ赴クニ當リ拿破帝ハ日々各部ノ大將ニ命令ヲ下シ以テ敵軍ノ形勢作戰ノ目標及ヒ我各軍團ノ

逐次ニ占領スル位地ヲ知ラシメタリ其諸將ニ贈リタル書ニ曰大將伯爾麥卿等ニ本日我軍ノ占領スル陣地ヲ通知ス云々又十月二十日帝ハ

大將伯那獨德ニ諭シ中將馬爾門ト大將陀馬トノ交通ヲ綿密ニ維持セシメタリ其書ニ曰卿畧圖ヲ接スルルハ陀馬ノ Wernitz ニ出ルハ十五日

ノ候ニアルヲ知ルヘシ而シテ若シ敵軍 Donawerth へリ來テ之ヲ攻ムル

トアレハ宜ク馬爾門ニ急報シ速ニ救援セシムヘシト

行軍令ハ各軍團ノ編成スヘキ縱隊ノ數此各縱隊ノ行進道路及ヒ其發途ノ時刻等ヲ詳載ス是レ主席ヲシテ行軍中各縱隊ノ逐次ニ占領スル

位地ヲ明瞭ニ推知セシムルカ爲メナリ

發途ノ時刻ヲ定ムルニハ前進行軍ニ於ケル各前衛或ハ退却行軍ニ於ケル各後衛ヲシテ勉メテ齊頭面ニ在テ行進セシムル如ク之ヲ算定ス

是レ敵ニ會シ各隊容易ニ相應援スルヲ得ルカ爲メナリ故ニ行軍令ニ記載スル發途ノ時刻ハ前進行軍ニ在テハ則チ前衛發途ノ時刻ニシテ

退却行軍ニ在テハ後衛發途ノ時刻ナリ

又大休止ヲ行フヘキルハ行軍令ヲ以テ其地點ヲ明示ス此地點ハ各縱隊休止間連絡ヲ失ハス敵兵來攻スルルハ速ニ戰鬪隊次ニ移ルヲ得ル如ク之ヲ撰定ス敵軍ト遠隔スル時ニ在テハ薪水ノ在ル所ニ於テ兵隊

休憩ノ便ヲ計ルヘシ敵ノ近傍ニ於テ行軍スルホハ必ス戰術上ノ利害ヲ察シ一防禦線ヲ以テ大休止場ノ在ル所トナシ各縱隊ハ此線ノ後方ニ於テ一二時間駐止スヘシ前衛或ハ後衛ハ我軍ノ行進方向ニ應シ恰モ前哨兵隊ノ如ク配備ス抑モ此規則ハ甚タ要重ナリ約美尼曰兵ニ將タル者多クハ休止ノ方法及ヒ時刻ノ規定ヲ忽ニシ行軍中終ニ諸種ノ混雜ヲ醸成ス各師團或ハ旅團ハ其兵卒少シク疲勞シ或ハ快樂ノ露營地ヲ發見スレハ輒チ休止シ得ルト爲セハナリ蓋シ兵員愈ヨ衆多ナレハ發途及ヒ休止ノ事ヲ嚴正ニ規定スルト愈ヨ緊要ナリトス凡ソ發途及ヒ休止ニ關スル命令規則ハ猶ホ他ノ命令規則ノ如ク必ス嚴確ニ之ヲ奉守スヘキ者トス約美尼曰過失或ハ故意ニヨリ此法令ニ背違スル者アレハ亟カニ之ヲ放逐スヘシト縱隊ノ到着點及ヒ到着後ノ處分モ亦行軍命令ニ因テ之ヲ規定ス

各軍團長ニ與フル行軍命令ニハ其右方或ハ左方ニ在テ行進スル縱隊ノ兵力及ヒ兵種其發途時刻其行進道路及ヒ大休止ヲ行フヘキ地點其行軍日程ノ終ル所其着宿後ノ配備法并ニ其前哨線ノ位置等ヲ詳細ニ記載シ以テ各軍團長ヲシテ行軍間其隣接縱隊ノ占領位地ヲ精知シ以テ敵襲アルニ當リ或ハ其來援ヲ請ヒ或ハ之ヲ赴援スルノ方法ヲ確定シ得セシム(約美尼ノ說)

退却行軍ニ於テハ行軍命令ニヨリ兵隊ノ施行スヘキ諸種ノ破壞作業ヲ規定ス凡ソ敵ノ面前ニ在テ退却スル軍ハ其前進スル時策線上ニ集積シタル各種ノ物資ヲ殘留セサルヲ通則トス故ニ全ク撤去シ能ハサル倉庫アレハ之ヲ毀壞シ地方ノ獸畜及ヒ車輛等ハ皆之ヲ携提シテ退去シ勉メテ田野ヲ清ムルノ計ヲ爲スヘシ又鐵道電線ノ如キモ一々之ヲ截斷シ道路ハ之ヲ梗塞ス但シ技術ニ係ル工作橋梁棧道墜道等ハ主將

ノ命令アルニアラサレハ之ヲ毀壞スルヲ得ス主將ハ後日再ヒ此地ヲ
 占領スルノ念ナキハ或ハ將來必期ス可ラサルノ利益ヲ慮ルヨリモ寧
 ロ一時之ヲ破壞シテ敵ヲ苦シマシムルヲ優レリト判決スルハ則チ
 命シテ之ヲ壞タシム(行軍戰鬥術)

其他行軍令ハ輸送隊發途ノ時刻其行進道路及ヒ其宿營地點等ヲ定ム
 敵ト遠隔スルハ數日ヲ通シテ行軍令ヲ下スモ妨ケナシ然レハ一タ
 ヒ交戰地界ニ進入スルハ必ス毎日行軍令ヲ下布シ以テ敵軍ノ新形
 勢ヲ報知シ且常ニ戰鬥ノ準備ヲ怠ラサシム

概言スルニ軍ノ主將ヨリ各軍團長ニ與フル行軍命令ニハ左ノ件々ヲ
 記載ス

第一 一般ノ形勢敵軍ノ陣地或ハ敵ノ諸縱隊ノ行進方向

第二 主將ノ企圖スル作戰ノ目標

第三 軍ノ運動方向

第四 軍團ノ行軍隊形前衛或ハ後衛ノ發途時刻一縱隊或ハ二縱隊ヲ
 編成スルニ應シ其行進スヘキ道路大休止ノ時間及ヒ之ヲ行フヘキ
 地點行軍日程ノ終ル所到着後各縱隊及ヒ各前哨ノ占領スヘキ陣地
 第五 軍團ノ右方或ハ左方ニ在テ行進スル縱隊ノ兵力及ヒ編成其ノ
 行進道路其發途ノ時刻其大休止ヲ行フヘキ地點其行軍日程ノ終ル
 所其到着後占領スル陣地

第六 退却行軍ニ於テ施行スヘキ破壞作業

第七 敵襲ニ際シ此軍團ノ作用

第八 首本營ノ經過スル道路及ヒ之ヲ設立スル地點

第九 主將ニ進呈スヘキ定期報告ノ數

第十 軍ノ騎兵ノ位置及ヒ其行進スル概方向

各軍團長ハ主將ノ命令ニ依リ所要ノ條件ヲ知悉シ之ニ因テ其縱隊ノ行進ヲ規定シ彼我一般ノ形勢及軍團ノ任務ヲ部下ノ師團長ニ通知シ以テ何レノ時機ニ際スルモ此任務ノ主旨ヲ体認シテ諸動作ヲ決行セシム尙ホ軍團長ハ行軍戰鬥術ニ記載スル要領ニ從ヒ軍團ノ行軍令ヲ編草スヘシ

ロ 軍ノ發途

縱隊ハ行軍令ヲ以テ規定セシ時間ニ到レハ之ニ違フコトナク速カニ上途ス

主將ハ通常軍ノ中央ニ在テ行進ス是レ迅速ニ其命令ヲ各軍團ニ傳フル爲メ及ヒ各軍團ヨリ進呈スヘキ諸報告ヲ迅速ニ受領シ得ル爲メナリ主將ハ電線ヲ架設シタル道路或ハ其近傍ノ道路ニ在テ行進シ而シテ此電線ハ軍背ノ地ニ通スル鉄道ノ電線及ヒ各縱隊ノ道路ニ架設ス

ル諸電線ニ連絡スルモノトス

敵ノ行進方向及ヒ其陣地ニ應シ我軍正面ノ一部或ハ其一翼特ニ要重ノ形勢ヲ帶フルルハ司令長官ハ往テ此方面ニ占位ス是レ敵軍ニ會遇スルニ當リ形勢ヲ勘査シテ時機ヲ失フコトナク必要ノ命令ヲ下シ且作戰ヲ指揮スル爲メナリ

例ハ八千八百五十年佛軍ノ多惱地方ニ向テ運動スルニ當リ拿破帝ハ常ニ其軍ノ右翼ニ在テ行進セリ是レ當時作戰ノ困難及ヒ危害ハ實ニ此方向ニ輻湊シタレハナリ蓋シ此翼ハ「三」一ニハ周圍ニ於テ施行スル運動ノ軸心トナリ埃軍ノ攻撃スル所トナルヘク爲メニ一敗スルルハ全軍危険ニ陥ルヘク又一ニハ那帝既ニ上文ニ説キタル如ク此翼ヲ以テ埃將馬克ヲ攻撃セント欲セリ故ニ此翼ハ至要至重ノ者トナリタリ各軍團長ハ前進運動或ハ退却運動ヲ施行スルニ應シ其前衛或ハ後衛

ニ在テ行進ス斯ノ如クナルルハ常ニ敵軍ニ近ク縱隊ノ前面背面及ヒ比隣縱隊ノ近傍ニ於テ發生スル諸事變ヲ詳知スルヲ迅速ナリ隨テ機會ヲ誤ルヲナク之ニ應スルノ諸配備ヲ命令スルヲ得レハナリ
軍團ニ縱隊ニ分レテ行軍スルルハ團長ハ通常電信線ノ近傍ニ在テ行進スル縱隊中ニ占位ス若シ又軍團軍ノ一翼ニ在テ行進スルルハ團長ハ外翼ノ縱隊ト共ニ行進ス是レ敵襲ニ際シ直ニ之ニ應スル諸配備ヲ執リ得ル爲メナリ

各縱隊ノ監督官吏及ヒ給養部ノ吏員ハ常ニ兵隊ニ先チテ行進シ以テ行軍地境内ニ存スル物資ノ多寡ヲ調査シ之ヲ徵發シ且之ヲ其所屬兵隊ノ宿營地ニ運輸ス此諸官吏ハ前進行軍ニ在テハ軍ノ騎兵ヲ以テ之ヲ保護シ又退却行軍ニ在テハ軍ヲ以テ之ヲ保護ス

ハ 各縱隊間ノ關係

各縱隊長ハ其兵隊發途スルヤ直ニ近隣縱隊長ト交通ス之カ爲メ各隊長ハ其發途ノ時及ヒ道路上某ノ要点例ハ狹隘森林水流高地大村落等ノ如キ地点ニ到着シタル時或ハ其行進ヲ阻滯スヘキ重大ノ事變發生シタル時若クハ敵軍ニ關スル緊要ノ報告ヲ得タル時毎ニ數名ノ騎兵ヲ以テ編成スルーノ斥候ヲ派出ス此斥候ハ往テ其所屬縱隊ノ位置及ヒ敵軍ニ關スル事情ヲ隣縱隊長ニ通報シ又若シ隣縱隊ノ方ニ於テ同様ノ事アレハ則チ歸リ來テ之ヲ其隊長ニ稟告ス(此種ノ通報ニ係ル書式ハ行軍戰鬥術ニ詳載ス宜シク參觀スヘシ)
此種ノ交通ハ各縱隊間ニ於テ緊密ノ連絡ヲ維持スルモノナリ若シ此等ノ交通ヲ怠ルルハ各縱隊ノ運動一致的確ナル能ハス
拿破翁ハ殊ニ此交通法ヲ肝要トセリ帝ノ諸大將ニ與ヘタル信書ヲ觀ルニ屢々此事ヲ懇諭セリ以テ帝ノ深ク此ニ注意セシヲ知ルニ足ル

千八百五五年九月廿七日帝ハ大將陀馬ニ書ヲ贈リ佛軍ノ多惱ニ向テ行進スルニ當リ其諸隊ヲ探ルヘキ道路ヲ通知シタリ

其書ニ曰大將伯那獨德中將馬爾門ハ卿ノ左翼ニ在テ Winzburg ヨリ多惱ニ行進ス余ハ卿ノ一參謀官ヲ馬爾門ノ許ニ派出シ且通信哨ヲ設置シ以テ各宿泊地ニ於テ右翼ノ事情ヲ馬爾門ニ通知シ併セテ必須ノ時ニ際シ卿ハ其援助ヲ受ケ或ハ之ニ援助ヲ與フルノ用ニ備フヘシト

十月十二日帝ハ Landsberg ヨリ Meningen ニ向ヘル大將芻達ニ書ヲ送り其右方ニ在テ行進スル大將慕拉ニ連絡スヘキヲ命シ且ツ曰ク卿若シ五六名ヲ以テ編成スル二三ノ哨所ヲ設ケ以テ卿ノ宿泊地ヨリ Weissenborn ノ間ニ布置スル片ハ交通ヲ欠クノ憂ナカルヘシト

行軍縱隊ハ常ニ相應援スルヲ必要トス己レ敵ト接セサル時ニ際シ某方向ニ於テ砲聲ヲ聞ク片ハ必奉馳セテ之ニ赴クヘシ蓋シ戰爭ノ第一

原則ハ凡ソ戰ニ臨ミ勝利必期ス可ラサルニ因リ必ス往テ敵襲ヲ受ケタル團隊ヲ援フヲ要ス全軍勝敗ノ關スル所ナレハナリ拿帝ノ信書ヲ觀ルニ懇ニ是言ヲ載スル者多シ

ニ 前進行軍中側面ノ警戒

敵開地ニ在テ行進シ且各縱隊甚シク相隔絶セサル時中間ニ在ル縱隊ノ側面ハ軍ノ前面ニ在テ警戒幕ヲ編成スル騎兵及ヒ此各縱隊ノ中間ニ縱横スル交通斥候ニヨリ充分之ヲ保護スルヲ得ルモノトス

土地蔭蔽嶮難ナル時或ハ道路ノ經始法ニヨリ某縱隊過度ニ相隔絶スル時等ニ在リテハ上項ノ警戒法ニ加フルニ監視斥候ヲ以テシ特ニ道路ノ左右ニ綿亘スル地方ヲ搜索セシムルヲ必要トス又然ルニ外翼ニ在テ行進スル縱隊ハ殊ニ敵襲ノ患アルヲ以テ此等ノ警戒法未タ充分ナリト謂フヘカラス蓋シ敵ハ我正面ノ一部ヲ攻撃スルヨリモ寧ロ一

翼ニ向テ其全力ヲ聚注スルヲ求ム是則チ後文説述スル如ク其利益タル實ニ至大ニシテ且困難ニ遭遇スル亦甚ク稀レナレハナリ正面ニ在ル縱隊ハ常ニ其近隣ニ縱隊ノ援助ヲ得ルト雖外翼ニ在ル縱隊ハ通常唯内隣一縱隊ノ援助アルノミ其他ノ縱隊ハ距離隔絶スルカ爲メ決シテ應援ニ便ナラス殊ニ行軍路線ノ畫定宜ニ適セサルハ愈ヨ然リトス是故ニ軍ノ兩翼ノ警戒即チ軍ノ側面警戒ハ特別配備ヲ設ケテ之ヲ確實ナラシムルヲ必要トス

軍ノ騎兵ハ通常敵ノ占領スル陣地ヲ探知シ或ハ否ラサルモ敵軍ノ駐在スル地方ヲ偵知シ得ルモノトス而シテ敵軍正ニ我正面ニ對シテ占陣シ我側面ハ唯寡弱枝隊遊撃ノ憂アルニ過キサルハ左ノ如ク警戒法ヲ施ス

敵襲ヲ被フルヘキ我側面ニ地物例ハ一帯ノ河津ヲ以テ庇護スルハ

ハ數個ノ枝隊ヲシテ敵兵ノ來攻スヘキ諸橋梁ヲ扼絶セシム千八百五
年拿破侖ハ前章説述シタル如ク Passau 及 Linz ニ各一師團ヲ出シ以テ
本軍ノ左翼ヲ警戒セシメタリ是レ當時奧ノ親王非地難^{フニシナ}一萬余ノ兵力
ヲ將テ Bohême ニ駐在セルヲ以テナリ

若シ軍ノ一翼地物ヲ以テ庇護セサルハ騎兵ヲシテ勉メテ遠方ニ至
ルマテ警備セシメ又護衛枝隊ヲ編成シテ本軍ノ運動ニ從ヒ併進セシ
ム騎兵ハ夙ニ敵兵ヲ發見シテ之ヲ報知シ隨テ側翼軍團長及ヒ軍ノ司
令長官ハ充分ニ敵ヲ擊退スルノ畫策ヲ決行スルノ時間ヲ有スヘシ此
時側衛隊ハ先ツ陣地ニ據テ敵軍ノ行進ヲ阻礙ス其動作恰モ一ノ舍營
或ハ露營ヲ庇護スル前哨隊ノ如シ

敵軍我正面前ニ布陣シ同時ニ其兵力ノ大部分ヲ提ケテ我一側面ニ臨
ムハ其脅威ヲ被リタル側面ニ向テ兵力適大ノ枝隊ヲ發遣セサル可

テス時宜ニヨリテハ一軍團ヲ以テ全ク之ニ充テ成ル可ク河流或ハ山脈ノ如キ險阻ヲ占領セシム是レ敵兵ノ進入スヘキ諸道路ヲ梗塞セシムル爲メナリ

千八百五年佛軍ノ前面ニハ危都索及ヒ江昧約ノ軍アリ其右側ニハ奥ノ親王約翰アリ又 Alpes 山ノ外方ニハ查爾公アリ而シテ查爾公ノ軍ハ佛將馬塞拿ノ軍ニ比スレハ兵力頗ブル強大ナル故時機ニ依リテハ大枝隊ヲ Tyrol 地方ニ發遣シ親王約翰ノ軍ヲ増加シテ大ニ佛軍ノ右側及ヒ背面ヲ脅威スルヲ得ヘシ拿破侖ハ此危害ヲ拒防スル爲メ本書第三部第一章ニ説述シタル如ク大將歐如郎及ヒ寧ヲシテ Tyrol 地方ニ備ヘ更ニ中將馬爾門チ Lachen ニ派遣シ以テ其警戒ヲ確實ニセリ

概言スルニ軍ノ側翼ノ警戒ヲ確實ニスルニハ前章説示シタル策線側面ノ警戒法ト同様ノ配備ヲ採用スルモテトス

ホ 退却行軍ニ於ケル側面ノ警戒

退却行軍ニ於テ我軍最初ノ策線ニ由テ退却スルルルハ其側面ヲ警戒スル頗ル便ナリ是レ此策線ノ側面警戒ニ任セラレタル兵隊ハ逐次後方ノ兵隊ニ退合シテ漸ク其兵力ヲ増加スルヲ以テ敵軍ノ我ニ向テ施行スル攻勢運動ハ日一日ヨリモ困難ナル可レナリ

之ニ反シ我軍前進スル時ニ當リテ採用シタル方向ヨリ退却シ能ハサルルルハ側面警戒ノ方法恰モ策線變換ノルルト同一法ヲ用フ即チ軍ノ司令長官ハ各次舍司令官ヲシテ新行軍方向ヲ審知セシメ次舍兵隊ノ人員及ヒ材料ヲ此新線ニ轉輸スルヲ命シ且此新線ノ側面ヲ警戒スル爲メ枝隊ヲシテ占領セシムヘキ諸地點ヲ指示ス

軍ノ背面ニ於ケル行軍路線ヲ編制スルニ於テ人員及前進行軍ニ在テハ軍モ背ニ通後スル鐵道及ヒ尋常路上ニ於テ人員及

材料ノ運動間斷アルナシ
 此運動ノ首要ナル者ヲ舉ケレハ三種ノ方向ニ通ス即チ左ノ如シ
 其一 前方ヨリ後方ニ通スル運動即チ傷者及病者ノ退送、戰虜及戰獲
 ノ運搬等是ナリ
 其二 後方ヨリ前方ニ通スル運動即チ出征軍ニ補充ノ糧食、被服、彈藥
 兵器、人員、馬足等ヲ運輸シ又行軍路線上ノ要點若クハ此線ノ側面陣地
 ナ占領セシムル爲メ第二線ノ軍ヲ運搬スル等是ナリ
 其三 左右ニ通スル運動即チ作戰地境內ニ於テ徵發シタル糧食、獸畜
 ナ以テ動倉ヲ補給スル爲メ之ヲ次舍道路上殊ニ鐵道上ニ運搬スル等
 是ナリ

此諸運動ヲシテ整肅且神速ナラシムルニハ宜シク其方法ヲ規定シ運
 動ヲ整序スルヲ猶ホ第一線軍各部隊ノ運動ヲ計畫セシコトクナルハ
 シ
 軍ノ背後ニ於ケル一切勤務ノ統理ハ一將官ヲ以テ之ニ任シ次舍兵隊
 司令官ト爲シ次舍勤務ニ屬スル諸兵隊及ヒ諸人員皆ナ其部下ニ直隸
 ス又軍背ノ道路脈ハ之ヲ若干ノ管區ニ分テ各管區ニハ將官或ハ上長
 官一名ヲ以テ之カ長トナス該長官ハ次舍兵隊司令官ニ直隸シ其管區
 内次舍勤務ノ編制及ヒ指揮ニ任ス
 我軍逐次前進スルニ應シ各管區長ハ次舍ヲ編制シ敵ノ遊擊騎兵或ハ
 敵ハ別働隊我道路脈內ニ潛入シテ之ヲ襲撃スルノ憂アルハ則チ堡
 塞、次舍ニ建設ス道路、橋梁、鐵道、電線等ヲ修理シ又其管區内ノ鐵道上
 ニ築設シタル要重ノ工作物例ハ橋梁、築道、棧道等ハ之ヲ保護スル爲
 ヲ防禦工作ヲ構築シ且之レニ戍兵ヲ備フ又軍ノ司令長官ノ命令ニ從
 ヒ次舍司令官ノ指定スル地點ニ於テ倉庫、病院、新癒者ノ養生所及軍馬

既ノ編制炊竈ノ建設等ヲ指揮ス而シテ次舍全線若クハ其一部ノ監督官タル上長官及ヒ首要ノ次舍ニ駐在スル要塞司令官ハ各管區長官ニ屬シテ其任務ヲ補佐ス次舍監督官ハ專ラ次舍道路及ヒ側方道路ノ保存並ニ次舍勤務ノ實施及ヒ次舍線上ノ風紀ヲ監督審査スルニ任スル者ナリ

次舍兵隊司令官ハ終始主將ノ訓令ヲ遵奉シテ此諸勤務ヲ整理スヘシ乃チ行軍路線漸ク開張スルニ應シ其線上ノ諸點及ヒ其側面ニ在ル諸地點ニハ第二線兵隊ヨリ枝隊ヲ發遣シ又主將ヨリ指示セラレタル地點ニシテ我作戰ノ據點タルヘキモノ或ハ我軍退却ノ時ニ際シテ占領スヘキ地點ニハ防禦法ヲ設ケテ之ヲ堅牢ニス(拿破翁ノ說)

ト 地理

夫レ軍ハ常ニ敵軍ノ攻撃ニ抵抗シ得ルノ準備ナカルヘカラス故ニ司

令長官ハ地方ノ防禦資源ヲ熟知シ以テ其前面ニ在ル二三ノ陣地ヲ利用シテ敵襲ヲ禦ルヘシ(二世弗黎德律ノ說其行軍路線及ヒ行軍日程ヲ畫定スルニ當リ仔細ニ該地ノ地圖ヲ研究セルヲ以テ敵襲アルニ際シ占領シテ利アルヘキ陣地ハ此時既ニ圖上ニ於テ其位置ヲ認識スルヲ得然レモ地圖ノ指示スル所ハ僅ニ概況ニ過キス以テ實地ノ利害ヲ詳ニシ之ニ應スル兵隊ノ配備法ヲ決定スルニ足ラス故ニ必ス實地ノ偵察ヲ用ヒ以テ其不足ヲ補完セサル可ラサルナリ

此偵察ハ參謀官ノ任スル所ニシテ該官ハ軍ノ前面ニ在ル騎兵師團或ハ師團騎兵ト共ニ行進ス抑モ偵察士官ハ主將ノ耳目ニシテ主將ヲシテ其報告ニ依リ敵ト遭遇スルニ當リテ速ニ之ニ應スルノ配備法ヲ豫決シ且此事變ニ關スル必要ノ訓令ヲ各軍團長ニ豫告スルヲ得セシム拿破翁曰主將ハ一日ニ數回自問スルヲ要ス曰ク敵軍我正面或ハ右翼

若クハ左翼ニ來攻スルニ應シ我軍之ニ當ルノ法何如ト蓋シ主將ヲシテ能ク此問題ヲ解答セシムル者ハ亦偵察官ノ報告ナリ
 門盧克曰凡ソ敵ノ爲シ得ヘキ事ハ宜シク銳意之ヲ窺索スヘシ之カ爲メ諸君ハ彼我所ヲ易ヘタルモノト做シ我レ若シ敵ノ地位ニ在レハ計果シテ何レノ點ニ出ツヘキヤヲ考察スヘシ請フ看ヨ敵軍ノ謀策諸君ノ謀策ト偶中スルヲ多シト

前進行軍ヲ行フニ當リ我軍諸要點ヲ過クル毎ニ司令長官ハ親シク該地形ヲ觀又タ各軍團長ヨリ送付スル報告ニ因リ其已ニ知ル所ヲ補充ス此ノ如ク意ヲ用フルヲ以テ假令ヒ不時ニ退却スルヲアルモ司令長官ハ逐次後方ニ於テ軍ノ占領スヘキ地点ヲ確示シ又次舍兵隊司令官ニ命シテ已レノ欲スル如ク之ヲ堅固ニセシムルヲ得ルナリ
 故ニ退却行軍ヲ行フニ當リ我軍最初ノ策線ヨリシテ退却スルルハ凡

ソ此線上ニ於テ逐次ニ保據スヘキ地点ノ利害ハ司令長官盡ク之ヲ熟知シ隨テ其要重ニシテ依頼スヘキ者ノ豫メ堅固ニ防禦法ヲ構設セシムルヲ得

然レモ最初前進シタル道路ヨリ退却スルヲ得サルルハ復タ上ノ如クスル能ハス蓋シ此時ニ在テハ宜シク後方ノ諸地点ヲ綿密ニ偵察セシムルヲ必要トス但シ此偵察ハ決シテ前進行軍ヲ行フルノ如ク困難ナラサルヘシ其故ハ偵察將校ハ遠方ニ到ルヲ得ルヲ以テ諸陣地ヲ偵察スルニ充分ナル時間ヲ有シ又必要ノ防禦工作ヲ指示スルヲ得レハナリ

凡ソ地形ノ審査ハ特リ司令長官ニノミ肝要ナルニアラス各縱隊ノ司令官ト雖亦深切ニ之ニ注意スヘキナリ何トナレハ其部下兵隊ノ戰闘スヘキ地形ハ決シテ不問ニ放置スル能ハサレハナリ此偵察ニ關シ縱

隊司令官及ヒ偵察士官ノ体認スヘキ諸規則ハ行軍戦闘術ニ詳載ス

子 狹隘ノ通過

一軍前進運動或ハ退却運動ヲ施行スルニ當リ大河、大林、山地等ノ如キ地物ニシテ敵軍ノ保據セサル者ニ遭遇スルハ之ヲ通過スルニ際シ宜ク必要ノ方法ヲ預設シ以テ各縱隊ヲシテ狹隘ノ出口ニ於テ必ス連絡ヲ保タシムヘシ

前進行軍ニ於テ此等ノ地物アルハ軍ノ騎兵ハ其大小、位置并ニ橋梁道路、山頸、狹隘等ノ位置ヲ探索シテ司令官ニ報告シ以テ行軍令中通過ノ方法ヲ告示スルノ時ヲ得セシム

若シ此地物一ノ水流ナルハ軍團長夜間ニ架橋材料ヲシテ前進セシメ以テ詰且發途ノ時輸送第一梯隊ノ先頭ニ就キ又ハ諸兵縱隊ノ中ニ占位スルヲ得セシム若シ橋梁アリテ敵兵未タ之ヲ毀壞セサルハ若

干縱隊ヲシテ之ヲ通過セシメ其餘ノ縱隊ハ指定ノ地點ニ於テ船橋兵ノ架設シタル軍橋ヨリ通過ス此軍橋ハ行軍縱隊ノ通過畢レハ地方ニ就テ徵集シタル舟艇ヲ以テ之ニ代ヘ或ハ固定橋梁ヲ以テ之ニ代フ而シテ敵軍ノ破壞シタル永久橋梁ハ次舍兵隊司令官之ヲ修繕セシム又該官ハ適宜ニ撰定シタル地點ニ於テ橋頭堡ヲ構設シ第二線ノ兵隊ヲシテ之ヲ守衛セシメ且其對岸ニ於テ砲臺建設ニ適當ナル位置ヲ準備ス是レ我軍不時ノ退軍アルニ當リ之ニ依テ敵軍ヲ抵拒シ以テ我軍ノ通過ヲ安全ニスル爲メナリ

若シ又我軍ノ通過スヘキ地物山岳或ハ森林ナルハ次舍兵隊司令官此狹隘ノ出口ニ防禦法ヲ構築セシム概言スルニ該司令官ハ我軍已ムヲ得ス退却ヲ行フニ當リ困難ナク此諸地物ヲ通過シ得ル如ク諸配備法ヲ豫行スヘキナリ

一縱隊司令官狹隘ノ出口ニ到着シタル片ハ直ニ之ヲ比隣各縱隊ニ報告ス時宜ニ依リテハ一時其兵隊ヲシテ適宜ノ地點ヲ占領セシメ隣縱隊全ク狹隘ヲ通過シ應援ノ方法確定スルヲ待チ始メテ該狹隘ヨリ進出ス何トナレハ隣縱隊ノ未タ全ク狹隘ヲ通過セサルニ先タチ獨リ進出スル片ハ其勢ヒ自ツカラ孤立シ隨テ敵ノ爲メニ要撃セラル、ノ大害アレハナリ

千八百六年佛軍ハMain川谷ヨリSale川ニ向テ行進シ將ニ普軍ヲ迂回セントスルニ方リ道Thuringeノ山脉ヲ超越セサル可ラス時ニ佛軍ハ三縱隊ニ分レテ行進シ右翼ノ大將芻達^{ヌート}ハBayreuthヨリHofニ向ヒ中央ノ大將伯那獨德^{ベルナドット}ハLobenstein Ebersdorfヲ經テCornachヨリSchleitzニ進ミ又左翼ノ大將拉努^{ラヌ}ハCobourgヨリSaalfeldニ赴ク此三縱隊ノ行軍法ハ計畫極メテ宜ニ適セリ何トナレハ其右翼ノ縱隊Hofニ到着スルノ日他ノ二

縱隊ハ山脉ノ出口ニ於テ其陣地ヲ占ノ齊頭面ニ在ルヲ要セリ

拿破帝ハ芻達ニ命シテ曰卿Hofニ到着スレハ直ニLobenstein Ebersdorf及ヒSchleitzニ交通スヘシ余ハ當日Ebersdorfニ在ルヘシ卿ハHofニ出テ探知スル所ノ敵情何如ニ應シ少シク我中央ノ方ニ近倚シ或ハPlanenニ向テ進撃シ得ル爲メ更ニ前進シテ陣地ヲ占領スヘシト

帝ハ十月十日Ebersdorfニ到着シ此地ニ駐滯シテ諸軍ノ山脉ヲ通過スルヲ待チ然ル後親カラ敵軍ニ向テ進マント欲セリ其再ヒ芻達ニ贈リタル書ニ曰余ノ處理スヘキ軍背ノ事務ハ極メテ繁多ナル故余ハ暫ク前進スル能ハサルヘシ故ニ余ハ唯前衛ヲ派出シテAnnaニ到ラシノ又大將寧^子ヲシテEannaニ出テシムルヲ以テ限リトス故ニ寧ハSchleitzヲ距ルニ里許ノ所ニ在リ又卿Planenヨリ此ノ地ニ至ルニハ二十四時間ヲ費スニ過キサルヘシ大將拉努敵軍ノ阻碍ニ遭ハサレハ本日當サニ

Osafeldニ到着スヘシ故ニ十日十一日ノ兩日ハ到底徒ラニ之ヲ費消セサルヲ得ス而シテ余ノ全軍一タヒ連絡スルヤ直ニ程ヲ抜キ Neustadt 及ヒ Triptisマテ銳進スヘシト

退却行軍ニ於テ行フヘキ狹隘ノ通過ニハ最初ノ策線ヨリ退却シ或ハ他ノ方向ヨリ退却スルニ從ヒ自ラニ様ノ方法アリ

最初ノ策線ヨリ退却スル時ニ在リテハ軍ノ司令長官詳ニ各地物ノ位置及ヒ利害ヲ知り隨テ通過ノ方法ハ既ニ其畫定スル所ニ係ル故ニ軍ハ極メテ容易ニ之ヲ通過シ去ルヲ得ヘシ

他ノ方向ヨリ退却スヘキ片ニ在テハ沿道ノ諸地物ハ軍ニ先行スル偵察士官ヲシテ之ヲ搜索セシム然ル後チ地物通過ノ法ハ前進行軍ニ於ケルト同法ニ依ル但シ其架橋材料ハ常ニ先頭輸送梯隊ノ前面ニ在テ行進セシムルヲ異ナリトス蓋シ退却行軍ニ於テ軍ノ通過ニ必要ナル

軍橋ハ必ス兵隊ノ到着スルニ先チテ之ヲ架設シ行軍ヲシテ毫末ノ遲滯ヲ生スルトナカラシムルヲ肝要トスレハナリ

抑モ退却運動ヲ規定スルニハ軍ヲシテ駐止スル毎ニ必ス一ノ防禦線ニ依テ自カテ庇護シ得ル如ク之ヲ定ムルヲ要ス又機會ノ如何ヲ問ハス都テ軍ハ決シテ某地物ノ前方ニ於テ停止ス可ラス必ス常ニ之ヲ通過シタル後ニ於テスヘシ是レ不慮ノ敵襲アルニ當リ嶮岨ノ中ニ陷穽セラレサル爲メナリ(行軍戰鬪術)

水流ノ後方ニ陣地ヲ占メ之ニ據テ敵軍ノ河ヲ渡ルヲ拒カントスルニハ須テク橋梁ヲ保存シ兵隊ヲシテ此橋梁ヲ防護スヘキ堡壘ヲ占領セシムヘシ是レ我軍自在ニ兩岸ニテ動作シ得ル爲メナリ而シテ我目的一ニ退却ノミニ在ルモハ乃チ之ヲ毀壞ス其他ノ狹路ノ如キモ亦必ス之ヲ梗塞シ以テ勉メテ敵ノ行進ヲ阻碍スヘシ

二個ノ縦隊同時ニ一狹隘ヨリ通過スヘキハ運動ニ最モ時間ヲ要スヘキ縦隊ヲシテ第一ニ通過セシム而シテ此縦隊ハ其行進方向如何ニ論ナク恰モ獨立スル如ク此狹隘ヲ通過ス前進行軍ニ於テハ第二縦隊其舍營ヲ發スルニ際シ第一縦隊ニ繼進シ得ル如ク上途スルヲ法トス然レモ退却行軍ニ於テハ決シテ此法ヲ行フ不能ハス即チ第二縦隊ハ第一縦隊ノ上途シ畢ル迄其舍營ニ止マル能ハサルナリ其故ハ敵軍不意ニ來襲スルヲアレハ第一縦隊既ニ狹隘中ニ進入シタル故容易ニ返戦スル不能ハス爲メニ全軍敗亡ヲ取ルニ至ル可レハナリ故ニ退却行軍ニ在テハ兩縦隊同時ニ發途シ而シテ其第二縦隊狹隘ノ邊リニ到リテ初メテ要害ノ陣地ヲ占領スルヲ利アリトス

此二縦隊同一ノ軍團ニ屬スルハ軍團長其行軍ノ方法ヲ畫定ス然レモ相異ナル二個ノ軍團ニ屬スルモノハ軍ノ司令長官之ヲ決定ス

第三 前進行軍ニ於ケル軍ノ騎兵

イ 總論

戰役ノ初メニ當リ軍ノ司令長官其軍ヲ上途セシムルノ法及ヒ之ヲシテ我撰定シタル攻撃點ニ赴カシムルノ方法如何ハ前章之ヲ論陳シ又此攻撃點ヲ定ムルハ戰畧ノ第一問題ナルト亦讀者ノ既ニ了知スル所ナリ

然レモ此運動ヲ施行スルニ際シ不慮ノ大事變涌出シ終ニ最初ノ計畫ヲシテ水泡ニ歸セシムルトアリ例ヘハ我作戰ノ目標タル敵軍ハ我攻撃ニ應スル爲メ其最初ノ駭中陣地ヲ變更シ或ハ又徒然我ノ攻撃ヲ坐待スルヨリモ寧ロ進ンテ一撃ヲ試ムルノ策ヲ取り爲メニ我正面或一側面ニ向テ舉動ヲ企ツル如シ此等ノ事變發生スルニ際シ我軍最初ノ策畧ハ復々用テ可ラス若シ最初ノ策畧ヲ頑守スルハ突然敵ノ襲撃

ヲ被テ大挫敗ヲ取ルヤ必セリ
 故ニ主將ハ一般ノ形勢上ニ生スル諸事變ハ必ス精細ニ之ヲ探索シ一
 且新形勢ノ生スルアレハ直ニ之ニ應スルノ配備ヲナシ時機ヲ失セス
 行軍正面、兵隊ノ配布、行軍路線ノ方向等ヲ變更スルヲ緊要ナリ
 此等ノ事變ヲ探索スル方法ハ敵國ノ新紙、敵地或ハ近隣ノ中立國ニ住
 居スル秘密探索使等是ナリ然レ就中最モ確實ニシテ且神速ナル方法
 ハ我動員及ヒ察中運動ヲ庇護スル爲メ邊疆上ニ派遣シタル騎兵トス
 此騎兵ハ敵ノ國內ニ侵入シ、敵ノ騎兵幕ヲ突過シテ其機密ヲ洞見スル
 ナ任トス其指揮宜ニ適シ且熟練ノ騎兵ヲ用フルルハ主將之ニ依テ敵
 ノ占領陣地或ハ行進方向ヲ察知スル殆ント確實ナルヲ得ル者トス
 千八百六年拿破翁ハ既ニ第三部第一章ニ説述シタル理由ニヨリ、Guine
 川谷ニ進出シテ普軍ノ左翼ヲ迂回セント欲セリ乃チ金軍ヲシテ其右

翼即チ Cobourg Bayreuth ノ間ニ聚中セシメ十月五日ヲ以テ運動ヲ開始セ
 而シテ佛軍ハ既ニ上ニモ言フ如ク三縱隊トナリ三路分進ス則チ一隊
 ハ Cobourg ヨリ Saalfeld ニ向ヒ一隊ハ Cornach ヨリ Schleitz ニ進ミ一隊ハ
Bayreuth ヨリ Hof ニ赴ク帝竊カニ以爲テ普軍佛軍ノ運動ヲ起シタル
 ナ知レハ必ス Leun Kraula トノ間ニ於テ占領シタル陣地ヲ捨テ軍ヲ退
 ケテ Elbe 河ノ右岸ニ出テ以テ Berlin 及ヒ普魯士ノ本部ヲ庇護スルヲ計
 ルハシト然ルニ十月七日帝ハ普軍ノ未タ其陣地ヨリ退去セサルヲ知
 リ御達ニ命シテ曰予ハ今日領收シタル諸報告ニ依テ按スルニ敵軍若
 シ其運動ヲ始ムルハ必ス我左翼ニ向テスヘシ其本軍 Bohmer ナ占領スル
 者ノ如シト

帝日帝ハ山北ヨリ其軍ヲ進メ銳意其各縱隊ヲ連結スルヲ圖リタリ蓋
 シ帝ノ意ハ假令ヒ敵軍來攻スルヲアルモ或ハ又我ニ先タチテ Elbe 河

ニ由テ以テ Berlin ニ至ル道路ヲ占領セント欲スルモ我軍ハ常ニ敵ノ計畫ヲ破リ之ヲシテ達成スルヲ得サシムルニ在ルナリ佛ノ輕騎ハ Posneck ニ進ミ次ニ Anna ニ向フ Anna ニ於テ普軍ノ一隊ニ會遇シ之ト闘テ大ニ之ヲ破ル此時普軍ノ行軍方向及ヒ其諸枝隊ノ向フ所ヲ觀ルニ普人ノ目標ハ Gera ニ在リト信セサル可ヲサルナリ

帝ハ再ヒ芻達ニ令シテ日卿ノ報告ニ依レハ一千ノ普軍 Plauen ヨリ Gera ニ向テ退却スルヲ確認シタリト予レ之ニ依テ考フルニ Gera ハ普軍ノ集合點タル殆ント疑フ可ヲサル如シ而シテ此事果シテ實ナレハ予ハ敵軍ノ我レニ先タチテ此點ニ到着スルヲ憂フルナリ然レモ其事ノ急ヨ實ナルト否トハ本日領收シヘキ報告ニ依テ之ヲ知ルヲ得ヘシ因テ卿モ亦 Plauen ニ於テ敵軍ノ事情ヲ探索スヘシ郵便局ニ於テ信書ヲ奪領セハ果シテ能ク新狀ヲ知ルヲ得ント

十一日佛軍ハ Schleitz ニ到ル而シテ其騎兵ハ Gera ノ邊リニ於テ普軍ノ大輸送一隊ヲ捕獲シ轉シテ Osarfeld 及ヒ Zeist ニ進ム然ルニ途上普軍ノ甚シク之ニ抗抵スル者ヲ見ス

十二日拿破帝ハ Anna ニ次ス而シテ其騎兵ハ Namburg Weissenfels Pegau ナル領シ且遠ク偵察隊ヲ出シテ Leipzig ニ到ラシム然レモ亦一人ノ敵兵ニ遭遇スルナシ此諸偵察ノ報告スル所及ヒ左翼縱隊ノ Saalfeld ニ於テ強大ノ敵軍ニ邂逅シタル等トニ依リ帝ハ始メテ當時ノ形勢ヲ明瞭ニ察知スルヲ得タリ即チ普軍ハ帝ノ當初料察シタル如ク北方ニ向テ運動ヲ行ハスシテ却テ初メヨリ其 Saale ノ左岸ヲ捨テサリシナリ是ニ於テ急ニ大將拉努ニ令シ數多ノ斥候騎兵ヲ派出シテ勉メテ敵陣ノ動勢ヲ探索セシメ且佛軍ノ行軍路線ヲ變シ以テ普軍ノ Dresden 及 Berlin ニ通スル通交路ヲ梗塞セリ

拿帝ハ敵ノ策線上ニ運動スルニ當リ郵便局内ニ於テ押收シタル信書
 等ニ依リ敵軍ノ事情ヲ得タルト勘キニアラス然レモ其緊要ニシテ且
 確實ナル報告ハ實ニ騎兵ヲ用ヒテ之ヲ得タルナリ蓋シLepelノ外方
 ニ出テタル騎兵ハ毫モ敵軍ノ踪跡ヲ發見セス是ニ於テ帝ハ初メテ敵
 軍ノ未タ嘗テ東北ノ方ニ退却セザリシヲ確知スルヲ得タリ
 故ニ騎兵ハ前文既ニ説ク如ク運動ノ施行間極メテ肝要ノ職務ヲ帶ヒ
 戰役ノ第一問題ヲ決スルニハ必要欠ク可ラサルナリ而シテ特リ戰役
 ノ當初ニ於テノミ肝要ナルニアラス作戰間發生スル萬種ノ問題ヲ決
 解シ之ニ應スルノ計畫ヲ爲スニ當リテモ亦騎兵大ニ與リテ力アリト
 ス蓋シ主將新形勢ヲ瞭察シ交戰後敵軍ノ退却シタル方向其占領シタ
 ル新陣地其新ニ得タル援軍ノ兵力之ヲ追撃スルニ當リテ通過スヘキ
 地物ノ難易追撃ニ用フヘキ道路ノ數及ヒ種類等ヲ詳ニシ概言スレハ

則チ新形勢ニ應シテ作戰問題ヲ答解スルニ必要ナル諸元素ヲ得ルハ
 通常騎兵ニ依ラサル可ラサレハナリ
 此問題ノ答解ニ必要ナル諸元素ヲ探究スルハ詳密ナラサル可ラスシ
 テ作戰ノ指揮即チ其計畫ノ可否ハ大ニ騎兵ノ報告ニ關係スルモノナ
 リ故ニ騎兵ノ任務ハ極メテ鈞重ナリトス
 此職務ハ通常騎兵師團ノ負擔スル所ニシテ其目的左ノ如シ
 第一 土地及ヒ物資ヲ偵察シ且軍ノ前面ニ於テ貫破ス可ラサルノ掩
 幕ヲ成シ以テ敵軍ヲシテ我諸運動ヲ見聞スルヲ得サラシム
 第二 敵軍ヲ探索シ其騎兵幕ヲ貫破シ敵軍ノ占領スル陣地或ハ其行
 進スル道路ヲ偵察ス概言スレハ敵軍ノ形勢ニ就テ極メテ確實ノ事情
 ヲ發見シ以テ軍ノ司令長官ヲシテ時宜ニ應シ當初ノ謀畧ヲ變更スル
 ヲ得セシム蓋シ司令長官ハ此報告ニヨリ敵ト戰ヲ交ユル爲メ其兵力

ヲ敵中シ或ハ交戦ヲ準備スル爲メ軍ノ舍營ヲ狹縮シ若クハ戦闘ヲ避
クル爲メ行軍路線ヲ變換スルヲ得ルナリ
騎兵師團ハ軍ノ前方六十乃至八十吉羅米突ノ所ニ在テ行進ス是レ司
令長官ヲシテ時機ニ應シ所要ノ配備ヲナスニ充分ノ時間ヲ得セシム
ル爲メナリ

師團騎兵ハ騎兵師團ニ比スレハ軍ヲ距ル更ニ短近ノ所ニ在テ行進シ
以テ行軍戰鬥術ニ詳載シタル規則ニ遵ヒ警戒勤務ヲ擔任ス是レ敵若
シ某方法ヲ用ヒテ我第一線ノ騎兵脈ヲ貫破シ其後方ニ侵入スルコト
ルモ更ニ此騎兵ノ警戒脈ノ爲メニ支ヘラレ其企謀ヲ達成スル能ハサ
ラシムル爲メナリ

軍ノ騎兵師團ハ其進退固ヨリ其爲ス所ニ任ス但シ同シク前面ニ在テ
共同此勤務ニ任スル他ノ師團アルハ必ス之ト連合シテ動作スルヲ

切要トス是レ各團敵軍ニ就テ要重ノ事情ヲ得タルハ互ニ之ヲ交換
スルヲ得且進退互ニ應援シ要スル時ニ際シテハ一處ニ集合スルヲ得
ル爲メナリ蓋シ敵ノ騎兵我ヲ攻撃スルハ相連合シテ之ヲ防拒シ我
レ又敵軍ヲ攻撃シテ其形勢ヲ偵察スルニ際シテハ共ニ協力シテ其目
的ヲ達スルヲ計ル

是故ニ騎兵ノ運動ハ恰モ軍ノ各縱隊ノ運動ノ如ク之ヲ規畫シ以テ敵
陣或ハ敵軍ヲ偵察シ若クハ敵ノ攻撃ヲ擊却スルニ當リテハ互ニ相應
援扶持スルヲ得セシムヘキナリ

之カ爲メ軍ノ騎兵諸師團ハ悉ク一司令官ノ統御ニ屬ス而シテ軍ノ主
將ハ此司令將官ニ一般ノ形勢答解スヘキ諸問題及ヒ其計畫シタル謀
畧ヲ通知シ以テ我軍ノ達成セント欲スル目的并ニ之ニ達スヘキ方法
ヲ知悉シセメ亦タ騎兵師團ノ擔任スヘキ特別勤務ニ關スル諸訓令ヲ

付與ス然レモ其實地動作ノ細目ニ涉リ及ヒ騎兵ノ運動ヲ掣肘スルニ足ルヘキ命令等ハ切ニ之ヲ下サ、ルニ注意スヘシ何トナレハ軍ヲ隔タル此ノ如ク遠距離ニ在リ其任務モ亦此ノ如ク要重ナルヲ以テ其進退自由ヲ得サルモハ騎兵遂ニ本分ノ性能ヲ發達スル能ハサルニ至ルヘケレハナリ

騎兵司令將官ハ是ノ如ク一般ノ命令ヲ受ケタル後自ラ部下諸師團ノ行軍全正面及行軍ノ路線等ヲ畫定ス

行軍令 騎兵司令將官ハ部下各師團長ニ行軍令ヲ下シ以テ各師團ノ運動ニ係ル一般ノ方法ヲ畫定ス但シ運動ノ細則ニ干涉スルコトナシ命令ニハ師團ノ行進スル道路其搜索スヘキ地境發途ノ時刻宿泊ノ地點隣接諸縱隊ノ進行スル道路其發途及ヒ到着ノ地點司令將官ノ行進スル道路并ニ其本營ヲ設置スル地點等ヲ記載ス又勉メテ精細且明瞭ニ

一般ノ形勢及ヒ軍ノ主將ノ企望スル目的ヲ載スルモノトス是レ各師團長ヲシテ其帶フル所ノ任務ノ種類及ヒ目的ヲ熟知シ以テ不時ノ事變ニ際シテ一般ノ謀策ニ適當スル臨機ノ配備法ヲ決斷シ得セシムル爲メナリ

此行軍令ノ書式ハ軍團長ヨリ師團長ニ付與スル行軍令ト同一ノ体裁ヲ用ユルモノトス

行軍正面 軍ノ騎兵ハ諸縱隊ヲ扞蔽シ軍ノ前面ニ在ル諸地物ヲ搜索スルヲ以テ其正面ハ勉メテ廣大ニシテ少ナクモ軍ノ行軍正面ト同様ナルモノトス

搜索正面 騎兵師團ハ他ノ行軍縱隊ノ如ク前衛ヲ設ケテ親カラ警戒ス此前衛ハ其前面及ヒ側面ニ若干ノ枝隊ヲ派出シ以テ敵軍ノ所在ヲ探索シ其多寡ヲ偵知シ而シテ同時ニ我軍ノ運動ヲ掩匿ス乃チ諸前衛

ノ搜索兵相連テ成形スル所ノ線ハ名ケテ搜索正面ト曰フ搜索正面ハ固リ行軍正面ヨリ廣大ナラサル可ラス何トナレハ騎兵ノ搜索兵ハ我側翼縱隊ノ外方若干距離ノ所ニ至ルマテ土地ヲ搜索シ以テ敵軍ノ此側方ニ於テ施行スル諸動作ヲ偵察シ之ヲ我縱隊ニ報知シテ所要ノ配備法ヲ執ラシムルヲ要スレハナリ

行軍路線騎兵ノ行軍路線ハ軍ノ行軍路線中ニ於テ之ヲ取ル軍ノ司令長官ハ一般ノ形勢ヲ審察シテ敵軍ノ現在スル方向ヲ認メ最モ敵襲ヲ被フルヘキ方面ヨリ騎兵ノ本部ヲシテ行進セシム

千八百五十年佛軍ノ各軍團ハ一ノ輕騎師團ヲシテ行進間其前面ヲ搜索同時ニ隣接軍團ト交通スルノ媒助ヲシメタリ加之軍ハ更ニ預備騎兵軍團ヲ有シ大將慕拉之ニ將タリ該軍團ハ南芻低哈特普路美魯ノ三師團克來因瓦爾垵耳勃門彪爾西也ノ師團ノ一部並ニ巴拉基伊利埃

ノ徒歩龍騎兵ヲ以テ編成ス此徒歩龍騎兵ハ地方ニ就テ徵發スル馬正ニ乗ル者ナリ

騎兵ノ任務ハ軍ノ運動ヲ庇護シ且其正面及ヒ側面ヲ庇護スルニ在リテ各軍團ノ輕騎兵ハ佛軍萊尼ヲ渡リテ多惱ニ到着スル迄終始其所屬軍團ノ前面ヲ搜索シ同時ニ隣接軍團ト連絡スルノ任務ヲ帶ヒタリ又慕拉ノ騎兵軍團ハ全ク軍ノ右翼ノ前面ニ在テ且此翼ノ外側ニ行進セリ當時埃軍^{DE}ヲ占領シ我軍ノ右翼ハ最モ敵襲ノ恐アリ隨テ拿帝ハ敵軍若シ運動ヲ起ス^{TO}アレハ寸時ヲ失フ^{TO}ナク之ヲ知得セント欲シタルニ依ルナリ帝ノ慕拉ニ與ヘタル書ニ曰余ハ行軍間軍ノ側面警戒ヲ以テ一ニ卿ニ委ス余ノ行軍方向ハ斜メニ多惱河ニ交截スルヲ以テ之ヲ行フ^{TO}甚タ困難ナリ敵軍若シ攻勢運動ヲ始ムル^{TO}アレハ余ハ一刻ヲ失フ^{TO}ナク之ヲ曉知シ敵ヲ志ヲ得ル能ハサラシメンヲ欲スト

千八百五十五年十一月十三日大將慕拉ハ預備騎兵ト大將拉努ノ軍團トチ卒ヒ維也納セリ多惱ヲ渡ル蓋シDürensteinノ戰後魯軍北方ニ退却セリト思惟シ慕拉ハ之ヲ進撃ノ遠遁スルヲ得サラシメ拿破帝チノ其全力ヲ以テ之ニ臨ムノ遑マアラシムルヲ要セリ之カ爲メ慕拉ハ西方ニ向テ行進シ以テ敵將危都索ニ會遇スルカ否ラサルモ其行進方向ヲ探知スルヲ試タリ乃チ將官美魯ニ命シ輕騎兵一旅團ヲ卒テBrunn道ニ出テ以テ其右翼ヲ警戒セシメ而シテ其本軍ハ親カラ之ヲ將ヒStockeranニ進ム然ルニ十四日未タ敵軍ノ事情ヲ得ス此ニ於テ慕拉ハ龍騎兵一旅團ニ命シテ其側翼ノ外方十六吉羅米突ニ到ル迄之ヲ搜索セシメ次ニ大將拉努ニ命シ強大ノ前衛ヲ備ヘテBohèmeノ道路ニ進發セシム加之Kremsノ道路ニハ一ノ偵察隊ヲ發遣シZneimノ路右ハ搜索騎兵ヲシテ巡邏セシメ而シテ其本軍モ亦Zneimノ道路上ニ行進セリ蓋シ此道路ハ當

時ノ形勢ニ就テ之ヲ按スルニ大ニ敵軍ニ追及スルノ目算アレハナリ」此日大將拉努ハ果シテWalkersdorfニ於テBohèmeノ方ニ退軍スル一隊ニ遭遇シ又Zneimノ道路ニ發遣シタル偵察隊ハHollabrunnノ方ニ退却スル魯軍ノ後衛ニ追及シタリ

此時慕拉ノ騎兵ヲシテ搜索セシメタル地境ハ維也納ヨリBrunnニ至ル道路トStockeranヨリKremsニ至ル道路トノ中間ニ跨レリ即チ其搜索正面ハ殆ト五十吉羅米突ノ餘ニ及ヒ此線上ニ分賦セル兵力各處大ニ不同ナリ蓋シ此不規則ナル配備法ハ職トシテ道路ノ景况一般ノ形勢并ニ敵軍ノ事情不分明ナルニ由ルト雖モ亦タ慕拉ノ計畫精確ナラサルニ因ルナリ蓋シDürensteinノ戰爭ハ實ニ十一日ニ在リ故ニ魯軍ハ十二日ニアラサレハ其退却ヲ始ムル能ハス又或ハ佛軍ノ前衛既ニ維也納ノ橋梁ヲ奪フタルヲ聞キ其退却行軍ヲ起シタルハ纔カニ十三日

ニ在ルヘキ賊果シテ然ラハ十四日ノ午前ニハ魯軍 Dürrenstein ナ距ル十里乃至十二里ニ過キサルナリ當時魯軍ハ退走スル方向ハ僅ニ二道アリ即チ Bohemia 及ヒ Olmitz ノ道路是ナリ其 Bohemia ノ道路ハ魯人決シテ之ヲ取ル能ハサルヘシ何トナレハ最初ノ策線ヲ離ル、一太甚シク隨テ當時 Moravia 地方ニ到着セル援軍ニ會合スル能ハサレハナリ之ニ反シ危都索ハ戰畧原理ニ從ヒ Meissan Hollabrunn Zneim ノ道路ヲ取り以テ其援軍ノ方ニ退却スルヤ殆ト必セリ故ニ慕拉ノ騎兵本部ヲ發遣スルハ此方向ニ於テスヘク而シテ Neims ノ方ハ魯軍尙ホ滞在スルヤ否ヲ確知スル爲メ之ヲ搜索シ又其右翼ノ側面ハ遠大ノ距離ニ至ルマテ之ヲ警戒シ以テ此地方ニ殘留スヘキ奧人ノ急襲ヲ防カサル可ラサルナリ慕拉ノ計畫此ニ出ツルルハ其作戰戰畧ノ要旨ニ適合シ一旦不意ノ事變發生スルモ決シテ之カ爲メニ擾亂セラレ、ノ憂ナカルヘシ何ト

ナレハ危都索尙ホ多惱ニ留マルト爲サン乎即チ之カ背後ヲ斷チテ復タ退却スルヲ得サヲシムヘシ若シ又既ニ退却ヲ始メタリト爲サン乎即チ直ニ之ニ追及シ之ヲ挑ンテ復タ遁逃スルヲ得サヲシメ以テ拿破チシテ充分ニ維也納ヨリ來攻スルノ暇マヲ得セシムヘケレハナリ搜索地境 前條説ク所ニ由テ之ヲ觀レハ騎兵師團ノ行軍地境ハ決シテ彼是相同シキヲ得ス而シテ師團ハ各其擔任ノ地境ヲ搜索ス乃チ此地境ヲ名ケテ搜索地境ト曰フ師團既ニ敵軍ニ接着スルヲ得タルルハ其搜索勤務ハ自ラ終結シ此ヨリ以後ハ終始其前面ニ在ル敵軍ノ運動ヲ監視シ其陣地及ヒ兵力ヲ確認スルヲ求ム

行軍日程 敵軍ト遠隔スルトキニ於テ橋梁未タ其斷絶スル所ト爲ラズ且道路極メテ自由ナルルハ通常行軍日程ヲ豫定シ以テ數日間之ニ依テ行軍セシムルヲ得且日々馬匹ノ行進スルヲ得ヘキ最大行程ヲ走

之シムルヲ得ヘシ此時行軍日程ハ該地ノ難易及ヒ道路ノ景況ニ應ジ
 テ之ヲ定ム即チ土地平易ニシテ道路良好且敵軍遠隔スルハ馬匹ヲ疲
 勞セシムルナク大約四十吉羅米突ノ距離ヲ行クヘシ若シ又急速ヲ
 要スルハ即チ例ヘハ迅速ニ一地ニ聚中スル時或ハ敵前ニ於テ橋梁狹
 隘ノ如キ要點ヲ占領スルハ或ハ退却スル敵兵ヲ追撃スル時等ニ在テ
 ハ更ニ行程ヲ延伸シ六十吉羅米突ヲ走ラシムルヲ得ヘシ然レモ此ノ
 如キハ非常ノ事ニシテ決シテ久シク之ヲ行フヲ得ス而シテ其最大速度ヲ
 要スル火急ノ時機ニ際シテハ二十四時間内四五時間ツ、行軍ト休息
 トヲ交行メ更ニ此行軍日程ヲ増伸スルナリ然レモ此法ハ人馬ヲ疲
 勞セシムルコト多キニアラス故ニ決シテ之ヲ濫用スヘカラル者トス
 騎兵險難ノ地方ヲ通過スルハ或ハ搜索勤務ヲ執行スルハ若クハ敵軍
 ニ接合スルハ等ニ在リテハ復々其行軍日程ヲ豫定スル能ハス何トナ

レハ不時ニ發生スル萬種ノ事變ノ爲メ其行進ハ常ニ意ノ如ク之ヲ行
 フヲ得サレハナリ然レモ若シ敵ノ騎兵甚シク我ニ抵抗セス且道路狹
 隘ノ如キモ未タ其梗塞スル所ト爲ラサレハ一日二十五乃至三十吉羅
 米突ヲ行クヲ得ヘシ故ニ此ノ如キ形勢ニ在テハ騎兵司令將官敵軍ノ
 事情該地ノ險易并ニ行軍間發生スル諸種ノ事變等ヲ參酌シテ日々行
 軍令ヲ布告シ以テ日程ノ長短ヲ規定スヘシ
 發途ノ時刻 師團發途ノ時刻ハ其前衛皆齊頭面ニ在テ行進シ得ル如
 ク定ムルモノトス又司令將官ハ行軍令ニ依リテ各師團長ニ通牒シ其
 師團並ニ隣接師團ノ發途時刻ヲ知ラシム故ニ各師團長ハ其左右ニ在
 テ行進スル師團ノ逐次ニ占領スル地點ヲ知ルヲ得隨テ要スル時ニ臨
 ミテハ之ト相交通シ之ニ救助ヲ乞ヒ若クハ之ニ援兵ヲ與フルヲ得ル
 ナリ

各師團長及ヒ騎兵司令將官ノ間ニ於テ通信哨ヲ設置シ以テ命令及ヒ報告ノ傳達ヲ迅速ニス

某時機ニ際シ敵軍俄然一地ニ聚中テ行ヒ我行軍正面ノ一点或ハ一翼ニ來襲スルコアルヘシ若シ我騎兵ノ諸師團皆第一線ニ位置シ行軍正面過度ニ延伸スルハ速ニ聚中シテ敵騎ヲ擊却スル能ハス而シテ敵兵ハ其向フ所皆脆弱ナル故容易ニ此点ヲ陷没シ之ヨリ侵入シテ我行軍縱隊ノ先頭ニ來攻スルニ至ル故ニ此等ノ弊害ヲ匡濟スル爲メ其師團ハ之ヲ第二線ニ備ヘテ行進セシムルヲ肝要トス

加之我作戰上ヨリシテ之ヲ考フルモ騎兵司令將官ハ其任務ヲ舉行スル爲メ攻勢ヲ執ラサル可ラス若シ我師團盡ク第一線ニ在ルハ敵線ノ一點ヲ突貫スル爲メ數個ノ師團ヲ一地ニ集合スルニ當リ之ヲシテ屢々遠天ノ側面行進ヲ行ハシムルニ至ル敵兵ハ容易ニ我運動ヲ曉リ

我攻撃セント欲スル地點ニ衆多ノ兵力ヲ盛備シ遂ニ我計畫ノ達成ヲ妨害スルヲ得ヘシ之ニ反シ第一線師團ノ後方ニ一師團ヲ備フルハ敵軍ニ曉テラレ、コナク強大ノ兵力ヲ我攻撃點ノ前方ニ聚ムルヲ得其運動神速ニシテ且猛烈ナルハ敵兵ヲ急襲シテ我計畫ヲ達成スルヲ得ヘシ

此故ニ攻勢ヨリシテ之ヲ考フルモ守勢ヨリシテ之ヲ察スルモ第二線ニ一師團ヲ配備スルノ法ハ其ニ利益ヲ效スモノトス

騎兵司令將官ハ此第二線ニ在テ行進スルモノトス而シテ若シ未タ敵軍騎兵師團ノ行軍方向ヲ確知セス且此師團ノ聚中スルコアルヲ憂ヘザルハ預備騎兵ト共ニ行軍正面ノ中央後ニ占位ス是レ諸種事變發生スルニ當リ速ニ之ニ應スルノ處分ヲ命令シ得ル爲メナリ此時ニ在テハ常ニ最近ノ第一線師團ニ連絡シ事アルニ當リテハ之ヲ媒介トシ

テ最遠ノ師團ニ須要ノ命令及ヒ諭告ヲ傳達ス然レモ一タヒ敵ノ騎兵ノ行軍方向ヲ知り且其聚中セント欲スルノ形勢アルヲ知ルヤ司令將官ハ直ニ其行軍路線ヲ變換シ第一線ノ師團ヲシテ互ニ相近カシメ又預備騎兵ヲシテ脆弱點ニ進マシメ或ハ時宜ニヨリ攻勢ヲ取ルヘキ點ニ向ハシム

騎兵師團ノ前衛ハ通常軍ノ前方六十乃至八十吉羅米突ニ在テ行進スルハ前文既ニ説述スル所ナリ是ヲ以テ騎兵師團ノ後尾ト師團騎兵ノ先頭トノ間ニハ常ニ廣大ノ距離ヲ存シ而シテ此中間ニ在ル兵隊ハ通常寡少ノ枝隊ニ過キス故ニ敵軍若シ其前面ニ薄弱ノ騎兵脈ヲ張り而シテ其本力ハ我行軍路線ノ側面ニ於テ我搜索地境ノ外方ニ置キ我騎兵師團ノ全ク通過シ了ルヲ覘ヒ突然側面ヨリ起ルルハ我騎兵ノ背後ヲ衝撃シ之ヲシテ復タ退却スルヲ得サラシムルヲ得ヘシ此等ノ害患

アルニヨリ騎兵師團ト軍トノ相隔ル中間ニハ更ニ一個ノ師團或ハ否ラサカモ一ノ旅團ヲ置キ以テ之ヲ警戒スルヲ肝要トス此師團或ハ旅團ハ行軍路線ノ側面外ニ於テ最遠ノ距離ニ至ルマテ之ヲ搜索シ以テ適應ノ時機ニ於テ敵軍ノ所在ヲ發見シ之ニ向テ最初ノ抗抵ヲ試ミ且騎兵司令將官ヲシテ此敵兵ニ應スル爲メ其部下ノ兵力ヲ集合シ得セシムルヲ要ス

千八百五年拿破帝ハ其軍ヲ卒ヒテ魯將危都索ヲ追撃スルニ當リ佛軍ノ左翼タル大將拉努ヲシテ *Braun* ナ通過セシムル如ク其行軍路線ヲ畫定セリ蓋シ此形勢ニ際シ佛軍ノ左翼ハ多惱ヲ距ル頗ル遠隔シ復タ此水流ヲ以テ側面ヲ庇護スル能ハス而シテ *Bohane* ニ在ル埃人ハ竊カニ此地方ヨリ進出シ我騎兵ト我第五軍團トノ中間ニ出テ以テ行軍縱隊ヲ騷擾セシムルノ患アリ故ニ此方面ノ警戒ハ毫モ之ヲ忽ニスル

法得サルナリ之カ爲メ拿帝ハ十月二十七日將官美魯ニ命シ輕騎兵一
 旅團ヲ以テ Landshut 及リ Egerfelden 二行進シ Straubing 及リ Braunau
 二至ルノ道路ヲ中絶シテ我軍ノ左側ヲ警戒シ兼テ敵軍ノ動靜ヲ監視
 セシメタリ而シテ此時美魯ノ受ケタル訓令ニ依レハ凡ソ其蒐收スル
 報告ハ一々大將慕拉大將拉努及ヒ參軍伯爾爹ニ送達セサル可ラス之
 カ爲メ美魯ハ其搜索騎兵ヲ多惱ニ至ルマテ派出シ以テ其左翼ノ外方
 三十五吉羅米突ニ至ル地方ヲ搜索セシメタリ
 之ヲ概スルニ騎兵師團ハ軍ノ前面二日或ハ三日行程ノ所ニ在テ地方
 ヲ搜索シ我運動ヲ掩匿シ且ツ敵ノ動靜ヲ偵察スルモノトス即チ此騎
 兵ハ我行軍正面ノ全部ヲ庇護シ而シテ其後方ニハ預備騎兵アリテ之
 ヲ援助シ又其危險ノ側面或ハ脆弱點ニハ他ノ一師團アリテ之ヲ警戒
 ス又此騎兵師團ハ屢敵軍ト交戦シ以テ敵ノ我警戒脈ヲ突過シテ我行

軍地境內ニ入ルヲ防禦シ或ハ敵ノ騎兵脈ヲ貫破シテ其裡面ノ事情ヲ
 探索スルコトアリ之カ爲メ師團ハ常ニ迅速ニ一地ニ集中スルヲ得且何
 レ以時ニ際スルモ常ニ敵ノ攻撃ニ抗抵シ得ルヲ要ス
 是ニ由テ之ヲ觀レハ騎兵師團ノ搜索勤務ハ其任極メテ重大ニシテ且
 施行最モ困難ナルモノナリ故ニ之カ統理ニ任スル司令官及ヒ各師團
 長ハ軍人品位ノ第一等ニ位スル才幹ヲ具備シ性質果敢豪毅ニシテ博
 識ト多聞トヲ兼子加フルニ戰畧戰術ノ諸問題ヲ答解スルニ極メテ老
 練ナル者タルヲ要ス但シ海平ノ時ニ於テ此勤務ニ任スヘキ將校ヲ培
 養スルノ法ハ本篇第五部教育論ニ於テ之ヲ説明スヘシ

ロ 騎兵師團ノ行軍隊形

各師團ニ配當シタル行軍地境即チ搜索地境ノ幅員ハ軍ノ行軍正面ノ
 廣狹騎兵師團ノ數及ヒ此師團ノ行進路線ノ形狀ニ應ス通常十五乃至

三十吉羅米突トス

騎兵師團ハ前條既ニ説ク如ク二種ノ勤務ヲ兼帶ス

第一 其行軍地境ヲ庇護シ敵ヲシテ得テ侵入セシメサル事

第二 此行軍地境ノ前方ニ在テ敵軍ノ所在ヲ探索シ其縱隊ノ編制及
ヒ兵力ヲ偵察シ且其行進ナル方向ヲ察知スル事

騎兵師團ハ諸點ヲ搜索シテ漏ストナク又掩幕ヲ密閉シ敵ヲシテ内部
ヲ洞見セシメサル爲メ搜索地境ノ全幅ニ亘リテ一聯ノ連接配備ヲ探
ル能ハズ何トナレハ搜索線ノ各部皆薄弱トナリ一旦敵襲ヲ被フルア
レハ師團長充分ノ兵力ヲ集合シテ抵禦スル能ハサレハナリ蓋シ此配
備法ハ前章説述シタル兵力分離ノ諸弊害ヲ存ス拿破侖ハ酷ニ此方法
ヲ排斥セリ千八百六年 Schellen の戰後慕拉ニ與ヘタル書ニ曰余ノ見ル
所ニ依レハ卿ハ充分ノ騎兵ヲ掌裏ニ聚合セサル如シ卿若シ悉ク之ヲ

分離スルルハ何ヲ以テ急ニ應スルヲ得ン卿ハ八聯隊ヲ有ス余ハ卿ニ

勸告シ常ニ其四隊ヲ掌握スヘキヲ以テシタリ然ルニ昨日余ノ見タル

所僅ニ二隊ニ過キス何ノ意ソヤト

普將奔須彌德フオンシュミット曰騎兵師團ヲ分離スレハ攻撃及ヒ抗抵ノ威力ヲ減殺ス

敵ノ騎兵我ト同兵員ナルモ能ク聚合密結スルルハ我薄弱ナル警戒線

必ス爲メニ突過セラルヘシト

凡ソ兵隊ハ何レノ時機ニ際スルモ其長全部或ハ大部分ヲ集合シ以テ

敵ノ攻撃ニ抗抵シ得ル如ク之ヲ配備スルヲ法トス是ヲ以テ騎兵師團

ハ其負擔ノ地境ヲ充分ニ搜索スルヲ得而シテ要スル時ニ當リテハ僅

少ノ時間ヲ用ヒテ集合シ得サル可ラス之カ爲メ大部隊ハ一條或ハ二

條ノ道路上ニ於テ縱長ニ之ヲ配備シ其ノ前面ニ若干ノ枝隊ヲ派出シ

以テ搜索地境ノ全部ヲ搜索セシムルモノトス

今師團ノ通常採用スヘキ搜索隊形ヲ記載スルコト左ノ如シ
 二旅團ハ第一線ニ在テ行進シ且其道路ハ平行且近接シ以テ要スル片
 ニ當リテハ甲乙迅速ニ集合シ得ルヲ計ル此各旅團ハ一聯隊ヲ派出シ
 テ前衛ト爲シ又此聯隊ハ其搜索地境ノ廣狹ニ應シニ中隊或ハ三中隊
 ヲ派出シテ搜索線ヲ編成ス他ノ中隊ハ此線ノ中央後方大約二吉羅米
 突ノ處ニ在テ本道ヲ行進ス又旅團ノ第二聯隊ハ密集シテ行進シ前衛
 聯隊ノ本部ヲ去ル大約三吉羅米突トス
 第三旅團ハ第一線旅團ノ第二聯隊ノ後尾ヨリ四吉羅米突ノ所ニ在テ
 本道ヨリ行進ス而シテ此各旅團ニハ通常砲兵一中隊ヲ附屬スルモノ
 トス師團ノ全縱長ハ大約十一吉羅米突ナリ
 搜索線ヨリ第一旅團ノ第一聯隊ニ至ル 五千米突
 此聯隊ト附屬砲兵トノ縱長 七百米突

此聯隊ノ後尾ヨリ第三旅團ノ先頭ニ至ル 四千米突
 此旅團ト附屬砲兵トノ縱長 千四百五十米突

總計一萬一千百五十米突トス

今師團ノ搜索地境平均二十四吉羅米突ノ廣サヲ有スルモノトナス片
 ハ第一線各旅團ノ掩蔽搜索スヘキ線ハ十二吉羅ナリ而シテ又道路ノ
 方向宜ニ適スルモノト爲ス片ハ此旅團互ニ十乃至十二吉羅米突ヲ隔
 テ、行進ス故ニ師團ノ編成スル搜索網ハ其幅十乃至十二吉羅米突ニ
 シテ其長サハ十一吉羅米突ナリ故ニ第一線旅團ノ第二聯隊ト齊頭面
 全師團ノ發中ヲ行フニハ僅少ノ時間ヲ以テ足レリトス但シ土地險阻
 ガル片ハ此例ニアラス
 前條揭示スル所ノ諸距離ハ唯其概畧ヲ記スノミシテ一般ノ形勢及ヒ
 土地ノ險夷ニ應シテ變更スルハ論ヲ待タズ平坦開豁ナル地方ニ於テ

ハ更ニ此諸距離ヲ増加シ又陰蔽險難ナル地方ニ於テハ更ニ之ヲ短縮スルヲ得ヘシ

各前衛聯隊ヨリ派出スル中隊ハ小隊或ハ半小隊ツヽニ分チ斥候ヲシテ先驅セシムルノ法ヲ用ヒス何トレハ我搜索線極メテ脆弱トナリ敵若シ全中隊ヲ集合シテ攻撃スルコトアレハ容易ニ其突貫スル所トナル可ケレハナリ抑モ兵力衆中ノ規則ニ依レハ此各中隊長猶ホ聯隊旅團師團長ノ如ク敵襲アルニ際シ其兵力ノ全部或ハ大部分ヲ掌握スルヲ必要トス之カ爲メ各中隊ハ唯一二ノ小隊ヲ派出スルヲ以テ限リトナシ其余ハ密集シテ行進セシム又此分遣小隊ハ其所屬本隊ノ行進スル道路ノ前面ニ在テ右方或ハ左方ヨリ行進シ且其前面ニ一群或ハ數群ノ斥候及ヒ尖候下士ヲ派出シ以テ其負擔ノ地境ヲ搜索セシム此他師團長若干ノ將校ニ命シ各騎術ニ熟練スル騎兵兩三名ヲ伴フテ斥候ノ

前方最遠ノ距離ニ進ミ以テ敵軍ノ陣地及ヒ兵力ヲ探索セシム

ハ 搜索勤務

士官尖候突騎及ヒ斥候其負擔ノ任務ヲ施行スルニハ行軍戰鬥術ニ詳載スル規則即チ森林狹隘水流村落鉄道電信等ノ偵察法及ヒ其任務ニ關スル報告ノ規則ヲ遵奉スヘシ

電線ヲ破壞スルハ敵ヲシテ我兵力及ヒ陣地ヲ聞知スル能ハサラシムル爲メナリ然レモ技術ニ係ル工作例ハ橋梁棧道隧道等ハ軍ノ司令長官ノ特命アルニアラサレハ破壞ス可ラス唯タ一時之ヲ毀損シテ敵軍ノ直ニ之ヲ利用スルヲ妨ケ而シテ後日再ヒ之ヲ修覆シテ我用ト爲ス可ク亦多シ之ニ反シテ敵軍鐵道ノ近傍ニ在テ退走スルニ當リテハ勉メテ緊急ニ之ヲ追撃シ敵ヲシテ停車場等ノ材料ヲ破壞スルノ猶豫ヲ得セシム可ラス騎兵モ亦時宜ニヨリテハ縱隊ノ行進ヲ安全ニシ且之

ナシテ阻滯ノ患害ヲ被フヲシメサル爲メ橋梁等ノ修理ニ任スルコトアリ故ニ騎兵隊ニハ此等ノ工作ヲ施行スルニ必要ナル器具ヲ賦與シ且若干名ノ工卒ヲ撰ミ乘馬セシメテ之ニ附屬スルヲ要ス

騎兵師團一ノ狹隘例ヘハ大河ニ架設スル橋梁或ハ大森林内ニ通スル道路若クハ一連ノ高地等ヲ通過スルニ當リテハ他ノ隣接師團ト充分ニ連絡シ敵襲アルニ際シテハ必ス相應援シ得ルヲ確知シタル後該狹隘ノ内ニ進入スヘシ若シ他ニ連絡スヘキ騎兵隊アラサルハ若干ノ騎兵ヲシテ下馬セシメテ該狹隘ノ監守兵ト爲シ以テ師團騎兵ノ到着スルヲ待ツヘシ是レ後方ノ退路ヲシテ常ニ開通セシムル爲メナリ

師團長ハ其師團ノ通過スル地方ノ難易道路ノ景況水流橋梁ノ形狀等ニ係ル諸報告ヲ得レハ即チ之ヲ軍ノ騎兵司令將官ニ報知シ騎兵司令將官ハ之ヲ軍ノ司令長官ニ申告ス拿破侖ノ大將芻達ニ與ヘタル書ニ

日卿ハ宜シク通過シタル地方ノ景況ヲ詳ニシ且敵軍ノ己ニ占領シ或ハ占領シ得ヘキ地點ヲ按シ一々予ニ報告スヘシ都テ此等ノ報告ハ一ノ工兵士官ヲ撰ンテ之ヲ記録ニ任スルヲ肝要トス此ノ如キノ狀報ハ予ノ最モ貴重スル所ナリト實ニ帝ノ言ノ如ク此等ノ報告ハ主將ニ利ヲ效スヤ甚タ多シ其故ハ戰爭ノ指揮ヲシテ其宜ヲ得セシメント欲スレハ必ス該地ノ形勢難易防禦物資交通路ノ多寡形狀及ヒ善惡等ヲ審知セサル可ラサレハナリ其他敵軍ノ形勢ノ如キモ亦然リ蓋シ其各縱隊ノ兵力及ヒ其行進方向等ニ關スル精確ノ報告ハ戰爭ノ計畫ヲ裨補スル決シテ淺薄ニアラサルナリ

敵軍退却スルニ當リテハ假令ヒ我騎兵未タ之ト接着シ得ルニ至ラサルモ土民ノ報告郵便局内ノ信書就中退軍ヲ行フニ當リ常ニ敵軍ノ殘留スル病兵傷卒等ニ就テ頗ル精密ノ事情ヲ得ヘシ然レモ彼我ノ二軍

互ニ相對向シテ行進スル時ニ當リテハ決シテ此ノ如クナルヲ得ス蓋シ此時ニ於テ敵軍ノ運動及ヒ其各縱隊ノ兵力ヲ探ルニハ唯我騎兵ヲシテ敵ノ警戒線ヲ突過セシムルノ一法アルノミ

ニ 敵軍ト會遇

敵軍ノ陣地ニ到着シタル搜索兵隊ハ敵ノ騎兵ノ抗抵スルニヨリ其任務ヲ達成スル爲メ己ムヲ得ス戰鬪ヲ交フルニ至ル此時ニ於テハ前面ニ分遣セラレタル斥候、小隊、中隊及ヒ前衛聯隊ハ行軍戰鬪術ニ記載スル規則ニ從フヘシ

第一線ノ各旅團長及ヒ師團長ハ意ヲ用ヒテ搜索線上ノ諸事變ヲ觀察ス即チ此線ノ各點ヨリ申呈スル報告ニ依テ形勢ノ如何ヲ審知シ敵軍ノ守禦或ハ攻撃ノ緩急ヲ判斷シ敵ノ企望スル目的ヲ探索シ而シテ救援ノ必要ナルヤ否ヲ考察シ又救援ヲ授クヘキ方向ヲ探究ス

ホ 徒歩戰鬪

此動作ハ一連ノ小戰鬪ヲ免ル、能ハサルモノニシテ一道路ノ監守ニ任セラレタル一小隊ヨリ前衛或ハ後衛ノ聯隊若クハ旅團ニ至ル各戰鬪單位ハ一ノ通路、橋梁、狹隘、村落等ヲ防禦若クハ奪取スル爲メ徒歩戰鬪ニ從事スルコト多シ

普將奔斯彌德フォン・シニョット曰凡ソ土地ノ種類、地形ノ難易、狹隘或ハ地區ノ占領等ノ爲メ馬匹ヲ用フル能ハサル時或ハ此ノ如キ障碍物ヲ廻避スル時或ハ乘馬戰鬪ノ利アラサル片若クハ其近傍ニ於テ步兵隊ノ援助ヲ得ル能ハサル時騎兵ハ毎ニ下馬スルヲ要ス蓋シ騎兵ノ徒歩戰鬪ハ其成功ノ途ヲ開クニ至良ナル一法ナリト

朱廉納、弗黎德律二世及ヒ拿破崙ハ屢騎兵ノ徒歩戰鬪法ヲ用ヒタリ
千六百七十四年 *Eutzhelm* ノ戰後朱廉納ハ *Mossig* 川ノ後方ニ退テ *Was-*

Salome^{er}ノ城塞ヲ保守セリ十八日獨兵ハ五萬ノ兵ヲ以テ之ヲ攻ム然ルニ朱廉納ノ兵力ハ僅ニ二萬五千ニ過キス因テ意ヲ決シテNorm川ニ退ク此退軍ハ頗ル困難ニシテ佛軍ハ殆ント敗亡ニ臨メリ然レモ朱廉納ハ一狹隘ヲ通過スルニ當リ其龍騎兵一旅團ヲシテ下馬セシメ以テ敵騎ニ抗抵セシメタリ故ニ敵ハ其追撃ヲ支ヘラレ遂ニ志ヲ得ル能ハサザキ

千七百五十七年Gothaノ役塞德里斯^{セイトリック}ノ龍騎兵ハ敵ノ城砦ニ向テ徒歩攻撃ヲ行ヒ此城砦ノ守兵タル敵軍ノ選抜兵ヲ驅逐シタリ千八百五年馬爾門ノ軍團ハ佛軍ノ右側ヲ警衛スル爲メLéobenニ向フ此軍團ノ騎兵ハ途上屢々奥ノ騎兵ニ遭遇シ毎ニ小戦闘ヲ交ヘタリ一日第六輕裝騎兵ノ大尉阿那泰木^{オナタム}ハ僅ニ四十騎ヲ率ヒテ奥將傑伊塞耳^{ケイセイ}ノ百騎ヲ襲ヒ其十二騎ヲ生擒シ其三十ヲ斬殺セリ其後Ridingニ至ル

ニ及ヒ奥ノ歩兵哨アリテ一橋梁ヲ扼シ銃丸雨下シテ復タ進ム可ラス此ニ於テ阿那泰木ハ其士卒ニ令シテ下馬セシメ各銃ヲ提ケテ敵ニ赴キ敵ノ哨兵ヲ追フテ森林内ニ驅逐セリ然ルニ再ヒ奥ノ騎兵ニ遭遇ス因テ復タ之ト闘ヒ奮撃敢進シテ敵ト共ニ前進シ遂ニ第二ノ橋梁ヲ通過セリ此戰ヤ阿那泰木ハ敵ノ歩兵四十七人士官二人ヲ捕獲シ遂ニ狹隘ノ通過ヲ全フセリ

千八百六十五年二月廿七日北米ノ大將悉利坦^{シエリタン}ハ騎兵二師團ヲ率ヒテWinchesterヲ發シ往テVirginia州ノ中央鐵道ヲ毀壞セントス二十九日悉利坦ハStantonニ到着ス此府ノ守將南米^{ナム}ノ埃爾利^{エルリ}ハ守ヲ撤シ去テWaynesboroニ保據シ歩兵二旅團及ヒ騎兵數十隊ヲ以テ敵ノ攻撃ヲ待ツ而シテ其歩兵ハ皆堡壘ヲ築テ之ニ據ル悉利坦ハ其師團長危士得^{キエスデル}ヲシテ之ヲ攻撃セシム危士得命ヲ受ケ其三聯隊ヲ分派シテ敵翼ノ最モ露曝

スル部分即チ其左翼ヨリ迂回シ同時ニ親カラ殘餘ノ二旅團ヲ卒ヒ正面攻撃ヲ行フタリ此旅團ハ一ハ徒歩戦闘ヲ行ヒ一ハ乘馬戦闘ヲ爲シ奮撃敵軍ヲ衝突シ逐ニ敵ノ根據ヲ陷レ其首將ヲシテ降ヲ軍門ニ乞ハシメタリ

拿破侖曰凡ソ騎兵ハ必ス火兵ヲ携帶シ必ス徒歩戦闘スルノ法ヲ知ラサル可ラスト蓋シ騎兵ハ其擔任スヘキ諸種ノ任務ヲ施行スルニ當リテハ決シテ他ニ依頼スルコトナク之ヲ達成シ得ルヲ肝要トス然レモ亦徒歩戦闘ノミチ主トシ以テ其本分ノ性質ヲ遺忘ス可ラス抑モ徒歩戦闘ハ敵ノ徒歩騎兵或ハ敵ノ歩兵小枝隊ニ對シテ用フヘキモノナリ若シ夫レ要大ナル戦闘ニ於テ敵ノ歩兵大枝隊ニ對シ徒歩戦闘ヲ行フハ敗仗種ヲ回ラサス故ニ騎兵ハ必ス乘馬戦闘ヲ以テ常則トシ徒歩戦闘ヲ以テ變則ト爲スヲ要ス

ハ 師團ノ戦闘隊形

師團長其搜索線ヨリ得タル報告ニ依リ敵陣ニ向テ攻勢運動ヲ行フ爲メ若クハ敵ノ企圖スル攻撃ヲ撃却スル爲メ其師團ヲ聚中スルヲ必要ナリト判斷スル時ニ當リテハ其師團ヲ聚中セント欲スル地點ノ近傍ニ在ル第一線旅團ノ陣地ニ詣リ此點ニ在テ他ノ二旅團ヲ召集ス抑モ騎兵ノ戰爭ニ於テ大功ヲ奏スルハ主トシテ敵ノ不意ニ出ツルニ在リ故ニ師團ノ敵ニ先チテ聚中スルハ最モ肝要ナリ而シテ此目的ニ達スルニハ師團ヲシテ極メテ迅速ニ行軍隊形ヨリ戦闘隊形ニ移ラシメサル可ラス蓋シ騎兵ノ戦闘隊形ハ戰術ノ原則ニ依ルニ三線ヨリ成形スルヲ法トス即チ戰線、援隊、及ヒ預備隊ノ三線ナリ此三線ハ各一旅團ヲ用ヒテ之ヲ作ル

此三線ハ彼此相重複シテ配備スルヲ得ス其說左ノ如シ

第一 凡ソ騎兵隊襲撃ヨリ復歸スルニ當リテハ其正面ニ直角ナル方
向ヨリ引退スルヲ常トス故ニ第一線即チ戰線ノ後方ニ在ル土地ハ常
ニ之ヲ開通シ以テ第一線ノ退却ニヨリ他ノ二線ニ混亂ヲ波及スルコ
ト無ガラシムヘシ

第二 三線相重複シテ配備スルルハ第二及ヒ第三線ハ運動間敵襲ヲ
被フルノ大害ヲ冒ササレハ唯前進シテ第一線ニ加列スルヲ得ルノミ
斯ノ如キハ戰爭ノ成敗ニ於テ至大ノ威力ヲ逞フスルニ足ラス故ニ此
二線ヲ配備スルニハ巧ニ其位置ヲ撰定シ以テ疾烈果敢直接ニ敵兵ヲ
襲撃シ得ルヲ計ラサル可ラス

之ガ爲メ第二線ノ旅團ハ第一線ノ後方ニ在テ其一翼ヨリ進撃シ得ル
如ク之ヲ配備シ又第三線ノ旅團ハ第二線ヨリモ更ニ後方ニ位置シ以
テ第一線ノ他ノ一翼ヨリ進撃シ得ル如ク之ヲ配備スルヲ良シトス

騎兵師團搜索地境ノ狹縮ナルカ爲メ或ハ其他ノ事故アルカ爲メ單一
道路ヨリ行進スル時ニ在テハ其前衛旅團ヲ以テ第一線ト爲シ其第二
旅團ハ第二線ト爲リ其第三旅團ハ第三線ト爲ル若シ又通常ノ形勢ニ
於テ如ク二縱隊ニ分レテ行進スルルハ師團長ノ來テ占位スル旅團
ヲ以テ第一線ト爲シ而シテ他ノ二旅團中第一ニ聚中點ニ到着シタル
者ヲ以テ第二線ト爲シ後レテ到ル者ヲ以テ第三線ト爲ス而シテ此時
第一及ヒ第二線ハ縱隊中隊ノ橫隊ニ配備シ其第三線ハ聯隊毎ニ密集
シテ行進ス

此隊形ハ甚タ單簡ニシテ預行運動ヲ要スルコトナク迅速ニ之ヲ施行ス
ルヲ得操作甚タ容易ニシテ各線單ニ其正面ヲ變換スレハ即チ諸方向
ニ面スルヲ得且敵騎ノ攻撃ニ對シテ同一ノ戰術隊形ヲ作ルヲ得ルナ
リ加之此隊形ハ號令或ハ號音ニヨリ唯各線ヲシテ其方向ヲ變換セシ

ヲ以テ攻撃點即チ敵軍ノ背後若クハ側面ノ最脆弱點ニ察中セシムル
ノ便アリ

師團長ハ部下ヲ結合シ且土地ノ起伏ヲ利用シ敵目ヲ遮リテ前進シ以
テ敵ノ側面或ハ背面ヨリ不意猛烈ニ之ヲ襲撃スルヲ計ル又第二及ヒ
第三線ノ兵隊ハ決シテ第一線兵隊ノ側ニ於テ同方向ニ襲撃ヲ行フ可
ラス何トナレハ敵兵ハ既ニ退去シ隨テ襲撃ノ目標ヲ失フ可レハナリ
蓋シ騎兵ノ攻撃ハ叮嚀反復シテ論說スル如ク敵軍ノ側面ニ向テ察注
襲撃ヲ施行スルヲ利アリトス

前進中第一線ノ旅團ハ戰鬪斥候ヲシテ先行セシメ又第二及ヒ第三線
ノ旅團ハ此斥候ヲ其側面ニ派出シ以テ土地ヲ搜索シ且敵兵ヲ候ハシ

師團ヲ集中スルハ同時ニ集合シタル砲兵三中隊ハ師團ノ側面ニ於テ

敵ヲ狙撃スルニ最モ適宜ナル陣地ヲ占メ而シテ我師團方向變換ヲ施
行スルハ其旋廻軸トナルヘキモノトス此砲兵ニハ特別援兵ヲ附屬
スルヲ要セス唯師團行進スルニ當リテハ中隊毎ニ梯進シテ其運動ニ
從隨シ以テ連續射撃ヲ施行スルヲ計ルヘシ

師團前進スルニ當リテハ敵ノ一翼ヲ包圍スルカ或ハ敵ノ第一線ヲ包
圍スル如ク其行進ヲ計畫スヘシ之カ爲メ或ハ土地ノ遮蔽物ヲ利用シ
或ハ前方斜行進ヲ行ヒ以テ我第一線ヲシテ敵線ノ一翼ヲ包圍スル如
ク行進セシム此時我第二線ハ迅速ニ其行進方向ヲ轉換シ以テ敵ノ一
側ニ向テ察中襲撃ヲ行ヒ得ル如ク行進ス

第三線ハ通常其二中隊ヲ第一線ノ後方ニ派遣シ以テ其線上ニ生スル
空隙ヲ守備シ時宜ニヨリテハ我側面ニ向ヘル敵ノ襲撃ニ抗抵シ或ハ
適宜ノ機會ニ乘シテ敵ノ側面ヲ衝突シ以テ成功ヲ確實ニスルニ用フ

然ルニ敵軍モ亦其運動ヲ計畫シ其側面ヲ保護シテ却テ我側面ヲ襲撃スルハ策ヲ施スヤ必セリ故ニ勝利ハ機眼確實迅速ニシテ性質活潑豪果能ク地形ト運動トニ慣熟シ且兵隊老練勁悍ナルモノニ歸スヘキナ

我兵敵ノ騎兵ヲ擊退シタルハ第一線ノ側翼中隊ヲシテ之ヲ追撃セシメ同時ニ第二線ノ外翼ニ在ル中隊ニ命シ敵ニ向テ散開襲撃ヲ行ハシム(奔斯彌德ノ説其他ノ中隊ハ一所ニ併合シ追撃ヲ施行スル兵隊ノ援據兵トナル

我攻撃利ヲラサルハ當リテハ或ハ我砲兵ノ援護ニヨリ或ハ戦闘ニ加ハラザルシ第三線ノ兵隊ノ援助ニヨリ以テ一地物ノ背後ニ退テ各隊ヲ併合スルヲ計ル而シテ若シ此方法ヲ施スモ尙ホ敵兵ノ尾撃ヲ阻遏スルニ足ラサルハ更ニ後方ニ退却シ以テ最モ戰場ニ近接シテ占

陣スル隣接騎兵隊ノ保護ヲ乞フ

隣縦隊ノ應援

隣師團某師團ノ方ニ砲聲ノ起ルヲ聞キ而シテ已レ現ニ敵兵ト交戦セザル所ハ或ハ敵ノ爲メニ甚シク脅迫セラレサルハ直ニ其本部ヲ率テ此方向ニ赴援スルモノトス故ニ假令ヒ適應ノ機械ニ於テ戰場ニ到達スル能ハサルモ之ヲ距ルト復甚タ遠カラス尙ホ能ク敵ノ追撃ヲ扼止シ交戦師團ヲ併合シ以テ再ヒ攻勢ニ轉セシムルヲ得ヘシ若シ又交戦間ニ投援スルヲ得タルハ常ニ敵軍ノ側面或ハ背面ヨリ之ヲ衝突ス各師團長ノ奉守スヘキ規則ハ行軍戦闘術ニ詳載セル所ノ如シ(第一部第十三篇及ヒ第二部第十篇

騎兵司令將官其受領シタル報告ニヨリ預メ敵ノ聚中陣地ヲ知リタル所ハ其預備師團ヲ卒ヒテ此方向ニ前進シ而シテ敵兵已ニ攻撃ヲ開始

シタ其直ニ往テ第一線ノ師團ヲ援フ此時騎兵司令將官勉メテ迅速ニ戰場ニ赴キ戰鬥ヲ指揮スルヲ必要トス
 敵ノ騎兵ヲ敗退セシメタルハ猛烈ニ之ヲ追撃シ尾シテ彼カ本軍ニ迫リ以テ其任務ノ主旨ヲ達成スルヲ肝要トス即チ敵軍靜止スルハ其陣地及ヒ其兩翼ヲ依托スル地點ヲ偵知シ若シ又行進スルハ其各縱隊ノ行進道路ヲ確認スルヲ得ヘシ此等ノ報告ハ後文本戰ノ章ニ述ル如ク主將ノ畫策ヲ裨補スル極メテ大ナリ
 若シ又敵ノ兵力強大ニシテ我騎兵退却セサル可ラサルハ司令將官其砲兵ヲシテ後方ノ防禦線上ニ占陣セシメ之ニ若干ノ騎兵中隊ヲ附シテ援隊ト爲ス而シテ騎兵ヲ併合シテ此線ノ後方ニ退據セシメ以テ他ノ師團ノ來援ヲ待チ然ル後再ヒ攻勢運動ヲ開始ス

騎兵ハ進退極メテ迅速ニシテ緩急ノ際容易ニ一地ニ集合シ得ルヲ以テ敵軍ノ近傍ト雖能ク行軍隊形ヲ以テ舍營スルヲ得ヘシ蓋シ此舍營法ハ行進道路ノ近傍ニ於テ宿營スルヲ得人馬雨露ニ冒曝スルコトナク充分ニ疲勞ヲ休息シ得ルヲ以テ騎兵ニ於テ殊ニ至瓦ナリトス

各師團ノ宿營スヘキ地點ハ騎兵司令將官ノ布告スル行軍令ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス此點ハ前文既ニ述ル如ク各師團ヲシテ大抵齊頭面ニ在テ宿營スルヲ得セシメ且勉メテ水流、山脉等ノ地物ニ依テ遮蔽スルヲ得セシムル如ク撰定ス騎兵師團其指定セラレタル地點ニ到リタルハ即チ停止シ而シテ其各聯隊ハ師團長ノ畫示スル地區ニ到リテ投宿ス前哨ハ前衛聯隊ヨリ發遣スルモノトス何トナレハ此聯隊行進間搜索ニ從事シ諸種ノ事情ヲ探リ諸種ノ形勢ニ遭遇シタル故其前面ニ發生スヘキ諸事變ハ明確ニ其輕重ヲ判斷スルヲ得ヘク行進間縱隊

ノ其部ニ在テ行軍シタル他ノ中隊ハ晝間發生シタル諸事變ヲ知ラサルカ故ニ前衛中隊ノ如クナル能ハサレハナリ

前衛聯隊ヨリ派出スル中隊ハ大哨ヲ編成ス此大哨ハ防禦線上ノ地區ニ占位シ敵方及ヒ我側面ニ通スヘキ道路橋梁狹隘街衢等ハ盡ク之ヲ梗塞シ徒歩騎兵ヲシテ之ヲ監守セシム又其前面及ヒ側面ニ於テ敵兵ノ來襲スルヲ得ヘキ諸道路ニハ不規哨兵ヲ配備シテ之ヲ守ラシメ又斥候勤務ヲ編制シ以テ此諸小哨ヲ連絡シ及ヒ前面ノ土地ヲ搜索スルニ任ス此時前衛聯隊ノ本部ニ在ル自餘ノ中隊ハ相集團シテ前哨預備トナル

前哨線ノ後方ニ舍營スル兵隊モ亦其占領地區ノ出口ヲ閉塞シ以テ敵ノ奇襲ニ備フ

集合點ハ縱隊本部舍營地ノ先頭ニ於テ交通自在ナル所ニ設ク

翌朝前哨ハ新前衛聯隊進テ其地ヲ通過シ去タル後聯合シ本道ノ近傍ニ於テ聯隊ヲ復編シ其所屬旅團ノ來着スルヲ待チ行軍縱隊中ノ位次ニ就ク

リ 兵隊ノ食料

騎兵ハ其通過スル地方ニ就テ生活ス人馬共ニ住民ノ養フ所トナリ或ハ兵隊ノ占領セサル地區ヨリ徵發シタル物資ヲ以テ調食スルモノトス

師團ノ通過スル地方極メテ貧瘠ナル所或ハ其物資既ニ敵軍ノ爲メニ搶奪セラレタル所ハ徵發法ヲ以テ收拾シタル食糧ヲ各隊ニ分配ス之ヲ分配スルハ先ツ舍營地ノ先頭ニ宿營スル兵隊ヨリシテ之ヲ始ムル者トス若シ此法ヲ用フルモ分配上不足ヲ生スル所ハ師團ノ輸送ニ依テ兵隊ヲ保育ス該輸送隊ハ一二日ヲ支フヘキ糧食ヲ載輸シ師團長ノ

指定スル距離ニ在テ縱隊ニ隨從スル者トス

第四 退却行軍ニ於ル軍ノ騎兵

イ 總論

軍若シ退却行軍ヲ行フハ之ヲ隔ル近距離ノ所ニ師團騎兵ヲ出シ以テ其運動ヲ保護セシム此騎兵ハ行軍戰鬥術第二部ニ説述スル規則ニ從テ警戒勤務ヲ執行ス而シテ此騎兵ノ後方更ニ最大ノ距離ニ騎兵師團ヲ置テ掩護セシム

此師團ノ任務ハ前進行軍ニ於ケル騎兵師團ノ任務ニ異ルナシ即チ左ノ如シ

第一 軍ノ背後ニ於テ一ノ警戒幕ヲ作り以テ敵軍ノ我運動ヲ察知スルヲ防ツ

第二 敵ノ騎兵ノ行進ヲ阻碍シ之ヲ擊却シテ敵ノ本軍ノ行進方向ヲ

探リ且敵ノ形勢ニ就テ精確ノ事情ヲ索メ以テ軍ノ主將ヲシテ敵ノ謀畧ヲ挫敗スル爲メ必要ノ配備ヲ施スヲ得セシム

退却行軍ニ於テ此任務ヲ負擔スル騎兵ハ地方物資ノ貧富ヲ探索スルヲ要セス亦軍ノ背後ニ在ル地形ヲ偵察スルヲ要セス唯其意慮ヲ敵軍ニノミ注キ其運動ヲ探リ其行進ヲ阻碍スルヲ要ス蓋シ此目的ニ達スルニハ常ニ敵ニ抵抗シ常ニ敵兵ト戰鬥セサルヘカラス故ニ退却行軍ニ於ケル騎兵ハ常ニ其動作ヲ神速ニシ乘スヘキノ機會ヲ見レハ必ス直ニ攻勢ヲ執リ若シ又強敵ノ追撃ニ逢ヘハ必ス適宜ノ陣地ニ據リテ之ヲ抗拒スルヲ計ルヘシ概言スルニ退却行軍ニ於ケル騎兵ハ戰鬥ヲ以テ其常則ト爲スヘキナリ

騎兵ハ常ニ其力ヲ連合シ某ノ時機ニ際シテハ守勢ヲ執リ又他ノ機會ニ於テハ猛烈ノ攻勢ヲ試ミ或ハ敵ノ正面ヲ襲撃シ或ハ敵ノ一側ヲ衝

突ス要スルニ此騎兵ハ絶ヘス敵ヲ擾亂シ之ヲシテ安息スルヲ得サラシメ且其行進ヲ阻碍シテ僅ニ一里ヲ行進スルニ三四時間ヲ費ス如クナラシムヘシ(拿破侖ノ説)而シテ機會ニ投シテ其警戒脈ヲ突貫シ背後ノ事情ヲ探知スルヲ計ル

此諸運動ヲ指揮スルハ騎兵司令將官ノ任ナリ故ニ軍ノ主將ハ一般ノ形勢我軍ノ目的、行軍正面中特ニ扞蔽ヲ要スヘキ地點、搜索ヲ必要スル方向等ヲ詳ニ通知ス騎兵司令將官ハ此ノ諸件ヲ案察シテ其各師團ノ行軍路ノ線ヲ經畫シ且各師團長ニ行軍命令ヲ下シテ其任務ノ目的ヲ知ラシメ以テ前進行軍ニ於テセル如ク師團ノ進退動靜ヲ規定ス又此行軍令ニ載スル發途ノ時刻ハ則チ後衛ノ發途スヘキ時刻ニ之ニ依リ諸縱隊ハ皆ナ敵ヲ距ルコト相齊クノ行進シ要スル時ニ際シテハ互ニ左右ニ連絡シテ相應援スルヲ得ヘシ概言スルニ諸師團ノ共ニ踐行スル運動景况ハ上文前進行軍ニ於テ説述シタルモノニ異ナルコトナク但之ヲ轉回シタルノミ

ロ 師團ノ行軍隊形

師團行軍ノ常則隊形ハ敵ノ攻撃ニ抗抵スル爲メ背後ニ正面スルニ當リ其各兵隊ハ前進行軍ト同一ノ配備ヲ以テ直ニ戰鬥隊形ヲ布置シ得ル如ク之ヲ定ムルモノトス故ニ退却行軍ノ常則隊形ハ前進行軍ノ常則隊形ニ於テ其各單位半轉廻ヲ爲シタルモノト看做スヲ得ヘシ

一 師團隣師團ト連絡スルニハ交通斥候ヲ用ヒ又騎兵司令將官ト交通スルニハ通信哨ヲ用フ

後衛聯隊ヨリ派出スル中隊ノ任務ハ其所屬師團ニ指定セラレタル行軍地境內ニ於テ敵兵ノ有無ヲ搜索シ敵ノ斥候ノ此境內ニ潛入スルヲ妨ケ且敵ノ搜索騎兵ニ抗抵シ之ヲ擊却シ以テ其本軍ノ動靜ヲ偵知ス

ルニ在リ聯隊長ハ此勤務ノ指揮ニ任ス故ニ土地ノ隆起點或ハ村落ノ鐘樓等ヲ發見スレハ即チ此地點ニ展望哨兵ヲ配備シ以テ遠方ノ土地ヲ眺望シ敵ノ各縱隊ノ兵力及ヒ其行進方向ヲ偵知セシム又險難ノ地形ニ遭遇シ或ハ防禦ニ適宜ナル物資ヲ發見スルハ毎ニ之ヲ利用シテ以テ敵ノ行進ヲ阻滯シ之ヲ抵止スルヲ計ル之カ爲メ聯隊長ハ橋梁狹隘等ノ險阻或ハ蔭蔽斷絶スル陣地其他防禦ニ容易ナル地點ニシテ敵兵必ス通過セサルヲ得サルモノ等ヲ防禦スルニハ屢々徒歩戰鬥ヲ用ルヲ切要トスルヲアリ此等ノ小作戰ヲ指揮スルニハ聯隊長宜シク行軍戰鬥術第二部ニ記載スル諸規則ヲ遵奉スヘシ

敵軍ノ追擊緊急ニシテ且其兵力強大ナルハ或ハ其形勢及ヒ其衆寡ヲ偵知スル爲メ之ニ向テ反擊ヲ行ヒ以テ其本軍ニ接セント欲スルハ師團長其本隊ノ一部或ハ全部ヲ率ヒテ後衛聯隊ヲ援助ス通常師團長

ハ假令ヒ其兵力萬々敵軍ニ優ルト確信スル時ニ在テモ常ニ其全力ヲ卒ヒテ戰鬥ニ從事スルヲ緊要トス何トナレハ神速完全ノ成功ハ之ヲ得タルノ方法如何ニ論ナク常ニ我兵隊ノ志氣ヲ振起シ敵軍ノ志氣ヲ挫摧スルニ足ルモノナレハナリ若シ師團長ノ遭遇スル敵兵極メテ強大ニシテ衆寡敵ス可ラサルハ一ノ防禦線ヲ撰ンテ其背後ニ依リ以テ大ニ徒歩戰鬥ヲ利用スヘシ若シ夫レ橋梁村落森林狹隘等ヲ占領スルハ法ハ行軍戰鬥術第二部ニ詳カナリ

凡ソ師團ハ其側方ニ砲聲ヲ聞キ而シテ自カラ敵軍ニ接セサルハ或ハ之カ爲メニ甚シク脅迫セラレサルハ猶ホ前進行軍ニ於ケル如ク必ス此方向ニ赴援スルモノトス

騎兵司令將官其預備騎兵ヲ卒ヒテ來援スルハ或ハ攻勢ヲ執ル爲メ其諸師團ヲ集合スルハ其舉措全ク前進行軍ニ於ケルト異ナルヲナシ

退却行軍ニ於ケル師團ハ猶ホ前進行軍ニ於ル如ク舍營ス但シ其前哨
ハ登朝師團ノ全ク上途シ終ルマテ其任地ニ停止シテ警戒シ然ル後行
軍ノ後衛ト爲ル故ニ退却行軍ノ前哨ハ本日ノ行軍ニ於テ後衛ト爲リ
シモ於テ以テ之ニ用フルヲ得ス而シテ新ニ前哨ニ任セラレタル聯隊
ハ前哨線ヲ配備スヘキ線ニ到着スレハ直ニ停止シテ前條説述シタル
配備法ヲ施シ後衛ノ任ヲ畢リタル聯隊ハ前哨聯隊ヲ超過シテ所屬旅
團ノ舍營地ニ赴ク

第五 騎兵ノ遊撃(Raid)

騎兵師團ハ戰爭間特種ノ任務ヲ帶フルコトアリ例ヘハ敵軍ノ側面及ヒ
背面ニ在ル鐵道電線等ヲ破毀シ以テ敵ノ交通ヲ絶テ其形勢ヲシテ孤
立セシムル等ノ如シ

千九百六十二年北米南北戰ノ役六月ノ初メ Richmond ニ駐營スル南軍

ノ大將黎ハ將官斯朱阿爾ニ命シ一千二百ノ騎兵ヲ率ヒ往テ北軍ノ大
將馬克屈列蘭ノ占領スル陣地ヲ偵察セシム

斯朱阿爾ハ六月十二日ヲ以テ Richmond ヲ發シ恰モ北軍ノ右翼ヲ迂回ス
ル如ク北方ニ向テ行進セリ其後急ニ其行進方向ヲ轉シテ北軍ノ背後
ニ出テ續テ其迂回運動ヲ行ヒ六月十五日遂ニ敵ノ左翼ノ近傍ニ於テ
Chickahominy 川ヲ通過セリ此役ニ於テ斯朱阿爾ハ僅々二日ヲ出テサル
ニ敵ヲシテ至大ノ損害ヲ被ラシメ其糧食彈藥ノ貯蓄ヲ奪ヒ橋梁ヲ燒
キ鐵道ヲ毀テ而シテ精確貴重ノ報告ヲ得テ元帥黎ニ反命セリ蓋シ斯
朱阿爾ノ慍悍無前ノ遊撃ヲ行フテ大功ヲ奏シタルハ北軍ノ大將馬克
屈列蘭ノ其策線ノ側面ヲ警戒スル爲メ必要ノ配備法ヲ執ラサリシニ
依ルナリ

南北戰爭ニ於テ行フタル騎兵ノ遊撃中其最モ顯著ナルモノハ千八百

六十五年二月及ヒ三月將官悉利坦^{シエリタン}ノ Richmond 北方及ヒ西方ニ行フタル遊撃是レナリ此時悉利坦ノ受ケタル任務ハ Virginia 州ノ中央鐵道及ヒ James-River ノ諸溝渠ヲ毀損シ Lynchburg ナ陥零シタル後北米ノ Caroline 州ニ於テ將官悉爾曼^{シエルマン}ニ合併スルニ在リ悉利坦ハ二月二十七日一萬ノ騎兵ニ將トシテ Winchester ナ發シ Woodstock Harrisburg Staunton ナ經歷ン Lynchburg ニ向フ其 Staunton ノ近傍ニ到着スルヤ直ニ鐵道ノ橋梁ヲ燒キ轉^テ南軍ノ大將埃爾利^{エールリ}ヲ Wagnersboro ニ攻ム埃爾利ハ歩兵ニ旅團騎兵若干ヲ率ヒテ此府ヲ守ル然ルニ十六日悉利坦ノ破ル所ト爲リ千六百人砲煩十一門糧食車二百輛ヲ失フタリ悉利坦ハ Wagnersboro ノ諸橋梁ヲ燒夷シタル後 Chantotville ニ轉進シ行々沿道ノ鐵道ヲ破毀シ遂ニ Chantotville ニ於テ全ク鐵道及ヒ橋梁ヲ破壞セリ其後部下ノ師團長德魯^{ドリュー}ニ命シ Scott ville ノ道路ヨリ James-River ニ出テ以テ其地ノ諸溝渠及ヒ

New-Market ニ至ル迄ノ諸水閘ヲ破壞セシメタリ而シテ親カテ危士得^{ウイター}ノ師團ヲ率ヒテ Lynchburg ノ方向ニ進ミ途上鐵道ヲ破壞シ New-Market ニ於テ德魯ニ併合セリ然ルニ Lynchburg ハ南軍堅守シテ未タ容易ク之ヲ降ス可ラス依テ James-River ノ溝渠ニ沿フテ下リ以テ全ク此溝渠ヲ破壞シ次ニ Gordonsville ニ轉進シテ更ニ此地ノ鐵道ヲ破毀シタリ其後 Pamunkey ノ左岸ニ沿フテ南方ニ行進シ White-House ヨリ此川ヲ渡リ遂ニ James-River ノ軍ニ合併シタリ

此時悉利坦ノ行軍ハ殆ント一月餘ニ亘リ而シテ氣候不長道路泥濘ナルモ尙ホ一日ニ八乃至十六吉羅米突ヲ跋涉セリ加之悉利坦ハ到ル所敵ヲシテ著大ノ損害ヲ被フラシメ巨多ノ糧食材料ヲ奪ヒ且敵軍ノ運輸線タル道路鐵道溝渠等ハ盡ク之ヲ破毀シ敵ヲシテ永ク之ヲ利用スルヲ得サラシメタリ而シテ此行軍間悉利坦ノ失フタル士卒ハ僅々百

名ニ過キサリキ

此ノ如キ廣大ノ目的及ヒ巨多ノ兵員ヲ以テ施行スル騎兵ノ遊撃ハ唯
 亞米利加ノ如キ地方ニ於テノミ之ヲ行フヲ得ヘシ何トナレハ此地方
 ニ於テハ人口甚シク稠密セス且此ノ如キ長途行軍ニ於テ假令ヒ其失
 フ所ノ馬匹ハ極メテ多數ナルモ到ル所能ク之ヲ徵發シテ虧缺ヲ補填
 スルヲ得加之兩軍各地ニ於テ其党與ト間諜トヲ求ムルヲ得隨テ其行
 進ヲ障礙スヘキ敵兵ノ運動及ヒ兵力ハ皆精密ニ之ヲ知ルヲ得ヘケル
 ハナリ歐羅巴ノ如キ人口稠密シタル地方ニ於テ此法ヲ行ハント欲ス
 レハ著大ノ困難ニ遭遇スルヤ必セリ蓋シ歐洲ニ於テハ此ノ如キ強大
 ノ軍隊ヲシテ行軍セシメント欲スルモ其馬匹ヲ徵發スルノ方法ニ苦
 シムナルヘシ其故ハ假令ヒ產馬ノ地方ニ於テ動作スルモ敵軍ハ既ニ
 動員ノ期ニ於テ盡ク應役ノ馬匹ヲ徵發シ去リタル故騎兵ノ遊撃隊ハ

決シテ之ヲ得ル能ハサルヘシ又我隊ノ行進ノ如キモ容易ニ敵ノ探知
 スル所ト爲リ敵ハ百般ノ方法ヲ設ケテ之ヲ妨害スルヲ計ルヘシ加之
 敵軍若シ前章ニ於テ説示シタル行軍線及ヒ策線ノ側面警戒ヲ綿密ニ
 スルハ騎兵ノ遊撃モ得テ施スヘカヲサルナリ
 抑モ此ノ如キ動作ハ守者ニアラサレハ得テ之ヲ行フ能ハサルヘシ何
 トナレハ守者ハ其自國ニ於テ作戰スル故糧食材料ハ常ニ容易ニ之ヲ
 徵發スルヲ得又敵ノ行軍線ヲ守衛スル兵隊ノ編制兵力及ヒ陣地ハ更
 ニ簡便ニ之ヲ偵察スルヲ得可レハナリ

第三章 本戰(Bataille)

第一 總論

攻軍ハ其前面ニ騎兵師團ヲシテ先驅セシメテ前進シ而シテ軍ノ主將
 ハ之ニ依リ守軍ノ形勢及ヒ行軍地方ノ地理ヲ知リ以テ之ニ應スル作

戦之計畫ヲ爲スルニ先キ其地ノ要否ヲ探ルル事ニ先キ
 守軍ハ左ノ配備法中ノ一ヲ採ル即チ
 第一 坐シテ攻者ノ攻撃ヲ待ツ爲メ一ノ陣地ヲ占領シ而シテ攻者ノ
 其占領地及ヒ其採用スル防禦法ヲ偵察スルヲ防ク爲メ前面遠距離ノ
 所ニ騎兵ヲ發遣ス
 第二 最初占領シタル陣地ノ背後ニ在ル要地ニ保據スル爲メ退却行
 軍ヲ行ヒ而シテ遠ク其騎兵ヲ出シテ敵ノ騎兵ヲ防支シ併セテ敵兵我
 諸縱隊ノ行進道路ヲ探知スルヲ防クハ
 第三 自ラ進ンテ攻軍ヲ迎撃ス此時ニ在テハ其運動全ク攻者ト異ナ
 派リナシ
 守軍ノ採用スル配備法何如ニ論テク彼我二軍ノ作戰ハ行軍數日ノ後
 其騎兵ヲシテ相遭遇セシムルニ至ルヤ必セリ然ルニ兩隊ノ目的正ニ

相反スルヲ以テ直ニ戦闘ヲ始ムヘシ該時全搜索正面上ニ於テ續々局
 部戦闘ヲナシ其二三ハ稍々重大ニシテ先ツ前衛聯隊ノ諸中隊ヲ集合
 スルヲ要シ次ニ旅團或ハ師團ヲ集合スルヲ要シ終ニ全力ヲ聚中スル
 ノ必要ナルニ至ル彼我騎兵大團ノ衝突ハ到底一方ノ敗亡ヲ來シ其所
 屬本軍ノ方ニ退走セサルヲ得ス
 此作戰間彼我本軍ノ相隔タル距離ハ次第ニ減少シ騎兵ハ遂ニ前面ニ
 在ル能ハサルニ至ル是ニ於テ兩軍ハ其縱隊ヲ排開シテ交戦セサル可
 ラス
 兩軍互ニ攻勢ヲ執テ前進スルニ當リ彼我一地ニ於テ遭遇スル片ハ稱
 シテ遭遇本戦ト曰フ但シ決シテ特別ノ種類ヲ成スモノニアラス其指
 揮及ヒ交戦ノ法ハ預知豫定シタル戦場ニ於テ交戦スルモノト毫モ異
 ナル下ニ抑モ各軍ノ騎兵充分ニ其任務ヲ盡シ各軍ノ主將官之ニ因

テ夙ニ本戦アルヘキヲ豫察シ時機ニ應シテ攻勢或ハ守勢ノ配備ヲ計
 畫スルニ充分ノ餘暇ヲ得ルルハ決シテ兩軍ノ突然會遇スルヲナシ故
 ニ亦決シテ不意ニ交戦スルヲナシ
 兩軍相衝突スルノ景况何如ヲ問ハス或ハ攻勢ヲ執リ或ハ守勢ヲ執テ
 戦フノミ是ヲ以テ實際唯タ二種ノ戦闘アルノミ即チ攻勢本戦及ヒ守
 勢本戦是レナリ
 此兩種ノ戦闘ヲ交ユルニ當リ主將ノ遵奉スヘキ諸原則ヲ左ニ論述ス
 ヘシ

第二 攻勢本戦

イ 兵力ノ用法

夫レ本戦ハ作戰策ノ結局ナリ我々希望スル目的ヲ達成スルノ方法即チ
 敵軍ヲ破滅スルガ否ヲサルモ之ヲ擊破シテ復タ戦ニ與カルヲ得サレ

シムルノ方法は是ニ外ナラス

此ノ如キノ結果ヲ收ムルニハ其卒スル所ノ兵力決シテ強衆ニ過クル
 ト謂フヲナシ故ニ苟モ應用スヘキ兵隊アレハ必ス之ヲ戰場ニ引卒シ
 以テ一人ヲモ遺欠ス可ラス蓋シ拿破侖ノ言ノ如ク僅ニ一大隊ノ力能
 ク全軍ノ勝敗ヲ決スルヲアルヲ以テ寡弱ナル敵軍ニ對シテモ斷然全
 カチ用ユヘキナリ二世佛黎德律曰凡ソ兵力ヲ分離スレハ必ス各部各
 別ニ擊破セラル是レ古來ヨリノ規則ニシテ予ノ常ニ復習セシムル所
 ナリ卿等本戦ニ臨ミテハ勉メテ全兵力ヲ聯合スヘシ蓋シ戰場ヨリモ
 有益ニ兵隊ヲ用ユヘキ處決シテ之レアラサルナリ實驗ニ因ルニ古ヨ
 リ此原則ニ背反スル者常ニ危殆ノ地位ニ陷ラサルナシ

佛國共和戦及ヒ其以前ノ戦役ニ於テ此原則ヲ活用シタル兵將ノ僅少
 ナルハ前文第三部第一章之ヲ説述シタリ而シテ戦争ヲ交ユルニ當リ

其兵力未離散セシ主將ハ果シテ如何ノ不利ヲ被フリタルヤ亦既ニ論陳シタル所ナリ

然レトモ論説ヲ確實ニスル爲メ以下更ニ適切ノ數證例ヲ引證セントス

千七百九十六年八月卅一日佛將就爾檀ハ僅ニ其軍ノ一部ヲ將テWurtz-burgニ進ミ而シテ殆ント全軍ノ四分一二相當スル將官魯非伯爾ノ師

團ヲSchweinfurtニ停メ萊尼河ノ交通線ヲ保護セシメ其相隔ル十里トス就爾檀ハ敵軍ノ占領スルWurtzburgeノ邊リニ於テ其兵ヲ展開シ以テ戰

ヲ交ヘタリ約美尼曰此ノ如キ陣地ハ決シテ保守ス可ラス就爾檀ハ其諸師團ヲ集合シ得ヘキ戰場ヲ選ヒ全軍ヲ一括シテ戰爭シ且同時ニ其

交通線ヲ保護セサル可ラス是レ戒慎ノ要求スル所ナリト那翁曰ク就爾檀ハ敵ノ擊破スル所ト爲リタリ當時若シ更ニ魯非伯爾ノ師團アリ

シハハ勝利ヲ得タルヲ疑ナシト

千七百九十九年九月十八日約克公ハ太將伯魯約ノ指揮スル牙羅巴太

禹ノ軍ヲ攻メ之ヲシテAlkmaerノ陣地ヲ委棄セシメント欲シタリ因

テ其將亞伯克倫比ヲHooftニ遣ハシ一萬二千人ヲ卒ヒテ十九日中此陣

地ヲ迂廻セシメ而シテ同時ニ親カラ之ヲ正面ヨリ攻撃セリ然ルニ公

ハ却テ敵ノ爲メニBergenニ破ラレ亞伯克倫比ハHooftニ在テ毫モ爲

ス所アラザリキ

拿破倫曰約克公ハBergenニ於テ勝ツヘキノ戰ヲ失フタリ是レ前日公

ハ牙羅巴太禹ノ軍ヲ迂廻セシメンカ爲メ其兵力ノ三分一ヲ割テ亞伯

克倫比ニ付シHooftニ遣ハシタルニ因ル十九日ノ本戰ニ於テ亞伯克

倫比ハ戰場ヲ距ル七里Hooftニ舍營セリ公若シ戰ニ與カラシメサル

ガシメサルヤ此ノ如キノ枝隊ハ皆戦争ノ規則ニ背反スル者トスト
 千七百九十九年佛將賞平内ノAlpes山ニ於テ指揮シタル軍ハ兵力大ニ
 奥軍ニ勝レリト雖モ Posano 及ヒ Genova ニ於テ破碎セラレタリ何トナ
 レハ賞平内僅ニ其全軍ノ四分一ノミヲ戰場ニ引卒シ其兵力却テ奥軍
 ニ劣リタレハナリ其用兵ノ拙劣ナルカ爲メ佛軍ハ Alpes 及 Apeninus
 南山脉ノ南坂ニ退ケラレ Ocheノ陣地ヲ失フタリ
 千八百年佛將摩爾ハ賞平内ノ如キ著大ノ遺失ヲ行ハサリシト雖モ亦
 敵ニ劣ルノ兵力ヲ以テ戦ヲ交ヘタリ蓋シ摩爾ノ卒ユル所十二萬人ニ
 シテ敵將屈烈ノ卒ユル所ハ僅ニ九萬人ナリ然ルニ摩爾ハ全軍ヲ集合
 シテ協力戦闘スル能ハサリキ

五月二日摩爾ハ右翼ヲ Hohenwielニ預備隊カ NeuKirchノ北ニ中軍ヲ Schi-
 ingenニ左翼ヲ Neustadtニ配置ス三日其將魯孤伯ニ命シ右翼ヲ卒テ Sto-

kachニ向ハシメ親カラ豫備ニ將トシテ Engenニ赴ク魯孤伯ハ一萬ニ
 千余人ヲ卒ヒテ Stokachヲ守備スル敵將窩德門公ヲ撃テ大ニ之ヲ破リ
 テ Moeskirchニ退ケタリ

摩爾ハ預備三萬及ヒ其將哈士波爾ノ騎兵ヲ卒ヒテ Engenニ來リ敵將
 屈萊ニ遭フ屈萊ハ既ニ四萬五千ノ兵ヲ集合シテ之ヲ迎撃ス故ニ佛軍
 ハ終日殊死苦戦ス幸ニシテ給維翁聖西爾中軍ヲ卒ヒテ來援スルニ會
 ヒ僅ニ全敗ヲ免レタリ是ヨリ先キ聖西爾ハ Engenヲ距ル八里ノ所ニ
 在リ行軍間非地難公ノ爲メニ攻撃セラレ Orlins 及ヒ Volhausニ交戦シ
 大ニ其行進ヲ阻礙セラレタリ故ニ其戰場ニ到達スルヲ得タルハ纔ニ
 午後六時ニシテ加フルニ其引卒シタル兵力ハ其全方ノ一部分ニ過キ
 サリキ然レモ其來援ノ勢力ト Stokachニ於ケル窩德門公ノ敗報トニ
 ヨリ屈萊ハ大ニ其策線ヲ憂慮シ意ヲ決シテ Moeskirchニ退據セリ而シ

テ屈萊ハ此府ノ近傍ニ占陣シ非地難日鳥烈窩德門ノ三將ヲ集合シテ
大ニ其兵力ヲ聚中シタリ

四日摩爾ハ其陣地ニ駐在シ五日魯孤伯ヲ Moeskirch ヲ維維翁聖西爾ヲ
Lipingen Honsteten 及 Engingen ニ發遣ス摩爾ハ以爲ラク埃ノ本軍ハ多惱
ヲ渡リテ遁逃シ Moeskirch ニ於テハ復々敵兵ヲ見ル能ハサルヘント因
テ魯孤伯ヲシテ未明ニ其舍營ヲ發セシノ午前九時ノ候既ニ Moeskirch
ノ近傍ニ到ル然ルニ此府ニ於テ忽チ敵ノ衆力ニ遭遇シ須臾ニ一場ノ
劇戰ヲ交ヘタリ摩爾ハ右翼ノ砲聲ヲ聞テ戰アルヲ知リ始テ其預備軍
ニ命シ往テ之ヲ援ハシム然レモ摩爾ハ再ヒ重大ノ過誤ヲ犯シ其預備
軍ノ各師團ヲシテ逐次ニ行進シ互ニ過大ノ距離ヲ採ラシノタリ故ニ
各師團ハ各別逐次ニ戰場ニ到着シ預備軍全力ハ日暮ノ候ニ至ラセレ
ハ戰場ニ集合スルヲ得サルナリ當日聖蘇山納ノ師團ハ Geisingen ニ在

リ中軍及ヒ左翼ハ遂ニ戰爭ニ與カルヲ得サリキ是ヲ以テ佛軍ノ兵力
ハ右翼及ヒ預備軍ノ六師團ノミニ過キス衆寡隔絶スル大敵ニ當リ加
之其右翼師團ハ午前半日餘全ク孤立シテ敵軍ニ抗抵シ不測ノ危害ヲ
被ソレリ佛軍此ノ如キ不當ノ戰爭ニ於テ能ク敵軍ヲ支撐シ得タルハ
一ニ其士卒ノ勇健ナルニ因ル

故ニ摩爾ハ寡弱ノ兵力ヲ以テ不慮ノ血戰ヲ交ルヲ二回ニシテ其結果
ニ於テハ毫モ得ル所ナシ若シ當初ヨリシテ速ニ其全力ヲ右翼ニ集合
セシナレハ敵軍ノ未タ集合セサルニ乘シテ不意ニ之ヲ攻襲シ衆ヲ以
テ寡ヲ粉碎シタルヲ疑ナシ
其後戰爭ヲ再始スルニ及ヒテモ摩爾ノ作戰法ハ亦觀ルニ足ルモノナ
シ當時摩爾ハ本書第四部第二章ニ述ヘタル如ク「エ川ノ左岸ニ陣セ
リ然ルニ Amphigノ戰ニ於テ始メテ其兵力分散ノ極メテ危險ナルヲ察

シ急ニ之レテ一地ニ聚中セント欲シ聖蘇山納ヲ Festungニ魯孤伯ヲ
 Ebersbergニ招キ其餘ノ師團モ亦盡ク之ヲ Hohenindenノ方ニ移セリ此運
 動ハ距離隔絶スルカ爲メ十二月五日ヲ過ルニアラサレハ之ヲ終ルヲ
 得ス然ルニ埃ノ親王約翰ハ十二月三日ヲ以テ麼鹵ヲ攻撃セリ故ニ佛
 軍ノ駭中計畫ハ遂ニ無益ニ屬シ魯孤伯聖蘇山納ノ兩師團ハ本戰ニ與
 カルヲ得ス佛軍十二師團中總ニ其一半即チ六師團ノミ埃ノ全軍ニ對
 シテ戰フタリ拿破侖曰此時戰場ニ於テ相對抗シタル兵力ハ埃佛同等
 ニシテ互ニ七万人ヲ算セリ埃將約翰ハ其全力ヲ盡シ復タ他ニ之ヲ得
 ルノ方法ナカリシト雖麼鹵ハ二倍ノ兵力ヲ有スルヲ得タリシト馬爾
 門曰麼鹵ハ僅ニ其兵力ノ一部ヲ以テ戰闘シタリ故ニ麼鹵ハ理ニ於テ
 必敗ヲ免ルハ能ハサルナリト
 麼鹵ハ竟モ本戰ノ計畫ヲ爲スコトナク唯守勢ヲ執リテ其招集シタル援

軍ノ來着ヲ坐待セリ然ルニ其將里朱凡士 Miltienbett 森林ニ於テ偶然
 埃ノ本軍ノ大砲輻重ニ邂逅シテ之レヲ擊破シタリ之ニヨリ麼鹵ハ意
 外ノ戰勝ヲ博シ必敗ヲ免ルハヲ得タリ
 當時若シ埃ノ親王 Ampfungノ戰後直ニ麼鹵ニ向テ進ミ十二月二日ヲ以
 テ之ヲ攻撃セシ片ハ後文攻撃點撰定ノ章ニ於テ之ヲ解明スル如ク必
 ス麼鹵ヲ蹂躪スルヲ得タリシナルハシ
 古名將ト雖時トシテ此ノ如キ過失ヲ行ヒシコアリ夫ノ拿破侖ノ如キ
 戰場ニ於テ兵力ヲ駭中スルノ原則ハ屢人ニ訓諭シ且常ニ自ラ實施ス
 ル所ナリ然レモ千八百年ノ戰役ニ於テハ大ニ其兵力ヲ分散シタリ約
 美尼曰 Marengoノ戰ハ結果極メテ偉大ナリシト雖交戰ノ方法ヨリシテ
 之ヲ論スル片ハ最モ原則ニ背違シタルモノナリト
 拿破侖ノ伊太利ニ下ルヤ五萬七千ノ兵力ヲ領シタリ其二萬九千ハ門